

八幡市
地域福祉に関するアンケート調査
結果報告書

平成 29 年3月

八 幡 市

社会福祉法人 八幡市社会福祉協議会

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 配布・回収結果	1
4. 報告書の見方	2
II 調査結果のまとめ	3
1. 定住意向と理由 [調査票/問9(1)～(3)]	3
2. 相談相手(場所)と情報入手先 [調査票/問10、11、18、19、21]	5
3. 地域の認識とかかわり [調査票/問12～16]	6
4. 地域活動等への参加状況と参加意向 [調査票/問17(1)～(3)]	8
5. 活動意向のある分野と関わり方 [調査票/問17(4)～(5)]	10
III 調査結果	12
1. あなた自身のことについて	12
2. あなたの暮らしや近所付き合いについて	18
3. まちの安心や幸せにつながる活動について	44
IV 自由回答	81

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、計画の見直しにあたり、市民の地域やまちづくりへの思いや意見、自主的な活動の実態や意向を把握し、施策検討の基礎資料とするために実施しました。

2. 調査概要

- 調査地域 : 八幡市全域
- 調査対象 : 市内在住の20歳以上の個人
- 抽出数 : 2,000人
- 抽出方法 : 無作為抽出
- 調査期間 : 平成29年1月13日(金)～1月30日(月)
- 調査方法 : 郵送配布・回収

3. 配布・回収結果

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
地域福祉に関するアンケート調査	2,000	883	44.2%

4. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効回収数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「不明・無回答」とは、回答が示されていない、または、回答の判別が困難なものです。
- グラフおよび表のN数（number of case）、「対象者数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 割合「%」を比較する場合、それぞれの母数が異なる場合があるため、「ポイント」で差を示しています。【例：A=50%、B=40%の場合、AがBより10ポイント高い】
- 文章中で表記している「割」について、以下のように整理しています。

文章中の表記の例	3割	3割台前半	3割台半ば	3割台後半
グラフ内の値	30.0%のみ	30.0%~33.9%	34.0%~35.9%	36.0%~39.9%

- 「前回調査」は「八幡市の地域福祉についてのアンケート調査結果報告書」（平成24年3月）を資料としています。
- クロス集計における各有効標本数の合計は、年代や地区等の基本属性の質問に回答を得られなかった方がいる場合、全体の有効標本数883件より少なくなります。
例えば、p.6【表3】について、全体の有効標本数N=883に対して、各年代の合計はN=847と、36件の差が生じており、これは年代について回答を得られなかった方（p.12【本調査回答者の年齢構成比】の「不明・無回答」4.1%）がいることによるものです。
- クロス集計の表（複数回答）において、上位1位から3位までに色付け（濃い色ほど順位が高い）をしています。また、標本数が少ない場合（N=40以下）は上位3位の色付け表示および分析は省略しています。なお、クロス集計のグラフ（単数回答）では標本数に関わらず分析を行っています。
- 地区別クロス集計について、八幡長町、八幡樋ノ口および川口高原地区は美豆小学校区（京都市立）となります。
- 「Ⅱ 調査結果のまとめ」（p.3~11）には、各項目で分析の根拠となる調査結果の問番号とページ数を記載しています。

II 調査結果のまとめ

1. 定住意向と理由 [調査票/問9(1)～(3)]

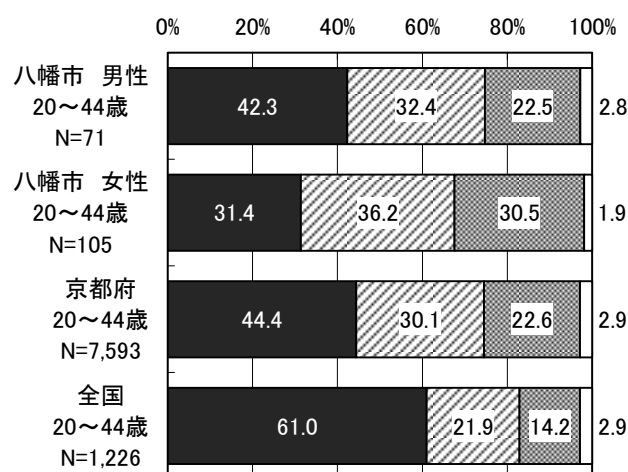
- 大半の人が定住意向を示しているが、20代、30代の定住意向は低い。
- 「京都府少子化要因実態調査」では八幡市民の定住意向は高くない。
- 定住地の評価基準として買い物・通勤の便のよさが重要であるが、20代では治安が悪いこと、40代、50代では福祉が充実していないことを定住したくない理由とする割合も高い。

[p.18～20/問9(1) あなたは、これからも現在住んでいるところに住み続けたいと思いませんか]

これからも現在住んでいるところに「住み続けたい」割合は全体で8割台前半と、多くの人が定住意向を示しています。定住意向は年代や居住年数に比例して割合が高くなる傾向があり、住みはじめて5年に満たない人の定住意向は5割台後半と低くなっています。

本調査においては、全体の8割台前半が、20代では4割台後半、30代では6割台前半、40代では8割台前半が定住意向を示していますが、「京都府少子化要因実態調査」による20～44歳の定住意向(表1)をみると、「住んでいたい」が八幡市の男性42.3%、女性31.4%といずれも京都府、全国より低くなっており、若い世代において“定住意向が高い”とは言い難い結果となっています。

(表1)
【定住意向の八幡市、府、国の比較(京都府調査)】



■ 住んでいたい □ どちらでもよい
 ■ 移りたい(移る予定) □ 無回答

資料「京都府少子化要因実態調査」京都府民意調査
 および全国意識調査 平成27年3月(京都府)

〔p. 21～23／問9（2）住みたいと思うのはなぜですか〕

〔p. 24～25／問9（3）住みたいたくないと思うのはなぜですか〕

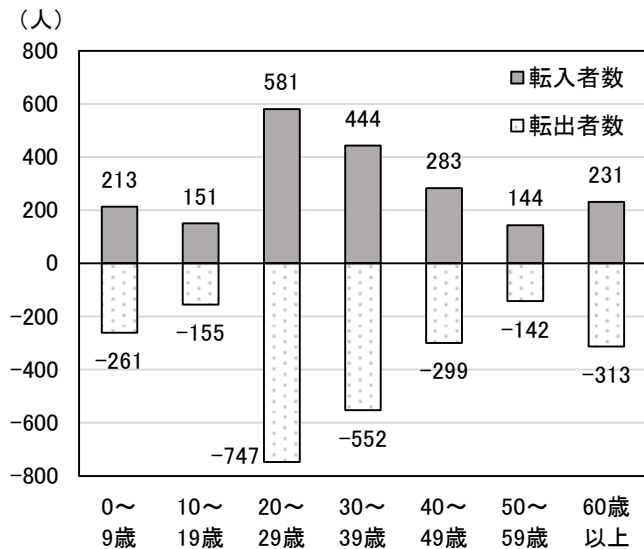
「住みたい」を選択した理由は「自分の土地や家があるから」が7割前半と特に高く、一戸建て居住者でその傾向が強くなっています。また、買い物や通勤の便に関することが「住みたい」において上位2位、「住みたいたくない」において上位1位と、ともに高くなっており、定住地の評価基準として重要な事項となっています。

「住みたいたくない」理由を詳しくみると、上位2位は「治安が悪く、安心して住めないから」で、特に20代、30代の割合が高くなっており、繁華街や駅周辺など人や交通量が多い場所の利用頻度が高い年代であることが影響していると推測されます。また、「福祉や相談体制が充実していないから」は全体で1割前半と高くないものの、介護等で福祉との関わりが出てくる40代では2割前半で選択理由の上位2位、50代では1割後半で選択理由の上位3位となっています。

八幡市の転入転出の状況（表2）をみると20代、30代の転出が多くなっており、安全・安心な街や地域づくりが求められます。

（表2）

【平成27年 八幡市の転入転出の状況】



資料「住民基本台帳人口移動報告」

2. 相談相手（場所）と情報入手先 [調査票／問 10、11、18、19、21]

- 相談や福祉の情報入手においてインターネットを利用するのは50代以下が多い。
- ひとり暮らし世帯は相談につながりにくい傾向がある。
- 若い年代の団体・機関の認知度が低い。

[p. 26～27／問 10 あなたには、困ったことがあった場合に話し合ったり、相談できる相手・場所はありますか]

[p. 28～30／問 11 あなたは、福祉活動や福祉サービスに関する情報を主にどこから入手していますか]

困った時の相談相手は「家族・親族」「友人・知人」がすべての年代で上位1位、2位となっています。50代以下では「インターネット」が上位3位で、特に20代が2割台前半と利用率が高くなっています。また、「市役所・社会福祉協議会」は60代以上で上位3位と、介護保険などといった福祉や保健等の関わりが濃くなる世代に相談先として活用されています。なお、全体で「相談する人や場所がない」は2.5%、「どこに相談したらよいかわからない」は1.5%とわずかであるものの、ひとり暮らし世帯でやや割合が高く相談につながりにくい傾向がうかがえます。

福祉活動や福祉サービスに関する情報の入手先は、「インターネット」以外のすべてで、年代が上がるほど割合が高くなっており、入手先の選択肢が多くなっていることがうかがえます。また、20代では「インターネット」が3割台前半と高い一方で、他の年代に比べて「入手先がわからない」人も多くなっています。

[p. 71～80／問 21 八幡市の団体や機関等をご存知ですか]

八幡市の団体・機関等の認識について、年代が上がるほど団体・機関の認知度は上がる傾向にあり、20代、30代は子育て支援センター以外のすべてで、全体の認知度を下回っています。若い世代も含めて、福祉的な問題を抱えたときに、普段、情報を必要としていない人でも、気軽に情報にアクセスできるような情報提供のあり方が求められます。また、利用者層が限定されている、地域包括支援センター（高齢者や介護が必要な方がいる家族）や障がい者生活支援センター「やまびこ」（障がいのある方がいる家族）、子育て支援センター（乳幼児がいる家族）、ボランティア活動センター、市民協働活動センター（活動参加者〈地域活動やボランティア活動に参加している人〉）は、各利用者層の認知度はそれ以外の層よりも高くなっているものの、「知らない」人もいる状況です。特に、活動参加者のうち、ボランティア活動センターは3割台前半、市民協働活動センターは5割台前半が「知らない」と回答しており、さらなる周知が求められます。

[p. 65～66／問 18 あなたは、社会福祉協議会をご存知ですか]

[p. 67～68／問 19 あなたが感じている社会福祉協議会の組織としてのイメージは、次のうちのどれですか]

社会福祉協議会については、認知度（「知っている」割合）が2割台半ばと、前回調査結果を上回っている一方、組織に「市（行政機関）の一部の組織」「市（行政機関）の外郭団体」とイメージを持つ人があわせて4割台後半と前回調査結果を上回っています。認知度は向上したものの、「社会福祉法人」「住民によって組織された民間の自主的な団体」といったようなイメージを持つ人の割合は低下しており、活動内容の周知や参加のすそ野を広げていくことが必要です。

3. 地域の認識とかかわり 〔調査票／問 12～16〕

- 自治会・町内会の範囲を地域であると認識している人が多いが、若い人ほど八幡市全域、小学校区と広い範囲を地域である認識している。
- 近所との関わりの深さに応じて近所付き合いをしている人数は少なくなる。近所付き合いのある人がいない人は全体の 5.9%いる。
- 近所に気になることがある人は 1 割台半ば程度いる。
- 近所で困っている方がいた場合、何かしらの手助けができる人が 8 割以上いる。声かけや災害時支援といった手助けしてほしい内容は、多くの方が手助けできることとしてあげている。

〔p. 31～32／問 12 あなたにとって、「地域」とはどの範囲を言いますか〕

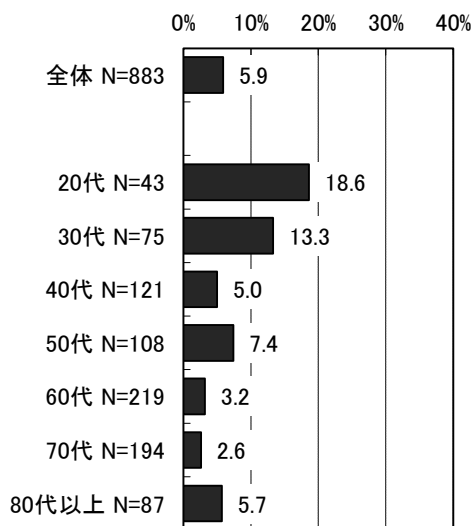
地域の範囲の認識は、「自治会・町内会など」が全体で 4 割台前半と高くなっているものの、20 代の上位 1 位は「八幡市全域」、30 代、40 代は「小学校区」、50 代以上では「自治会・町内会など」となっており、年代が上がるにつれ範囲が狭くなる傾向があります。定住意向やこうした結果とあわせて、年代が上がるほど、地域の中で人間関係が築かれていることが推測されます。

〔p. 33～36／問 13 あなたには、ふだん近所で付き合いをしている人は何人くらいいますか〕

近所付き合いをしている人は、『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』が 1 人以上いる人が 8 割台前半、『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』が 1 人以上いる人が 6 割台後半、『①互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』が 1 人以上いる人が 3 割台後半と、関わりの深さに応じて人数が少なくなっています。また、①②③いずれにおいても「あてはまる人がいない」割合（表 3）は全体で 5.9%であり、20 代、30 代で高くなっており、生活支援を必要としておらず、地域への関心が低い傾向がうかがえます。

（表 3）

問 13 近所付き合いのある人がいない人（①②③すべて「あてはまる人がいない」）年代別



〔p. 37～38／問 14（1） あなたのご近所で気になることがありますか〕

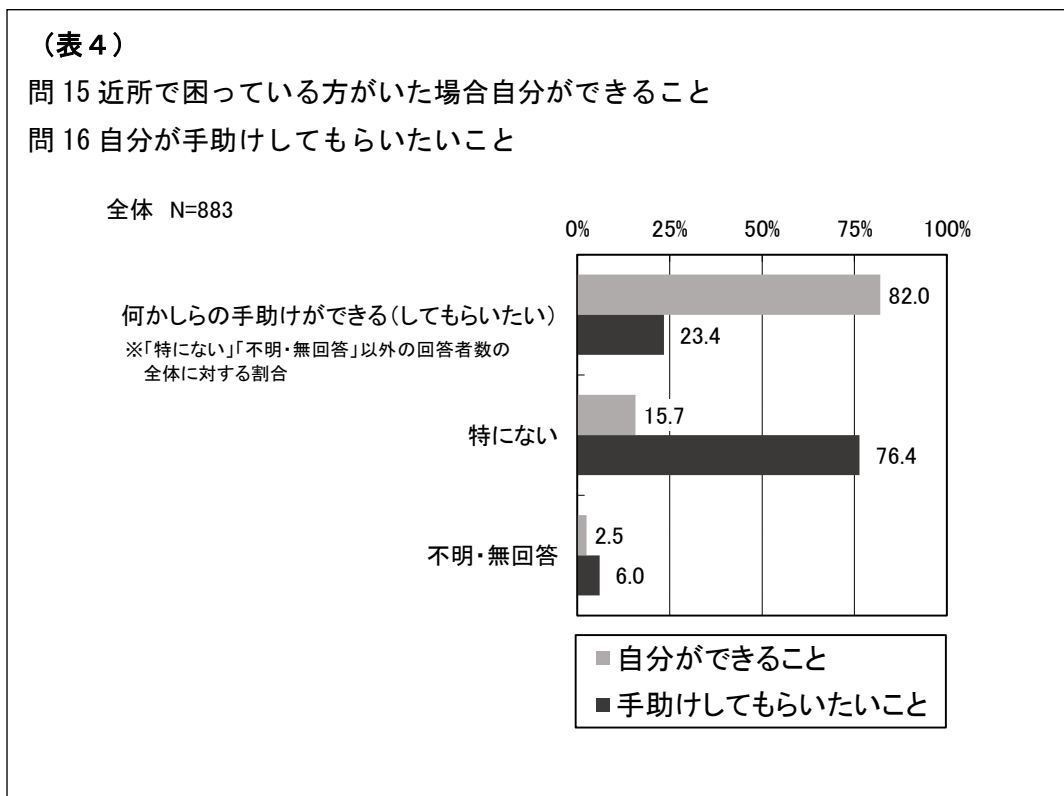
〔p. 39／問 14（2） ご近所で気になることは、どのようなことですか〕

1割台半ばの人が近所に気になることが「ある」と回答しており、南山小学校区、美濃山小学校区、美豆小学校区で2割台とやや高くなっています。気になることは、選択肢では「最近姿を見なくなった」「ゴミがたまっている」割合が比較的高いものの、半数がその他として、空家や駐車に関すること、騒音問題などといった多岐にわたる状況を記入しています。

〔p. 40～42／問 15 ご近所で困っている方がおられた場合、あなたにできることはどのようなことですか〕

〔p. 40～43／問 16 あなたが今の生活で、ご近所の方から手助けしてもらいたいことはありますか〕

近所で困っている方がいた場合できること（表4）として、「特にない」「不明・無回答」を除くと、8割以上の方が何かしらの手助けができると回答しています。また、声かけや避難の手助けについては、手助けしてもらいたいことだけでなく、できることとしても割合が高くなっており、身近な地域で生活や災害時支援を行う関係および環境づくりが必要であると考えられます。



4. 地域活動等への参加状況と参加意向 [調査票/問17(1)～(3)]

- 地域活動等の『活動層』は1割台後半。『無関心層』は全体の3割台後半。
- 20代の『活動層』はわずかだが、「平成28年度京都府民の意識調査」と比較すると壮年層でも『活動層』は多くない。
- 『興味あり非活動層』は非就業者より就業者で高く、就業者の約4分の1が参加意向を示している。
- 活動のきっかけは、団体等の呼びかけであり、参加により新たな人とのつながりによるこびを感じている人が多いが、若年層では社会貢献できることを利点と感じている。

[p.44～45/問17(1) あなたは現在、地域活動やボランティア活動に参加していますか]

地域活動やボランティア活動に「参加している」という『活動層』、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」という『経験あり非活動層』、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」という『興味あり非活動層』はともに1割台後半、「まったく参加したことはないが、今後も参加したいとは思わない」という『無関心層』は3割台後半と、全体では『無関心層』が最も高くなっています。

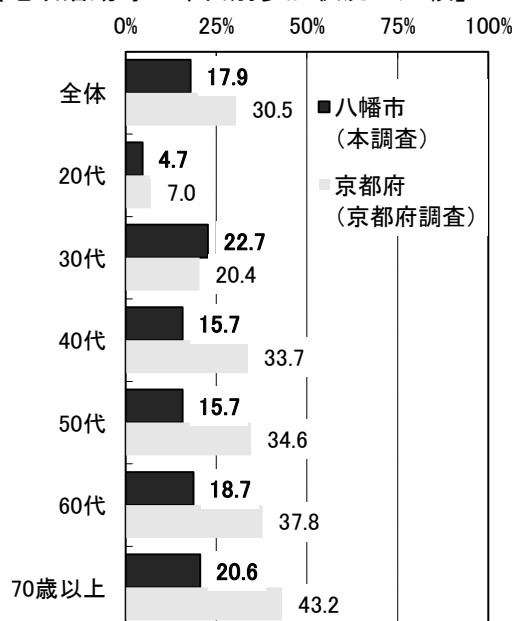
20代では『活動層』の割合が特に低くなっていますが、30代では2割台前半と70代と並んで高くなっており、子育てを機とした活動への参加が推測されます。60代以下では『興味あり非活動層』が1割台後半から2割台半ばであるのに対し、70代以上では1割未満と低く、活動へ新規で参加する意向が低いことがうかがえます。

一方、地域活動等の参加状況について、「平成28年度京都府民の意識調査」(表5)では“地域課題に対応する活動”と限定しているにも関わらず、京都府全体の3割台前半が『活動層』となっています。また、同調査でも20代が1割未満と低くなっていますが、40代以上の年代の活動割合で本調査と差がでており、壮年層への働きかけも必要であることがうかがえます。

また、就業状況と参加状況の関係をみると、『活動層』は非就業者の方が高くなっているものの、『興味あり非活動層』は就業者が2割台半ばと、非就業者の1割台前半を上回っており、活動はしていないが地域活動に関心があるのは、非就業者より就業者の方が高い割合であることが明らかとなりました。

(表5)

【地域活動等の年代別参加状況の比較】



資料：京都府調査「平成28年度京都府民の意識調査」

※八幡市(本調査)は問17(1)「参加している」割合

〔p.46／問17（2） あなたが地域活動やボランティア活動をはじめたきっかけはなんですか〕

〔p.47／問17（3） あなたが地域活動やボランティア活動に参加して、よかったと思う点はどのようなことですか〕

地域活動やボランティア活動をはじめたのは「自治会やボランティア団体の呼びかけ」があったからという理由が全体では第1位となっていますが、60代以上では「自分の自発的な意思で」が4割台前半で第1位となっています。

また、参加して「新たな人とのつながりができた」ことがよかったと思う人が6割台前半と特に高くなっています。20、30代では「社会の役に立てることに喜びを感じた」が3割台前半と、他の年代より高くなっています。なお、高齢者層では自発的に活動に参加し、人とのつながりや仲間づくりによろこびを感じている人が多く、若年層では人とのつながりとともに社会貢献できることによろこびを感じている人が多いことがうかがえます。

5. 活動意向のある分野と関わり方 [調査票/問17(4)～(5)]

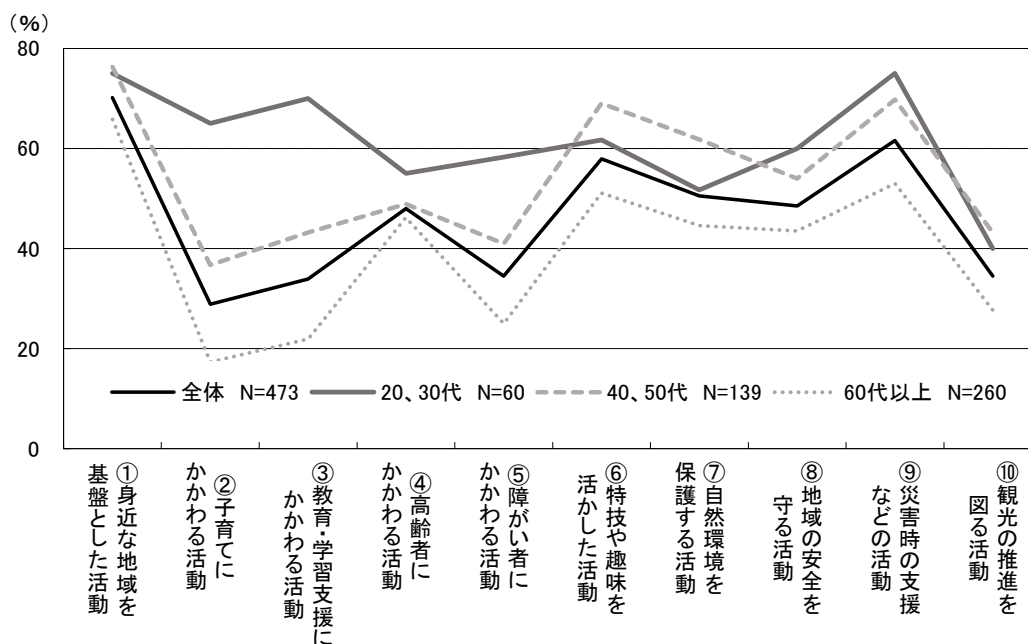
- 身近な地域を基盤とした活動や災害時の支援の活動への参加意向が高い。
- 20、30代はあらゆる分野の活動に参加意向を示しており、特に子育て、教育・学習支援にかかわる活動で参加意向が高い。
- 特定の団体への所属意向は低い。
- 関わり方として、講座や研修を受け、自分の経験や知識を活かしつつ、特定の団体に縛られず、多様な年代と、経済的に負担にならないよう活動に参加したい、という意向が見受けられる。

[p. 48～58/問17(4) あなたが参加してみたい活動はありますか]

『活動層』『経験あり非活動層』『興味あり非活動層』に参加意向のある活動(表6)を聞いたところ、①身近な地域を基盤とした活動、⑨災害時の支援などの活動への参加意向(「継続的に参加したい」「単発的に参加したい」の合計)が高くなっていました。20、30代はすべての活動への参加意向が全体を上回っており、特に②子育てにかかわる活動、③教育・学習支援にかかわる活動において参加意向が大きく上回っています。また、『興味あり非活動層』は単発的な活動への参加意向が高く、『経験あり非活動層』は参加意向がない割合が高くなっていきます。

(表6)

問17(4) 参加してみたい活動 年代別参加意向

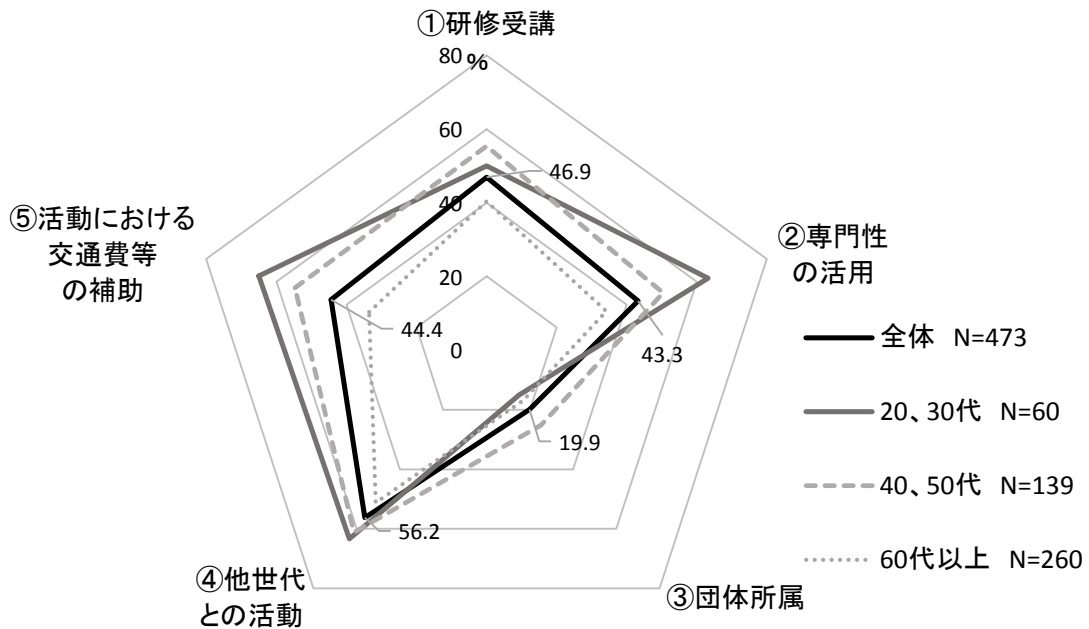


[p. 59～64 / 問 17 (5) あなたは今後、地域活動やボランティア活動にどのような関わり方をしたいと思いますか]

活動への関わり方(表7)として、①研修受講(講座や研修を受けてから活動したい)、②専門性の活用(スキルや専門性を活かして活動したい)、④他世代との活動(多様な年代の仲間と活動したい)、⑤活動における交通費等の補助(交通費や経費等の補助のある活動に参加したい)は意向ありが意向なしを上回っており、③団体所属(特定の団体に所属して活動したい)だけが意向なしの方が高くなっていました。20、30代では②専門性の活用、⑤活動における交通費等の補助が、40、50代では①研修受講への意向が他の年代と比較して高くなっています。このような結果から、例えば、学生や学校を卒業して間もない若者が、小学生の学習支援活動に参加したり、働いている壮年層が参加前にスタートアップ研修等を受講しつつ、興味のある活動と出会う機会づくりを行ったりすることが、『活動層』増加策として考えられます。

(表7)

問 17 (5) 活動への関わり方 年代別意向



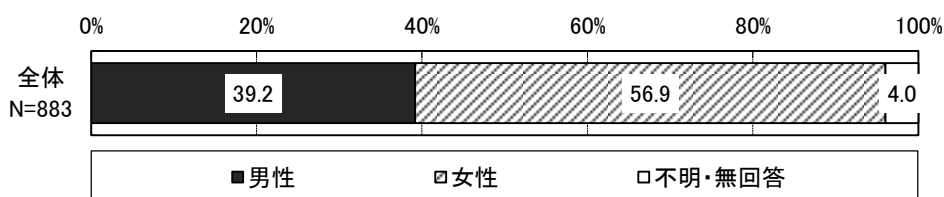
III 調査結果

1. あなた自身のことについて

〔調査票／問1 単数回答〕

あなたの性別は、どちらですか。

回答者の性別は、「男性」が39.2%、「女性」が56.9%となっています。



〔調査票／問2 単数回答〕

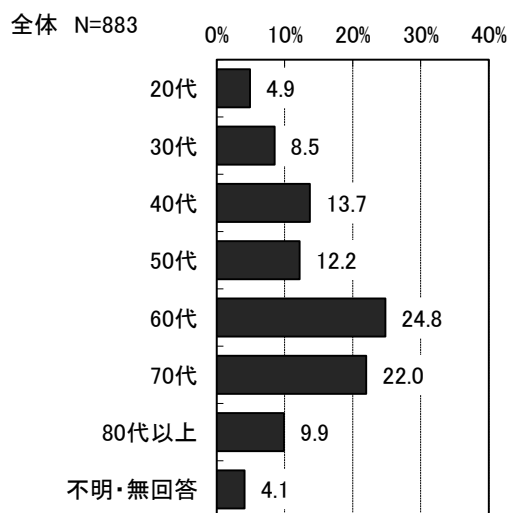
あなたは、どの年代にあてはまりますか。(平成29年1月1日現在)

回答者の年代は「60代」が24.8%と最も高く、次いで「70代」が22.0%、「40代」が13.7%となっています。

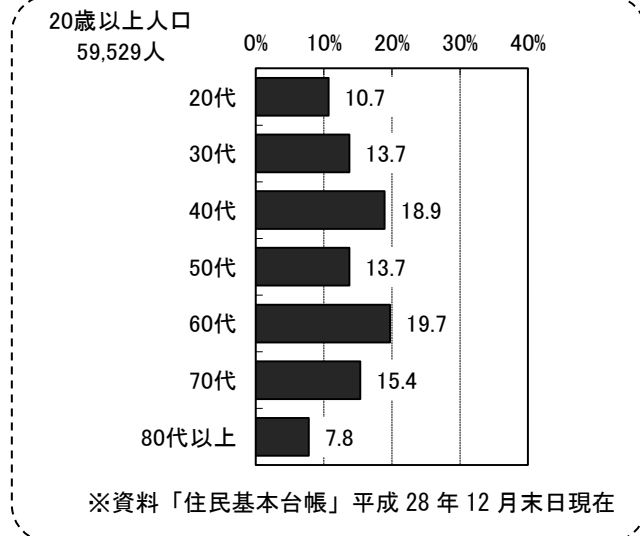
住民基本台帳による本市の20歳以上の人口年齢構成比と比較すると、50代以下の年齢においては、構成比よりも低いポイントとなっており、60代以上では構成比よりも高いポイントとなっています。

また、人口構成比の上位3項目は「60代」「40代」「70代」で、その合計は54.0%、本調査の回答者の年代上位3項目は「60代」「70代」「40代」で、その合計は60.5%となっており、人口構成比と相関のある調査結果となっています。

本調査回答者の年齢構成比



【八幡市20歳以上人口 年齢構成比】



〔調査票／問2 × 地区別〕

あなたは、どの年代にあてはまりますか。(平成29年1月1日現在)

地区別に回答者年代をみると、『八幡小学校区』『くすのき小学校区』『さくら小学校区』『橋本小学校区』『中央小学校区』『南山小学校区』において「60代」が最も高く、次いで「70代」が2番目（あるいは同率で1番目）となっています。また、『美濃山小学校区』では「40代」が32.6%と最も高く、次いで「30代」が19.1%となっています。

		(対象者数)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無不明答・
地区別	八幡小学校区	150	4.0	10.7	10.7	10.7	25.3	25.3	13.3	0.0
	くすのき小学校区	146	5.5	6.8	12.3	9.6	32.9	22.6	9.6	0.7
	さくら小学校区	119	4.2	5.0	12.6	15.1	27.7	27.7	7.6	0.0
	橋本小学校区	158	4.4	7.6	15.2	12.7	25.9	22.8	11.4	0.0
	有都小学校区	36	2.8	2.8	11.1	16.7	27.8	22.2	16.7	0.0
	中央小学校区	49	12.2	8.2	10.2	14.3	20.4	18.4	16.3	0.0
	南山小学校区	67	6.0	9.0	9.0	17.9	29.9	20.9	7.5	0.0
	美濃山小学校区	89	3.4	19.1	32.6	13.5	13.5	15.7	2.2	0.0
	美豆小学校区	11	0.0	0.0	27.3	27.3	0.0	36.4	9.1	0.0

(単位:%)

〔調査票／問3 単数回答〕

あなたはどこの小学校区にお住まいですか。

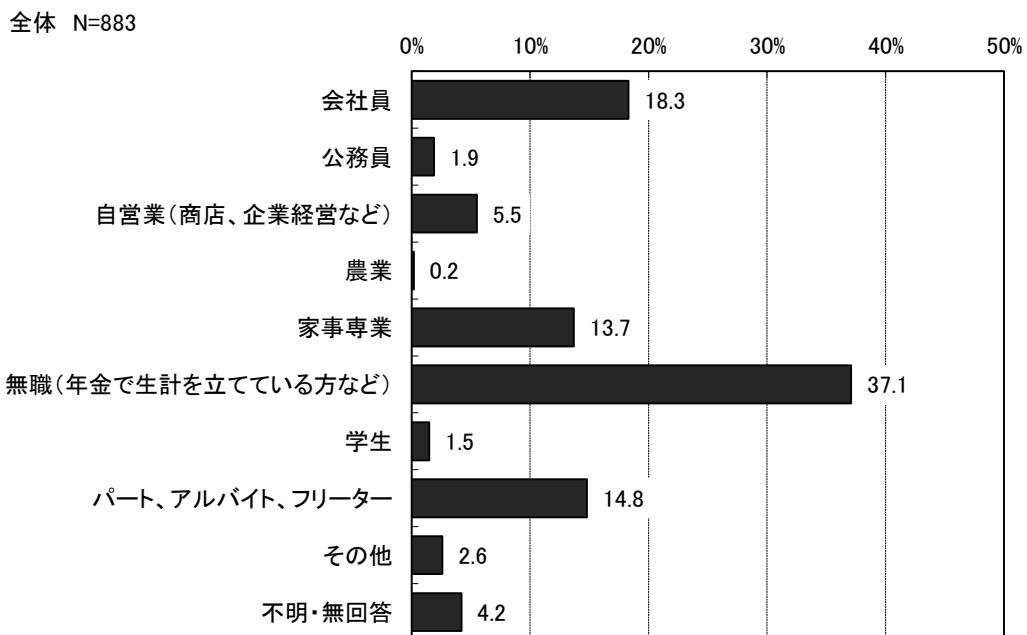
回答者の居住地を、小学校区別にみると、「橋本小学校区」が 17.9%と最も高く、次いで「八幡小学校区」が 17.0%、「くすのき小学校区」が 16.5%となっています。



〔調査票／問4 単数回答〕

あなたの職業は、何ですか。

回答者の職業は「無職（年金で生計を立てている方など）」が 37.1%と最も高く、次いで「会社員」が 18.3%、「パート、アルバイト、フリーター」が 14.8%となっています。

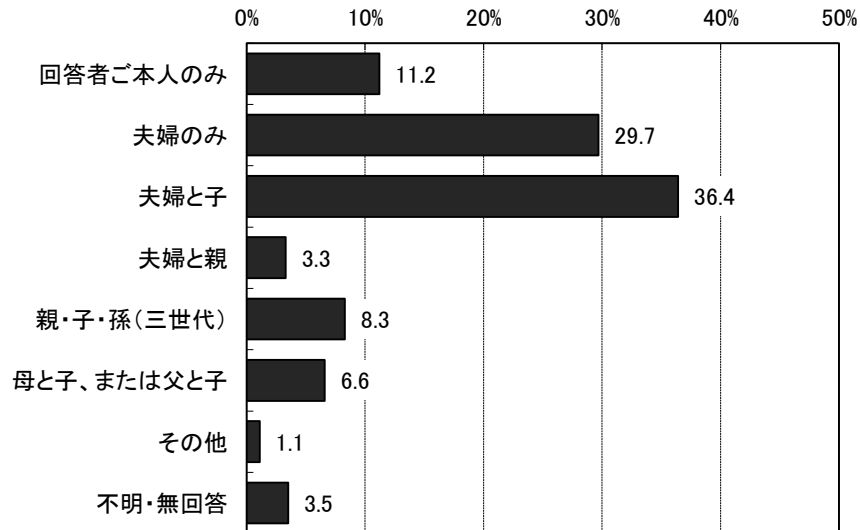


〔調査票／問5 単数回答〕

あなたの家族構成は、次のどれにあてはまりますか。

回答者の家族構成は、「夫婦と子」が36.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が29.7%、「回答者ご本人のみ」が11.2%となっています。

全体 N=883



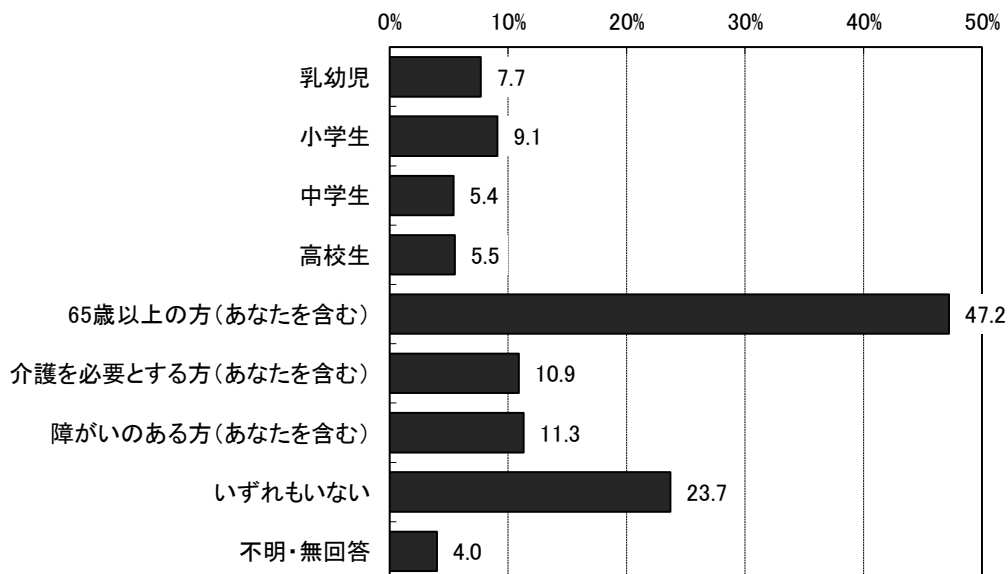
※「親・子・孫（三世代）」には四世代以上含む

〔調査票／問6 複数回答〕

あなたの家族の中で、次のような方（あなた自身を含みます）はおられますか

家族の中に、以下の対象者の有無について、対象者有では、「65歳以上の方（あなたを含む）」が47.2%と最も高く、次いで「障がいのある方（あなたを含む）」が11.3%、「介護を必要とする方（あなたを含む）」が10.9%となっています。また、「いずれもない」が23.7%となっています。

全体 N=883

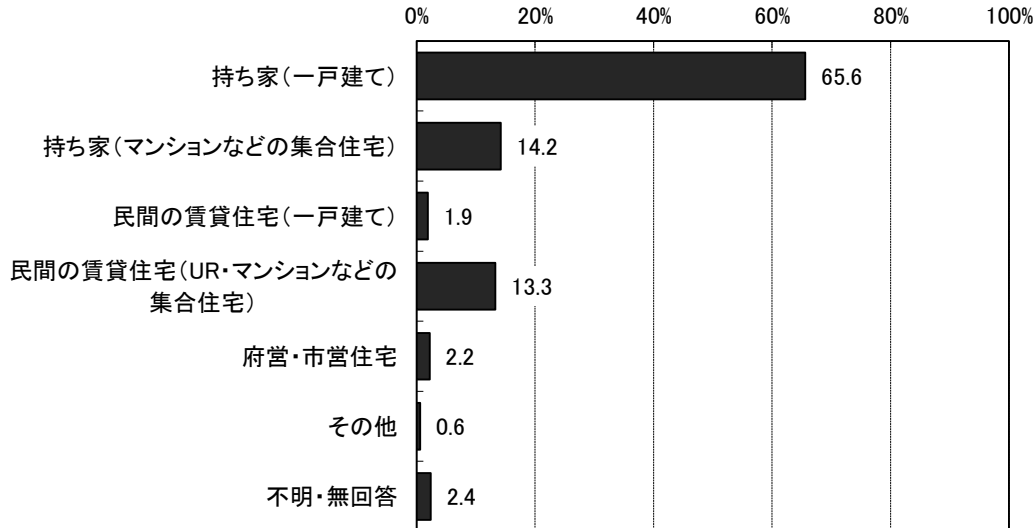


〔調査票／問7 単数回答〕

あなたのお住まいの形態は、次のどれですか。

居住形態は、「持ち家（一戸建て）」が 65.6%と最も高く、次いで「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が 14.2%、「民間の賃貸住宅（UR・マンションなどの集合住宅）」が 13.3%となっています。

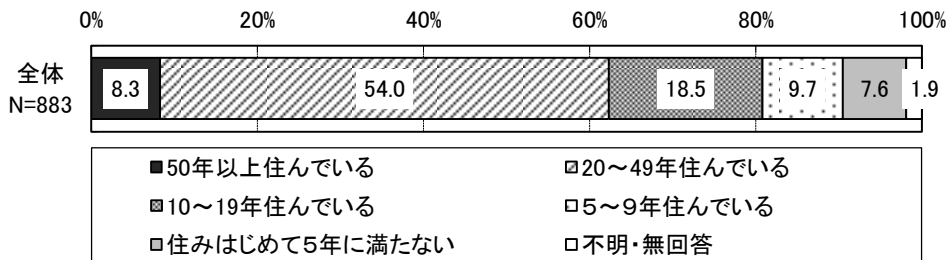
全体 N=883



〔調査票／問8 単数回答〕

あなたは、現在の地域に住むようになってからどのくらいになりますか。

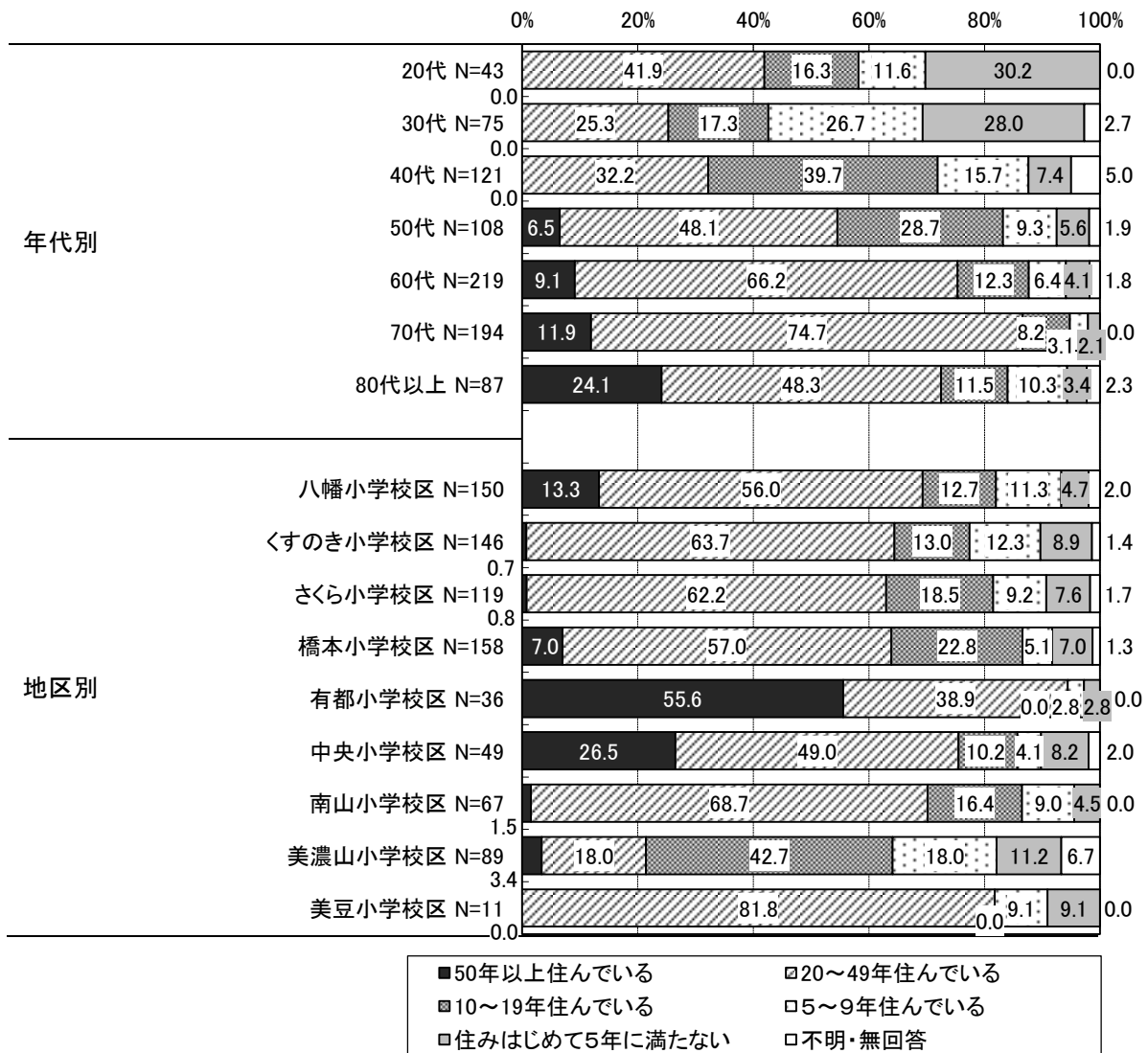
現在の地域の居住歴は「20～49年住んでいる」が 54.0%と最も高く、次いで「10～19年住んでいる」が 18.5%、「5～9年住んでいる」が 9.7%、「50年以上住んでいる」が 8.3%、「住みはじめて5年に満たない」が 7.6%となっています。



【年代別・地区別】

年代別に居住歴をみると、『50代』以上においては「20～49年住んでいる」が最も高く、特に『70代』においては「20年以上住んでいる」（「20～49年住んでいる」と「50年以上住んでいる」の合計）が86.6%と多くの方が居住を続けていることがわかります。また、『20代』においても「20～49年住んでいる」が41.9%と最も高く、育った地域に定住していることがうかがえます。一方で、『30代』においては、「住み始めて5年に満たない」が28.0%、『40代』では「10～19年住んでいる」が39.7%と最も高く、20代後半から30代で本市に居住をはじめている傾向がみられます。

地区別に居住歴をみると、『有都小学校区』では「50年以上住んでいる」が最も高く、55.6%となっています。また、p.13の地区別年代構成で30代、40代が多かった『美濃山小学校区』では「10～19年住んでいる」が42.7%と最も高く、若い方が転入していたことがわかります。

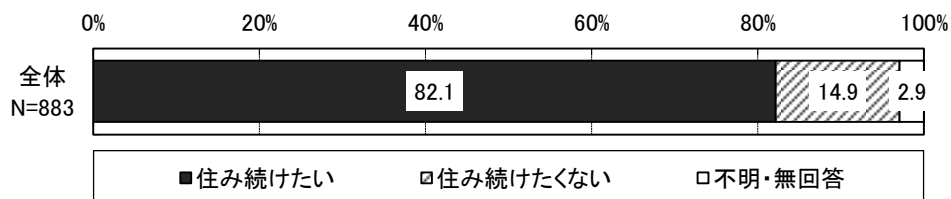


2. あなたの暮らしや近所付き合いについて

〔調査票／問9（1） 単数回答〕

あなたは、これからも現在住んでいるところに住み続けたいと思いますか。

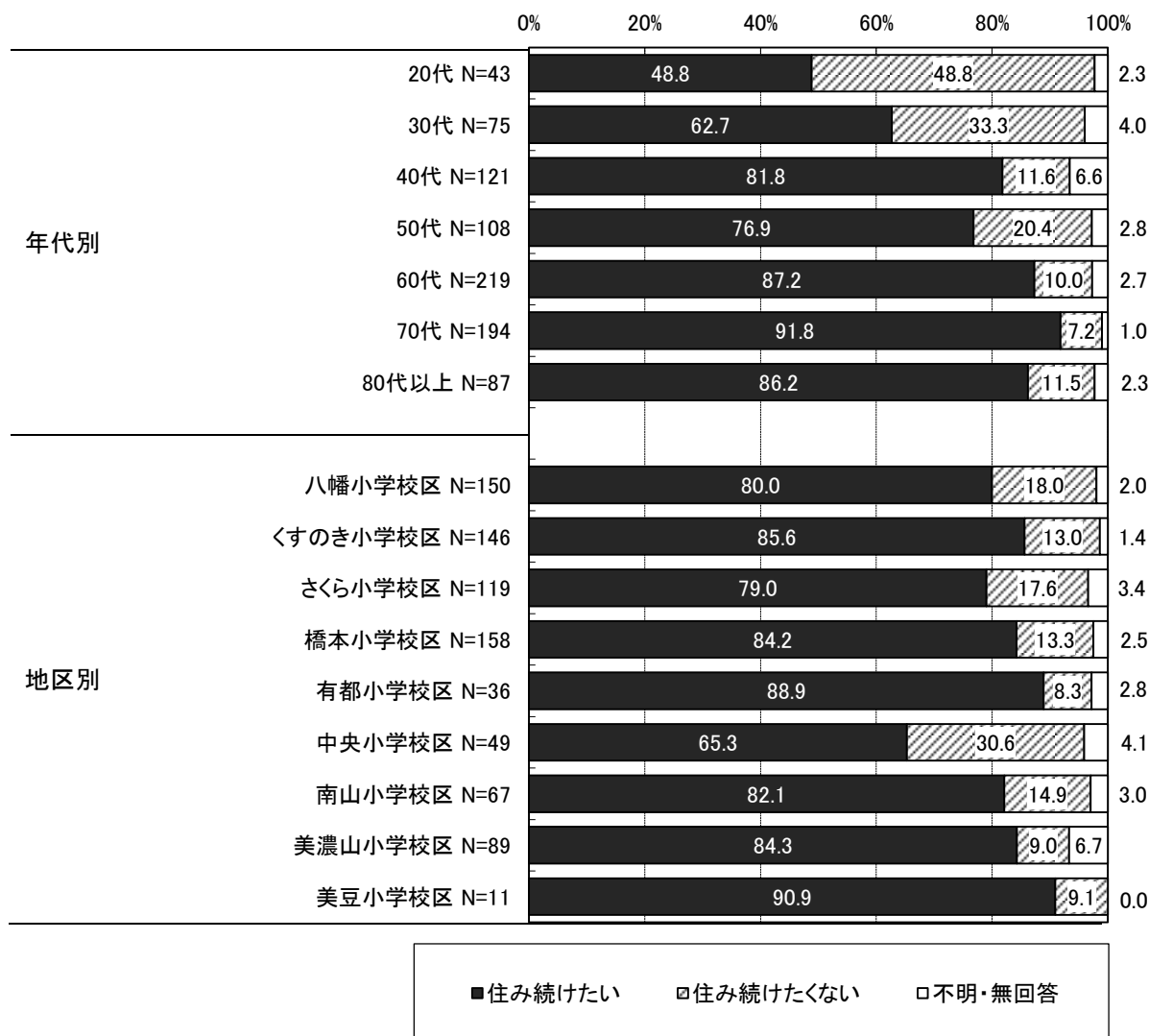
これからも現在住んでいるところに住み続けたいかは、「住み続けたい」が82.1%、「住み続けたくない」が14.9%となっています。



【年代別・地区別】

年代別の定住意向は、『40代』『60代』から『80代以上』で「住み続けたい」が8割以上である一方で、『20代』では、「住み続けたい」と「住み続けたくない」がともに48.8%となっています。

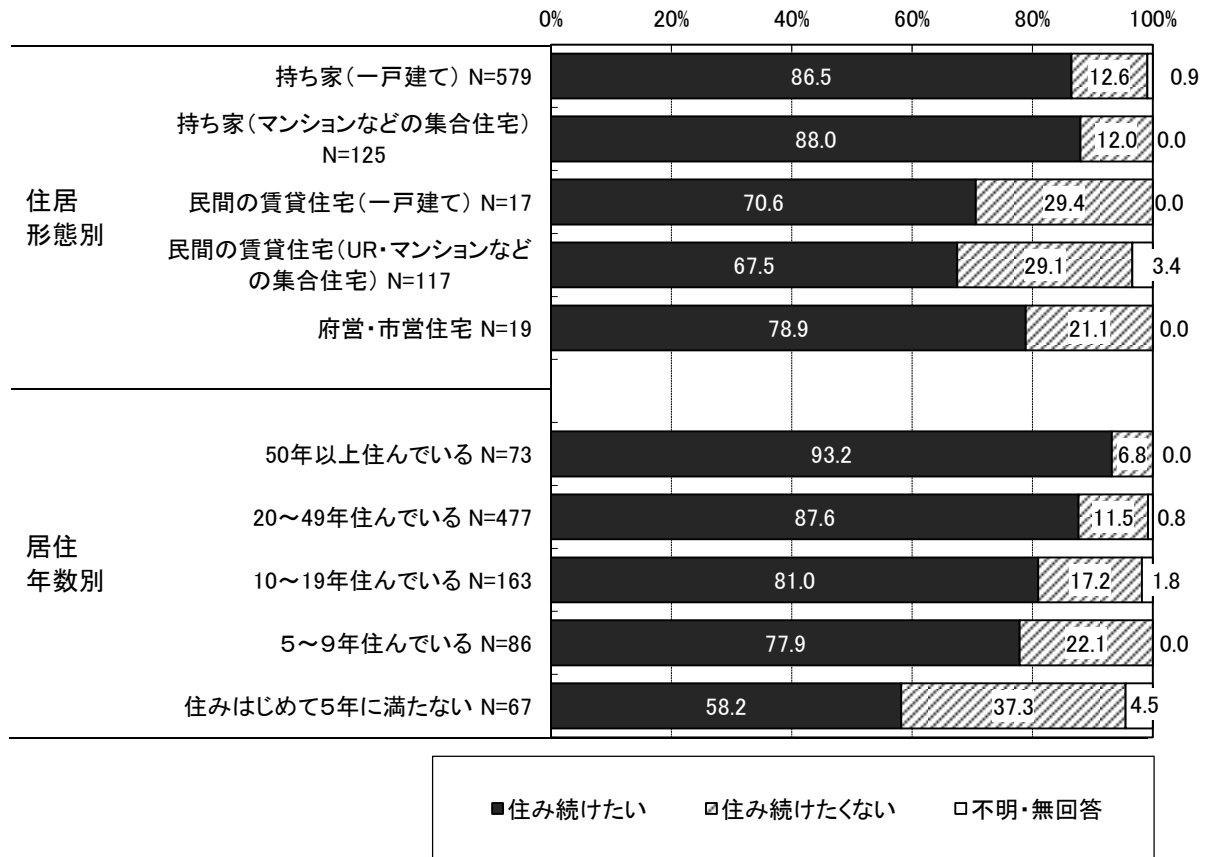
地区別の定住意向は、『さくら小学校区』『中央小学校区』を除く地区で、「住み続けたい」が8割以上となっています。一方で『中央小学校区』では「住み続けたくない」が30.6%と他の地区よりも高くなっています。



【住居形態別・居住年数別】

住居形態別の定住意向は、『持ち家（一戸建て）』『持ち家（マンションなどの集合住宅）』で「住み続けたい」が8割以上である一方で、『民間の賃貸住宅（一戸建て）』『民間の賃貸住宅（UR・マンションなどの集合住宅）』では、「住み続けたくない」が約3割となっています。

居住年数別の定住意向は、『50年以上住んでいる』『20～49年住んでいる』『10～19年住んでいる』が8割以上である一方で、『住みはじめて5年に満たない』では「住み続けたくない」が37.3%と高くなっています。

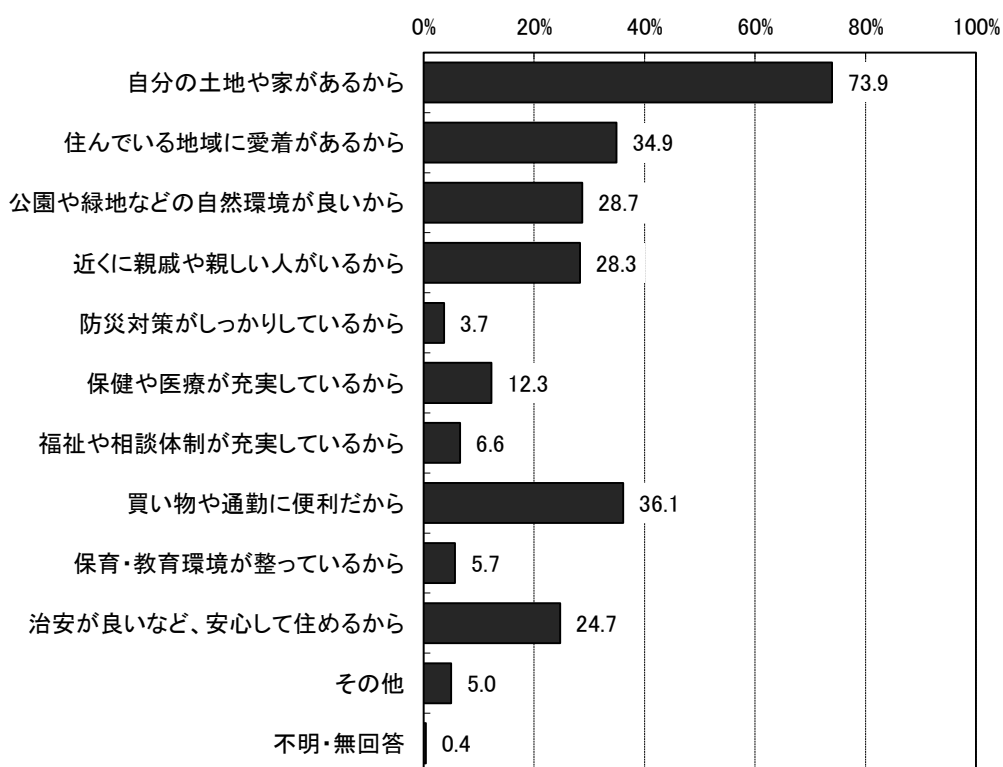


〔調査票／問9（2） 複数回答〕

問9（1）で「住み続けたい」に○をつけた方におうかがいします。
住み続けたいと思うのはなぜですか。

住み続けたい理由は、「自分の土地や家があるから」が73.9%と最も高く、次いで「買い物や通勤に便利だから」が36.1%、「住んでいる地域に愛着があるから」が34.9%となっています。

全体 N=725



■その他回答

その他	件数
スーパー・病院・郵便局・駅など、必要な施設が徒歩圏にあり便利だから	5
石清水八幡宮があり、静かで過ごしやすいため	5
住民と仲が良く、友達も多く住んでいるから	3
家族と一緒にいられるから	2
家賃が安かったり、社宅があるなどの住宅条件が良いから	2
浸水の心配もなく、安心して過ごせるから	1

【年代別・地区別】

年代別に住みたい理由をみると、いずれの年代においても「自分の土地や家があるから」の割合が最も高く、『30代』から『60代』で「買い物や通勤に便利だから」が2番目に高くなっています。『70代』『80代以上』では「住んでいる地域に愛着があるから」が2番目に高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区においても「自分の土地や家があるから」が最も高くなっています。2番目に高い項目は『八幡小学校区』『くすのき小学校区』『美濃山小学校区』で「買い物や通勤に便利だから」、『さくら小学校区』で「公園や緑地などの自然環境が良いから」、『橋本小学校区』では「住んでいる地域に愛着があるから」と「公園や緑地などの自然環境が良いから」が同率で、『南山小学校区』では「近くに親戚や親しい人がいるから」がそれぞれ2番目に高くなっています。

		対象者数（人）	から	自分の土地や家がある	があるから地域に愛着	住んでいる地域に愛着	環境が良いから自然	公園や緑地などの自然	が近いから親戚や親しい人	近くにいるから親戚や親しい人	防災対策がしっかりしているから	保健や医療が充実しているから	福祉や相談体制が充実しているから	から	買い物や通勤に便利だ	ているから	保育・教育環境が整っ	して住めるから、安心	治安が良いなど、安心	その他	不明・無回答
年代別	20代	21	47.6	38.1	23.8	42.9	14.3	4.8	4.8	38.1	14.3	19.0	9.5	0.0							
	30代	47	59.6	31.9	27.7	40.4	2.1	10.6	2.1	44.7	31.9	19.1	2.1	0.0							
	40代	99	70.7	28.3	25.3	23.2	0.0	6.1	5.1	42.4	11.1	20.2	5.1	0.0							
	50代	83	74.7	27.7	25.3	24.1	1.2	6.0	7.2	33.7	1.2	22.9	3.6	0.0							
	60代	191	76.4	34.6	28.3	30.4	5.2	12.0	5.2	37.7	1.6	26.2	4.7	0.0							
	70代	178	79.8	41.6	33.7	25.3	4.5	18.0	9.0	33.7	1.7	29.2	5.6	1.7							
	80代以上	75	73.3	36.0	28.0	28.0	4.0	18.7	6.7	32.0	1.3	24.0	8.0	0.0							
	地区別	八幡小学校区	120	80.8	35.0	18.3	34.2	2.5	16.7	7.5	41.7	2.5	20.0	2.5	0.0						
くすのき小学校区		125	57.6	39.2	36.0	34.4	7.2	18.4	8.8	53.6	8.0	29.6	5.6	0.0							
さくら小学校区		94	68.1	29.8	43.6	17.0	5.3	22.3	12.8	42.6	4.3	21.3	7.4	0.0							
橋本小学校区		133	84.2	33.8	33.8	22.6	4.5	4.5	1.5	26.3	1.5	30.8	7.5	0.8							
有都小学校区		32	90.6	56.3	12.5	37.5	0.0	6.3	3.1	9.4	6.3	18.8	0.0	0.0							
中央小学校区		32	62.5	40.6	12.5	21.9	0.0	9.4	3.1	15.6	3.1	15.6	9.4	0.0							
南山小学校区		55	87.3	21.8	9.1	32.7	3.6	7.3	5.5	23.6	3.6	10.9	7.3	0.0							
美濃山小学校区		75	77.3	37.3	36.0	28.0	1.3	8.0	5.3	42.7	17.3	37.3	2.7	0.0							
美豆小学校区	10	90.0	20.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0								

(単位:%)

【住居形態別・居住年数別】

住居形態別に住みたい理由をみると、『持ち家（一戸建て）』『持ち家（マンションなどの集合住宅）』で「自分の土地や家があるから」、『民間の賃貸住宅（UR・マンションなどの集合住宅）』で「買い物や通勤に便利だから」の割合が最も高くなっています。

居住年数別に住みたい理由をみると、5年以上の居住年数で、「自分の土地や家があるから」が最も高くなっています。2番目に高い項目は『50年以上住んでいる』『20～49年住んでいる』で「住んでいる地域に愛着があるから」、『10～19年住んでいる』『5～9年住んでいる』では「買い物や通勤に便利だから」となっています。

		対象者数（人）	自分の土地や家があるから	住んでいる地域に愛着があるから	環境が良いから	公園や緑地などの自然	近くに親戚や親しい人がいるから	防災対策がしっかりしているから	保健や医療が充実しているから	福祉や相談体制が充実しているから	買い物や通勤に便利だから	保育・教育環境が整っているから	治安が良いなど、安心して住めるから	その他	不明・無回答
住居形態別	持ち家（一戸建て）	501	90.0	33.9	23.8	27.9	3.2	10.6	5.8	30.3	4.0	23.8	4.0	0.2	
	持ち家（マンションなどの集合住宅）	110	72.7	39.1	45.5	25.5	5.5	20.0	10.9	45.5	10.9	32.7	4.5	0.0	
	民間の賃貸住宅（一戸建て）	12	0.0	41.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	41.7	0.0	25.0	0.0	0.0	
	民間の賃貸住宅（UR・マンションなどの集合住宅）	79	3.8	29.1	45.6	32.9	5.1	15.2	7.6	60.8	11.4	24.1	10.1	2.5	
	府営・市営住宅	15	0.0	73.3	20.0	40.0	6.7	6.7	6.7	26.7	0.0	13.3	0.0	0.0	
居住年数別	50年以上住んでいる	68	88.2	52.9	17.6	42.6	0.0	13.2	4.4	23.5	2.9	23.5	5.9	0.0	
	20～49年住んでいる	418	78.9	36.6	29.2	26.6	4.3	13.6	7.7	35.9	2.9	25.6	4.1	0.5	
	10～19年住んでいる	132	73.5	33.3	28.8	25.0	3.8	10.6	5.3	39.4	5.3	24.2	4.5	0.0	
	5～9年住んでいる	67	55.2	17.9	31.3	26.9	4.5	7.5	6.0	41.8	17.9	22.4	9.0	1.5	
	住みはじめて5年に満たない	39	30.8	17.9	38.5	33.3	2.6	10.3	5.1	41.0	20.5	23.1	7.7	0.0	

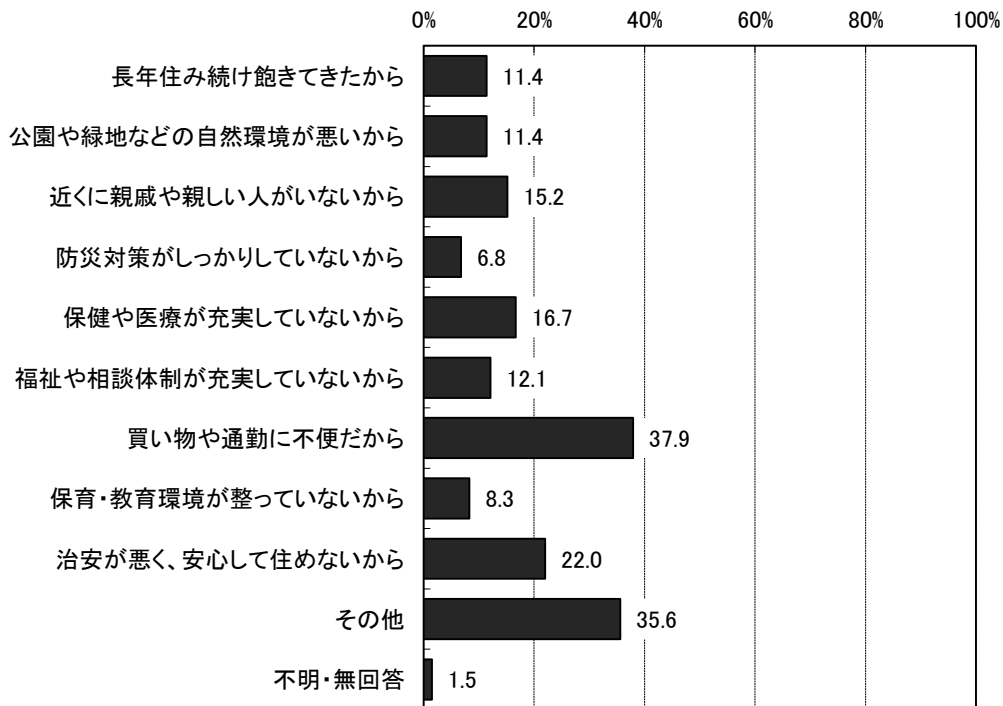
（単位：％）

〔調査票／問9（3） 複数回答〕

問9（1）で「住み続けたくない」に○をつけた方におうかがいします。
住み続けたくないと思うのはなぜですか。

住み続けたくない理由は、「買い物や通勤に不便だから」が 37.9%と最も高く、次いで「治安が悪く、安心して住めないから」が 22.0%、「保健や医療が充実していないから」が 16.7%となっています。

全体 N=132



■その他回答

その他	件数
住み続けたいが親の家を継がなければならないから	5
家賃が高いから	4
エレベーターがなく、階段の上り下りがしんどいから	4
持ち家を考えている・持ち家に住みたいから	4
仕事に合わせて住む場所を変えたいから	3
高速道路等を走るトラックの音がうるさいから	2
子どもの成長に合わせもう少し治安が良く、広い所に住みたいから	2
介護が必要になってきたが、介護施設が少ないから	2
地域に馴染めていないから	2
市役所や駅へ行く事が大変だから	2
自治会が上手く機能していないように思うから	1
固定資産税が高いので持ち家を手放したいから	1
人間関係が良くないから	1
建物が老朽化しているから	1
自分の健康状態と妻の介護上、転居予定だから	1

【年代別・地区別】

年代別の住み続けたくない理由は、『30代』から『60代』『80代以上』で「買い物や通勤に不便だから」が最も高くなっています。『20代』では「治安が悪く、安心して住めないから」が最も高くなっています。

地区別の住み続けたくない理由は、『八幡小学校区』『さくら小学校区』『橋本小学校区』『有都小学校区』『南山小学校区』『美濃山小学校区』で「買い物や通勤に不便だから」が最も高くなっています。『くすのき小学校区』『中央小学校区』では「治安が悪く、安心して住めないから」が最も高くなっています。

		対象者数 (人)	たから	長年住み 続け飽きて き	環境が 悪いから	公園や 緑地など の自然	が近くに ないから 親戚や 親しい人	近い ないから 親戚や 親しい人	防犯 対策が しっかり し	いない から	保健 や医療 が充実 して	福祉 や相談 体制が 充実	から	買い物 や通勤 に不便 だ	てい ない から	保育・ 教育 環境が 整っ	住め ない から	治安 が悪 く、 安心 して	その他	不明・ 無回 答
年代別	20代	21	19.0	9.5	9.5	4.8	4.8	9.5	42.9	9.5	47.6	23.8	0.0							
	30代	25	4.0	12.0	12.0	8.0	24.0	12.0	40.0	24.0	28.0	36.0	0.0							
	40代	14	14.3	0.0	7.1	7.1	14.3	21.4	28.6	7.1	7.1	35.7	0.0							
	50代	22	18.2	13.6	18.2	13.6	18.2	45.5	4.5	22.7	36.4	4.5								
	60代	22	4.5	22.7	22.7	9.1	18.2	13.6	36.4	0.0	13.6	27.3	0.0							
	70代	14	0.0	0.0	21.4	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	71.4	0.0							
	80代以上	10	10.0	10.0	20.0	0.0	30.0	0.0	50.0	0.0	10.0	20.0	10.0							
地区別	八幡小学校区	27	3.7	14.8	11.1	14.8	11.1	7.4	37.0	11.1	18.5	37.0	0.0							
	くすのき小学校区	19	0.0	5.3	10.5	5.3	5.3	15.8	5.3	0.0	31.6	47.4	0.0							
	さくら小学校区	21	19.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	23.8	0.0	9.5	47.6	4.8							
	橋本小学校区	21	9.5	4.8	4.8	4.8	42.9	19.0	66.7	14.3	4.8	19.0	4.8							
	有都小学校区	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0							
	中央小学校区	15	13.3	33.3	26.7	20.0	26.7	26.7	33.3	6.7	60.0	20.0	0.0							
	南山小学校区	10	20.0	10.0	20.0	0.0	10.0	20.0	60.0	10.0	40.0	10.0	0.0							
	美濃山小学校区	8	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	37.5	0.0							
	美豆小学校区	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0							

(単位:%)

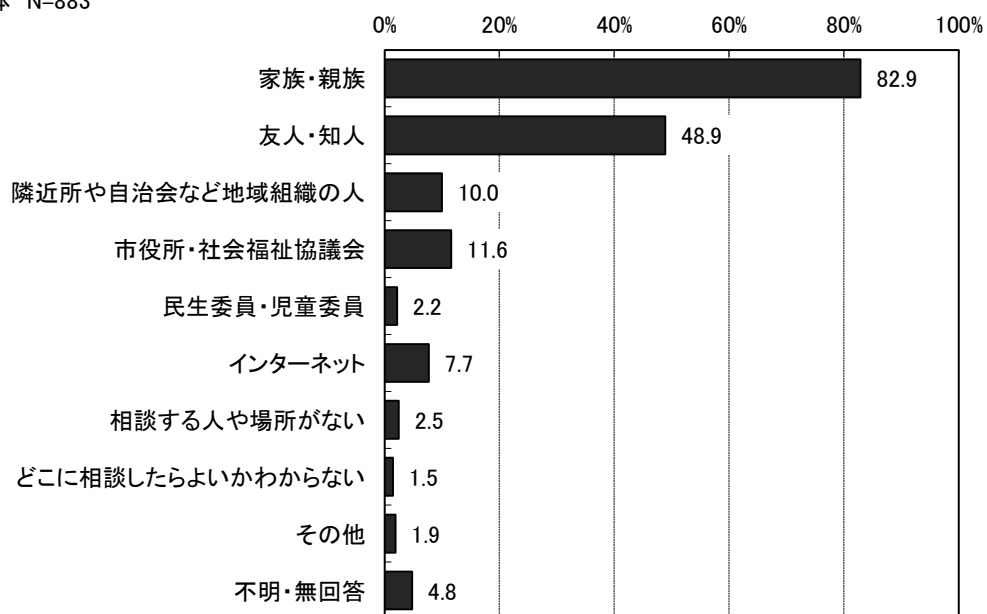
※各属性の標本数が少ない場合、上位3位の色付けは原則行っていませんが、住み続けたくない理由と比較するため、例外的に分析しています。

〔調査票／問 10 複数回答〕

あなたには、困ったことがあった場合に話し合ったり、相談できる相手・場所がありますか。

困った時の相談相手は、「家族・親族」が 82.9%と最も高く、次いで「友人・知人」が 48.9%、「市役所・社会福祉協議会」が 11.6%となっています。

全体 N=883



【年代別・地区別・家族構成別】

困った時の相談相手として、年代別、地区別、家族構成別に関係なく、「家族・親族」が最も高く、次いで「友人・知人」となっています。また、年代の『20代』から『50代』において、「インターネット」が3番目に高くなっており、一方で、『60代』以上では「市役所・社会福祉協議会」となっています。

家族構成別で3番目に高いのは、『ひとり暮らし』『夫婦のみ』で「市役所・社会福祉協議会」、『夫婦と子』で「インターネット」、『親・子・孫（三世代）』『母と子、または父と子』で「隣近所や自治会など地域組織の人」となっています。

		対象者数（人）	家族・親族	友人・知人	隣近所や自治会など地域組織の人	市役所・社会福祉協議会	民生委員・児童委員	インターネット	相談する人や場所がない	どこに相談したらよいかわからない	その他	不明・無回答
年代別	20代	43	81.4	62.8	2.3	4.7	0.0	20.9	0.0	2.3	2.3	4.7
	30代	75	88.0	62.7	5.3	4.0	1.3	5.3	0.0	1.3	2.7	4.0
	40代	121	87.6	54.5	5.8	7.4	2.5	12.4	3.3	0.0	2.5	4.1
	50代	108	77.8	57.4	4.6	9.3	1.9	13.9	2.8	0.9	2.8	7.4
	60代	219	83.1	52.1	11.0	11.4	0.5	6.4	1.8	1.4	0.9	3.2
	70代	194	84.0	42.8	16.5	18.0	3.1	4.1	3.1	2.6	1.5	3.1
	80代以上	87	78.2	20.7	13.8	18.4	5.7	2.3	5.7	1.1	3.4	9.2
地区別	八幡小学校区	150	85.3	46.7	10.0	8.0	1.3	4.7	3.3	1.3	2.0	4.7
	くすのき小学校区	146	82.9	53.4	14.4	11.6	0.0	9.6	1.4	2.1	2.7	4.8
	さくら小学校区	119	80.7	52.1	10.1	18.5	2.5	11.8	3.4	0.0	2.5	2.5
	橋本小学校区	158	86.1	44.3	8.9	11.4	2.5	3.8	1.3	2.5	1.9	3.8
	有都小学校区	36	75.0	47.2	16.7	13.9	8.3	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6
	中央小学校区	49	73.5	36.7	8.2	12.2	2.0	10.2	2.0	2.0	2.0	14.3
	南山小学校区	67	86.6	55.2	7.5	11.9	7.5	3.0	1.5	1.5	4.5	1.5
	美濃山小学校区	89	87.6	60.7	7.9	10.1	0.0	15.7	3.4	0.0	0.0	2.2
	美豆小学校区	11	81.8	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
家族構成別	ひとり暮らし	99	70.7	40.4	11.1	14.1	3.0	5.1	6.1	3.0	1.0	10.1
	夫婦のみ	262	84.0	44.7	12.2	14.5	2.3	6.1	3.8	0.8	1.9	1.9
	夫婦と子	321	86.0	57.3	7.8	9.0	1.6	11.2	1.2	1.2	2.2	5.6
	夫婦と親	29	89.7	37.9	6.9	20.7	3.4	3.4	3.4	0.0	3.4	3.4
	親・子・孫(三世代)	73	84.9	43.8	9.6	8.2	2.7	6.8	0.0	4.1	1.4	4.1
	母と子、または父と子	58	79.3	56.9	13.8	8.6	1.7	5.2	1.7	1.7	1.7	3.4

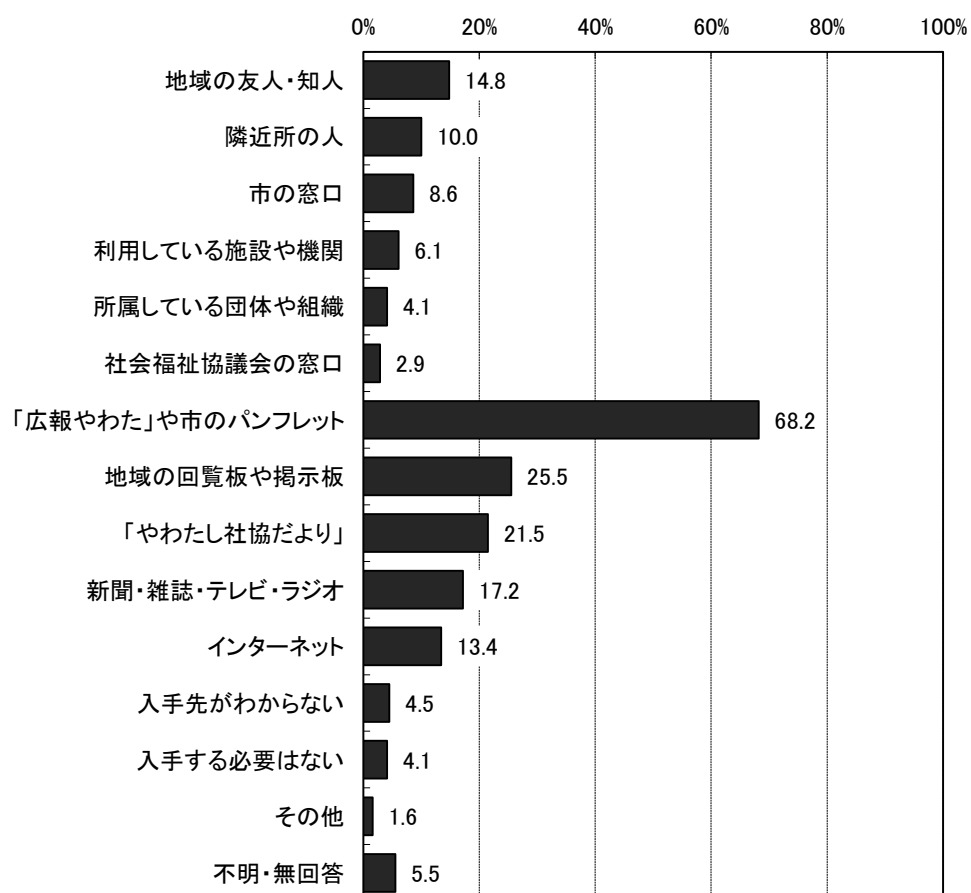
(単位:%)

〔調査票／問 11 複数回答〕

あなたは、福祉活動や福祉サービスに関する情報を主にどこから入手していますか。

福祉活動や福祉サービスに関する情報の入手先は、「『広報やわた』や市のパンフレット」が68.2%と最も高く、次いで「地域の回覧板や掲示板」が25.5%、「『やわたし社協だより』」が21.5%となっています。

全体 N=883



【年代別】

年代別の福祉活動や福祉サービスに関する情報の入手先は、『20代』を除くすべての年代で『広報やわた』や市のパンフレットが最も高くなっていますが、『20代』では「インターネット」が最も高くなっています。「地域の回覧板や掲示板」は年代が高くなるにつれて、利用している人の割合も高くなっています。また、『60代』以上では『やわたし社協だより』『新聞・雑誌・テレビ・ラジオ』の割合が2割台となっており、他の年代と比較して高くなっています。

		対象者数（人）	地域の友人・知人	隣近所の人	市の窓口	関 利 用 し て い る 施 設 や 機 関	織 所 属 し て い る 団 体 や 組 織	社 会 福 祉 協 議 会 の 窓 口	パ ン フ レ ッ ト 「 広 報 や わた 」 や 市 の パ ン フ レ ッ ト	地 域 の 回 覧 板 や 掲 示 板
年代別	20代	43	11.6	0.0	2.3	4.7	2.3	0.0	16.3	7.0
	30代	75	18.7	4.0	5.3	4.0	1.3	0.0	61.3	12.0
	40代	121	13.2	5.8	7.4	6.6	4.1	0.0	66.1	19.0
	50代	108	10.2	7.4	7.4	6.5	4.6	3.7	65.7	27.8
	60代	219	15.1	10.5	8.2	4.6	4.6	3.7	75.3	29.7
	70代	194	17.0	17.0	12.4	7.7	3.6	4.1	74.2	29.9
	80代以上	87	13.8	16.1	9.2	8.0	5.7	6.9	74.7	33.3
		対象者数（人）	リ 「 や わた し 社 協 だ よ り 」	「 ラ ジ オ 」	新 聞 ・ 雑 誌 ・ テ レ ビ ・ ラ ジ オ	イ ン タ ー ネ ッ ト	入 手 先 が わ か ら な い	入 手 す る 必 要 は な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
年代別	20代	43	2.3	9.3	30.2	16.3	14.0	4.7	9.3	
	30代	75	5.3	4.0	24.0	6.7	4.0	0.0	6.7	
	40代	121	12.4	5.8	19.0	8.3	5.8	2.5	3.3	
	50代	108	19.4	15.7	21.3	4.6	5.6	1.9	8.3	
	60代	219	29.2	20.5	8.7	3.7	2.7	1.4	4.1	
	70代	194	28.4	27.8	7.7	2.6	2.1	1.5	3.1	
	80代以上	87	28.7	20.7	3.4	0.0	1.1	1.1	10.3	

(単位:%)

【地区別】

地区別の福祉活動や福祉サービスに関する情報の入手先は、地区に関係なく『広報やわた』や市のパンフレットがそれぞれ最も高くなっています。『くすのき小学校区』では「地域の友人・知人」が他の地区よりも高い割合となっています。

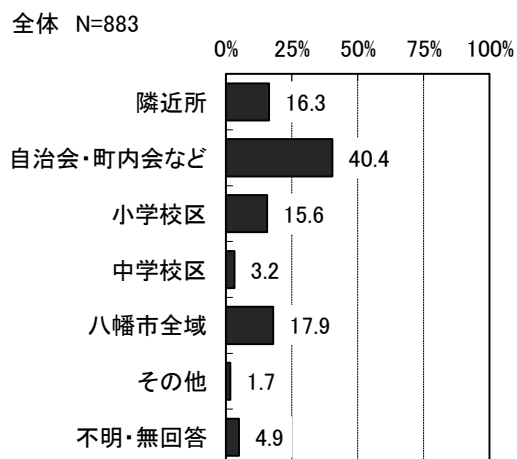
		対象者数（人）	地域の友人・知人	隣近所の人	市の窓口	関係利用している施設や機関	所属している団体や組織	社会福祉協議会の窓口	「広報やわた」や市のパンフレット	地域の回覧板や掲示板
地区別	八幡小学校区	150	14.7	13.3	8.7	7.3	0.7	1.3	66.0	28.7
	くすのき小学校区	146	22.6	9.6	7.5	4.1	4.1	0.7	68.5	19.9
	さくら小学校区	119	16.8	10.9	9.2	8.4	6.7	9.2	73.1	23.5
	橋本小学校区	158	9.5	8.2	9.5	5.1	2.5	3.2	72.2	32.9
	有都小学校区	36	25.0	25.0	11.1	11.1	11.1	5.6	69.4	25.0
	中央小学校区	49	12.2	2.0	10.2	8.2	8.2	2.0	55.1	16.3
	南山小学校区	67	13.4	7.5	11.9	4.5	3.0	3.0	64.2	26.9
	美濃山小学校区	89	10.1	10.1	3.4	7.9	4.5	2.2	71.9	28.1
	美豆小学校区	11	9.1	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0	54.5	27.3
		対象者数（人）	「広報やわた」やわたし社協だよ	ラジオ・オ・雑誌・テレビ・新聞・雑誌・テレビ・インターネット	インターネット	入手先がわからない	入手する必要はない	その他	不明・無回答	
地区別	八幡小学校区	150	24.0	20.7	13.3	6.0	2.7	2.0	6.7	
	くすのき小学校区	146	20.5	14.4	11.0	6.2	1.4	3.4	6.2	
	さくら小学校区	119	26.1	18.5	9.2	1.7	3.4	3.4	4.2	
	橋本小学校区	158	25.3	19.6	17.1	3.8	7.0	0.0	4.4	
	有都小学校区	36	19.4	27.8	8.3	0.0	8.3	0.0	5.6	
	中央小学校区	49	18.4	10.2	14.3	4.1	2.0	0.0	12.2	
	南山小学校区	67	16.4	13.4	10.4	6.0	4.5	3.0	3.0	
	美濃山小学校区	89	20.2	18.0	20.2	4.5	3.4	0.0	2.2	
	美豆小学校区	11	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	

(単位:%)

〔調査票／問 12 単数回答〕

あなたにとって、「地域」とはどの範囲を言いますか。

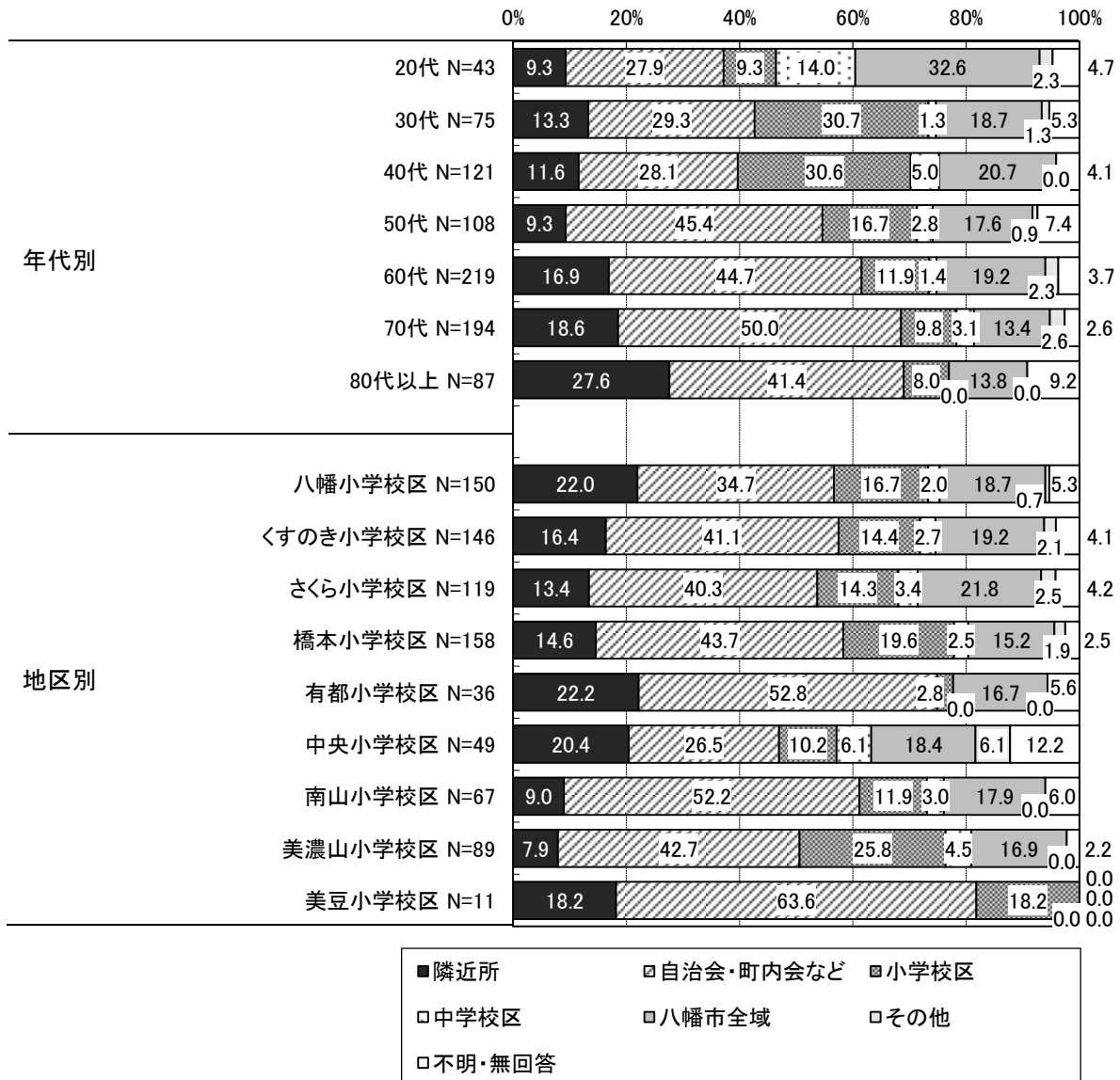
「地域」が意味する範囲の認識について、「自治会・町内会など」が 40.4%、次いで「八幡市全域」が 17.9%、「隣近所」が 16.3%、「小学校区」が 15.6%、「中学校区」では 3.2%となっています。



【年代別・地区別】

年代別の「地域」が意味する範囲の認識は、『20代』で「八幡市全域」、『30代』『40代』で「小学校区」、『50代』以上で「自治会・町内会など」が最も高くなっています。

地区別の「地域」が意味する範囲の認識は、すべての地区で「自治会・町内会など」が最も高くなっています。2番目に高い項目は『八幡小学校区』『有都小学校区』『中央小学校区』『美豆小学校区』で「隣近所」、『橋本小学校区』『美濃山小学校区』『美豆小学校区』で「小学校区」、『くすのき小学校区』『さくら小学校区』『南山小学校区』で「八幡市全域」となっています。



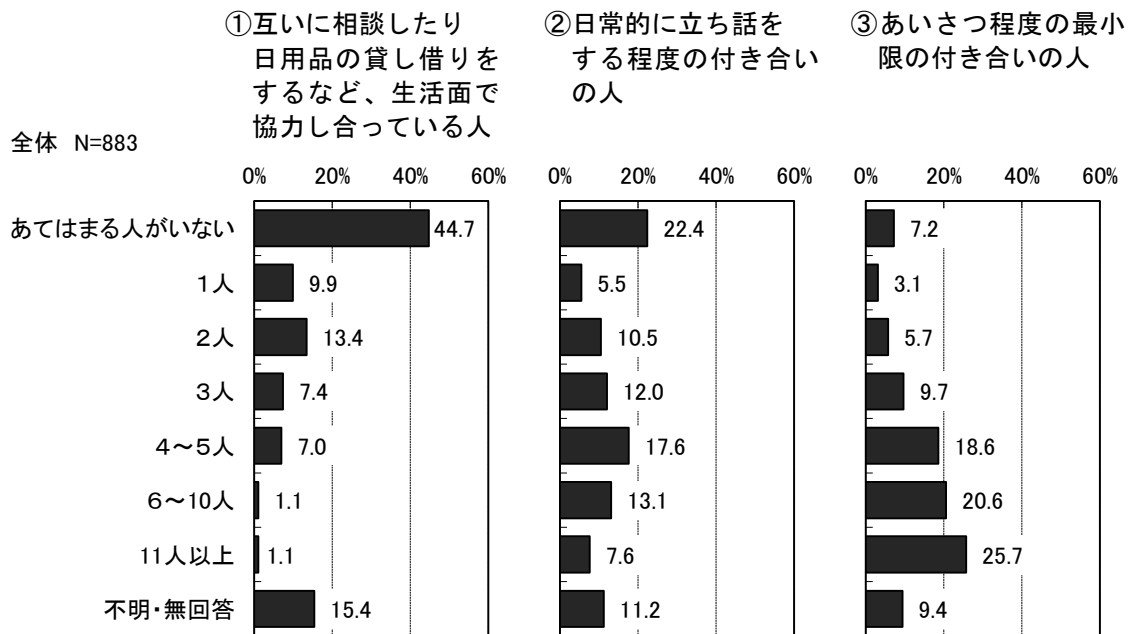
〔調査票／問 13 ①～③それぞれ単数回答〕

あなたには、ふだん近所で①～③のような付き合いをしている人は何人くらいいますか。

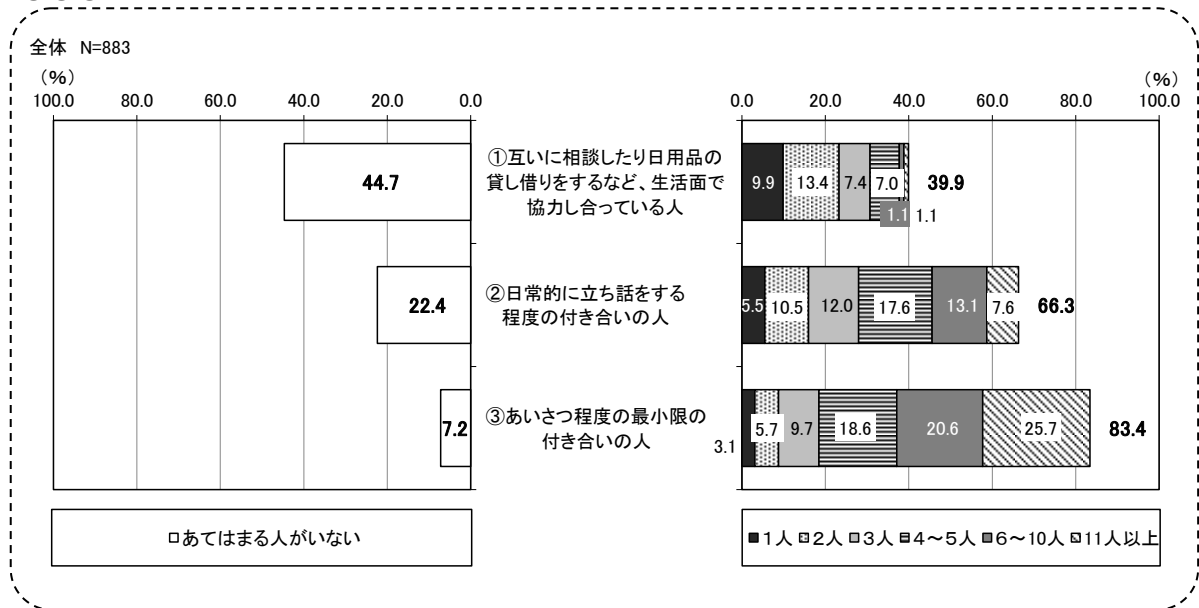
ふだん近所で付き合いをしている人は何人いるかをみると、『①互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』では、「あてはまる人がいない」が 44.7%と最も高く、付き合いをしている人の中では、「2人」が 13.4%と最も高くなっています。

『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』では、「あてはまる人がいない」が 22.4%と最も高く、付き合いをしている人の中では、「4～5人」が 17.6%と最も高くなっています。

『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』では、「11人以上」が 25.7%と最も高くなっています。



【①②③の関係性】



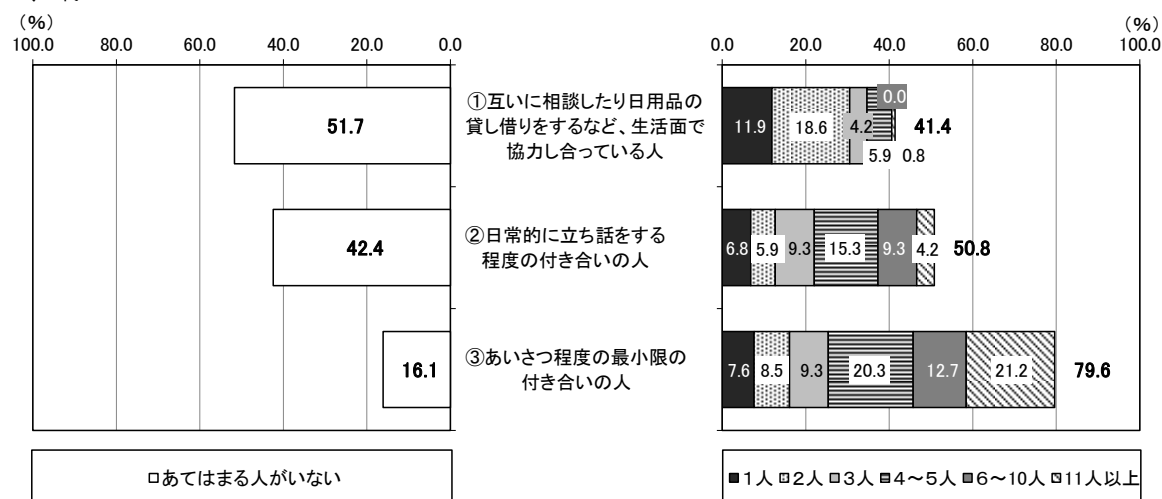
【世代別】

世代別でふだん近所で付き合いをしている人は何人いるかをみると、『20、30代』の場合に、『①互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』では、「あてはまる人がいない」が最も高く、『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』では、「11人以上」が21.2%と最も高くなっています。

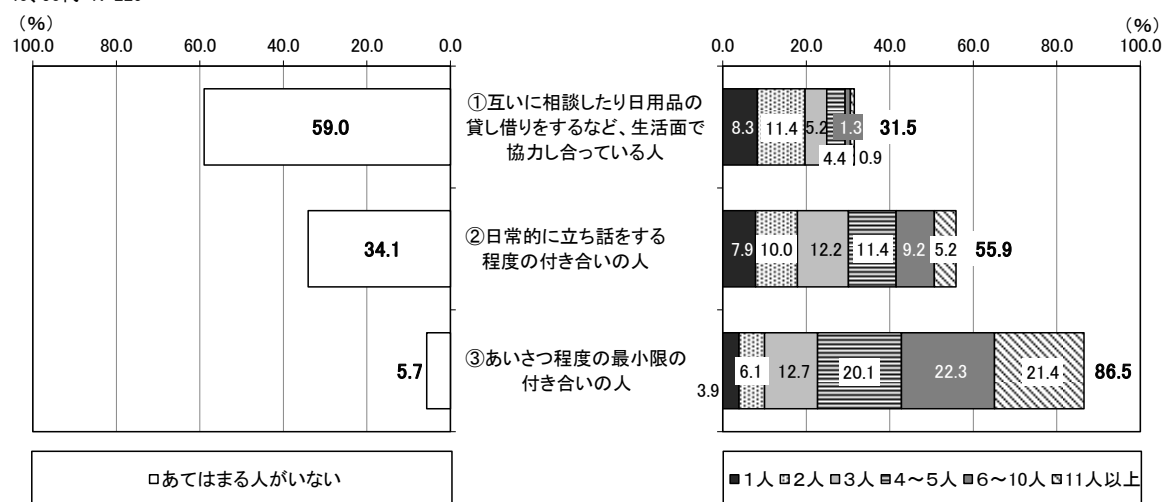
『40、50代』の場合に、『①互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』では、「あてはまる人がいない」が最も高く、『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』では、「6人～10人」が22.3%と最も高くなっています。

『60代以上』の場合に、『①互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』では、「あてはまる人がいない」が最も高く、『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』では、「4人～5人」が21.2%、『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』では、「11人以上」が29.0%と最も高くなっています。

20、30代 N=118

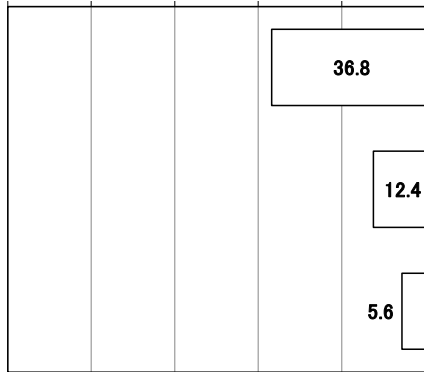


40、50代 N=229



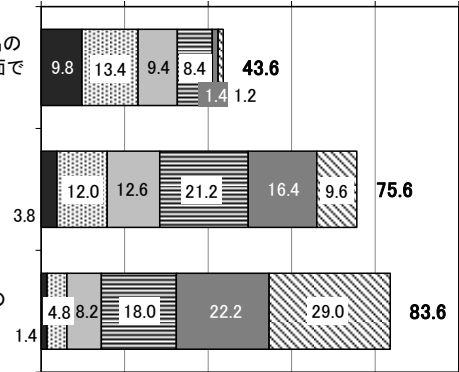
60代以上 N=500

(%)
100.0 80.0 60.0 40.0 20.0 0.0



□あてはまる人がいない

(%)
0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0



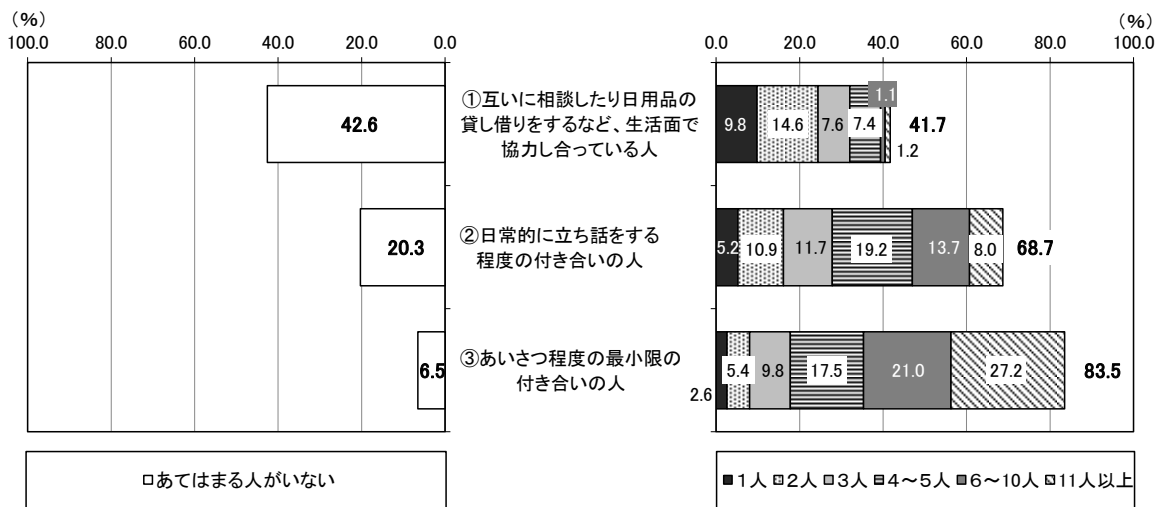
■1人 □2人 □3人 □4~5人 □6~10人 □11人以上

【定住意向別】

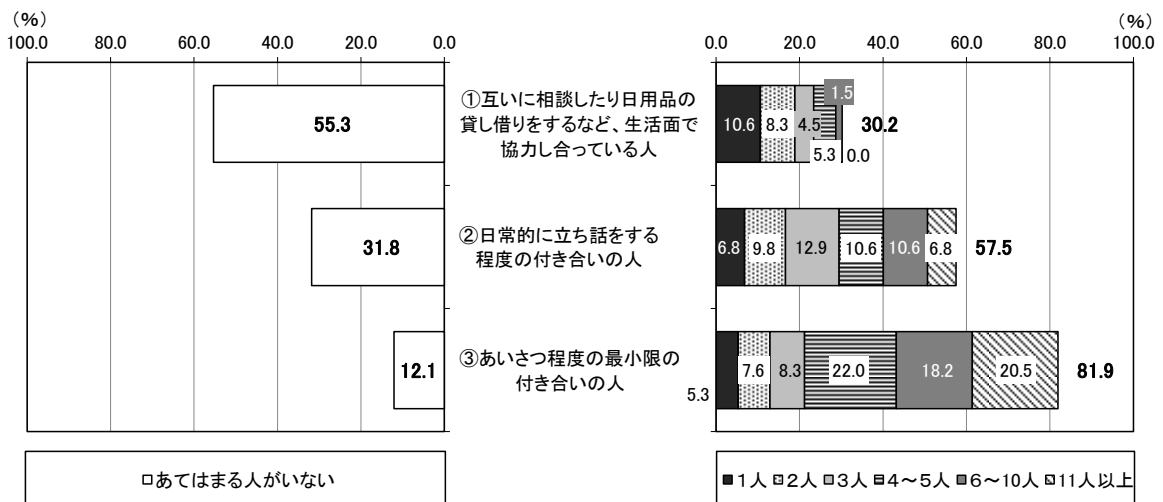
定住意向別でふだん近所で付き合いをしている人は何人いるかをみると、『住み続けたい』の場合に、『①互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』では、「あてはまる人がいない」が最も高く、『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』では、「11人以上」が27.2%と最も高くなっています。

『住み続けたくない』の場合に、『①互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人』『②日常的に立ち話をする程度の付き合いの人』では、「あてはまる人がいない」が最も高く、『③あいさつ程度の最小限の付き合いの人』では、「4人～5人」が22.0%と最も高くなっています。

住み続けたい N=725



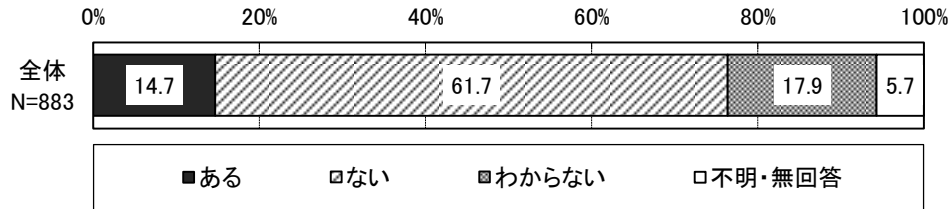
住み続けたくない N=132



〔調査票／問 14（1） 単数回答〕

あなたのご近所で気になることがありますか。

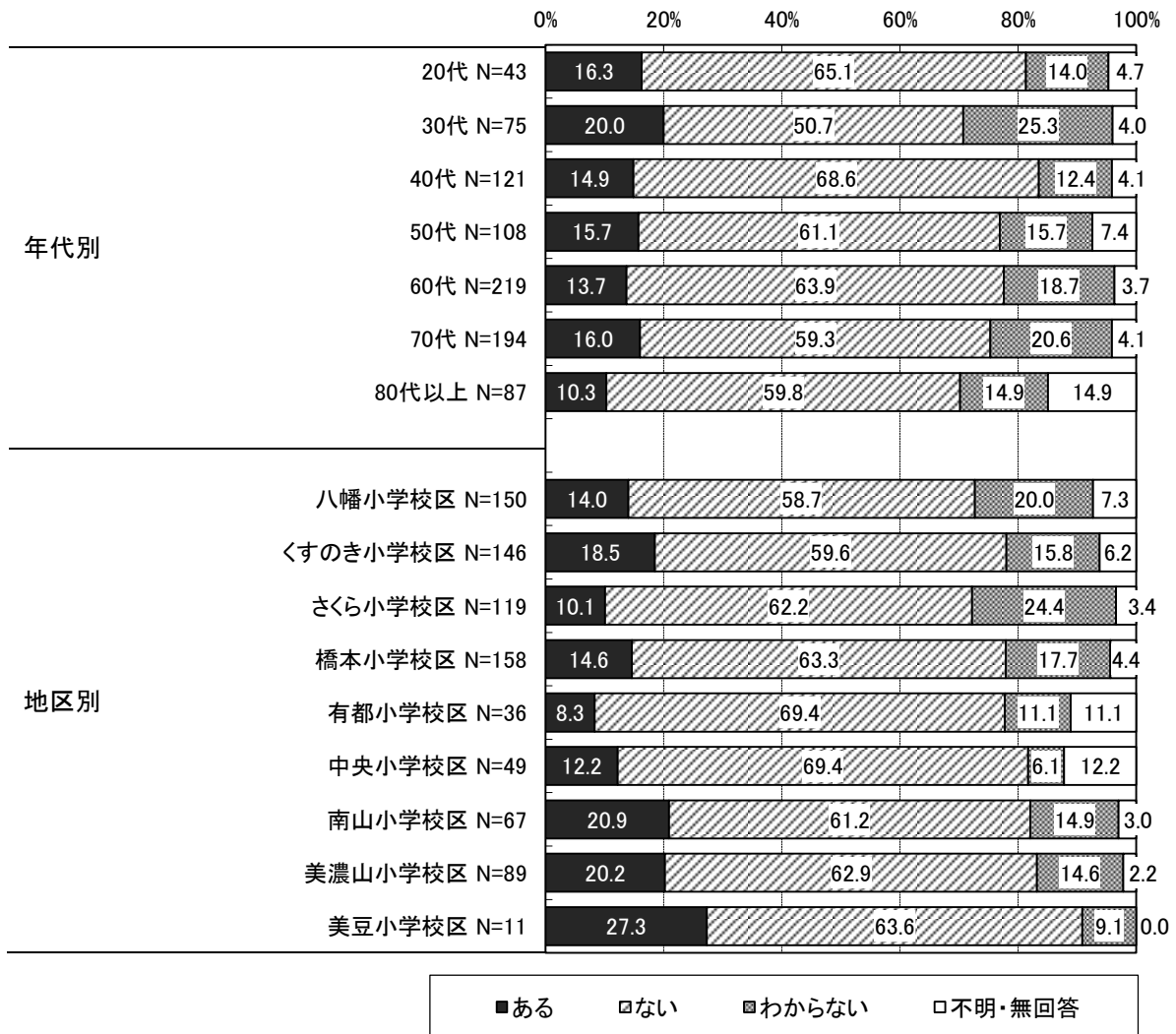
ご近所で気になることの有無をみると、「ある」が 14.7%、「ない」が 61.7%、「わからない」が 17.9%となっています。



【年代別・地区別】

年代別のご近所で気になることの有無は、すべての年代で「ない」が半数以上である一方で、『30代』で「ある」が2割となっています。

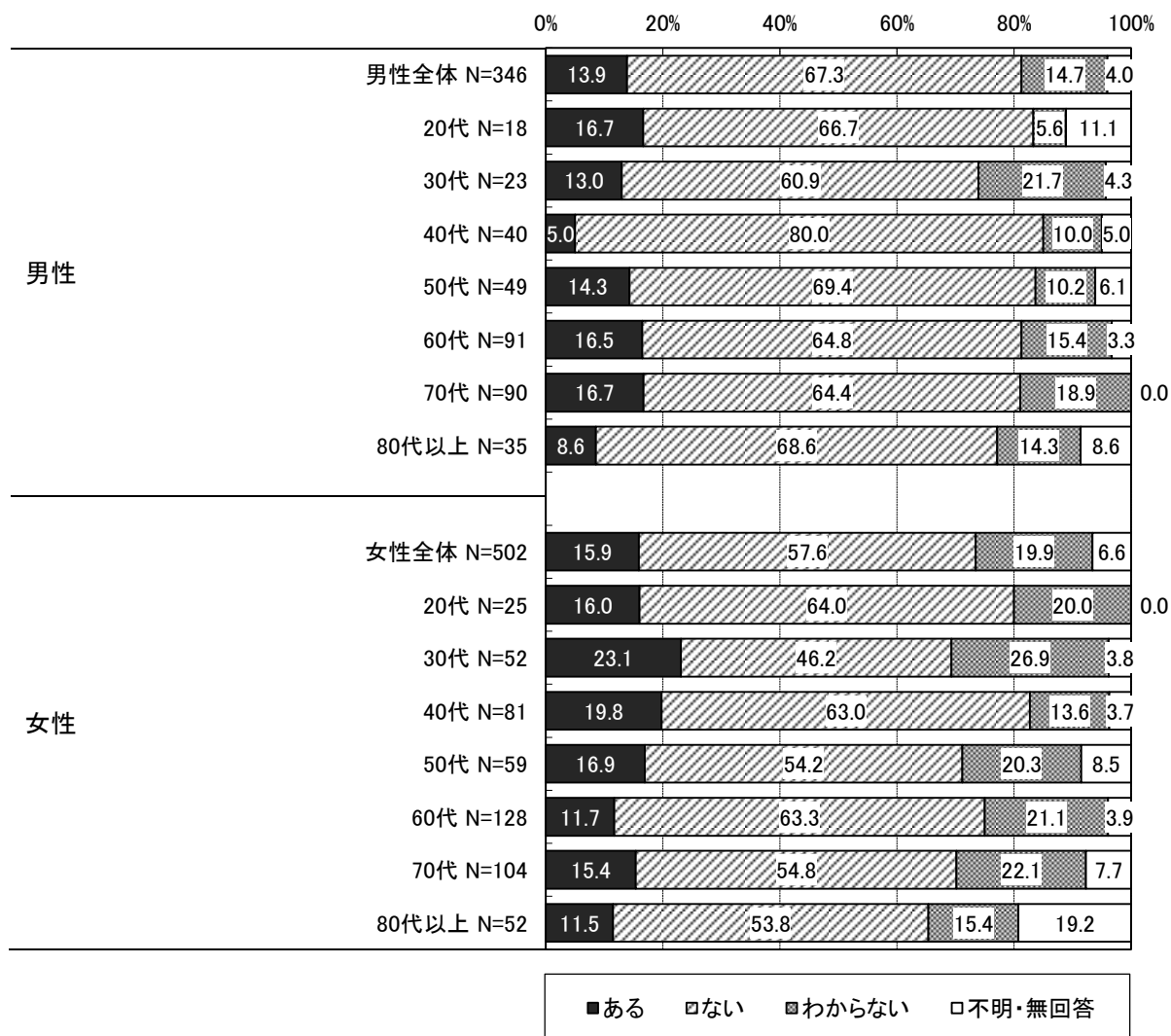
地区別のご近所で気になることの有無は、すべての地区で「ない」が半数以上である一方で、『南山小学校区』『美濃山小学校区』『美豆小学校区』で「ある」が2割以上となっています。



【性別年代別】

性別年代別のご近所で気になることの有無は、女性の『30代』を除く、男女すべての年代で「ない」が半数以上となっています。

女性の『30代』では「ある」が23.1%と他の年代と比較して高い一方で、「わからない」も26.9%と他の年代と比較して高くなっています。



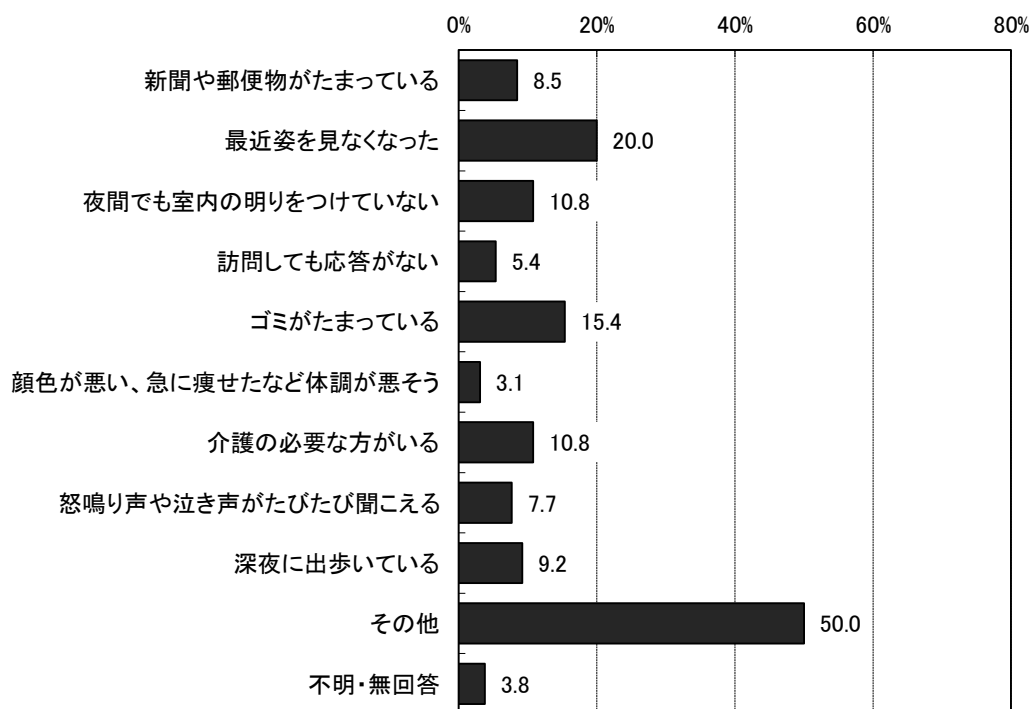
〔調査票／問 14（2） 複数回答〕

問 14（1）で「ある」に○をつけた方におうかがいします。

ご近所で気になることは、どのようなことですか。

気になることがあると回答した人の中で、どのような事が気になるかをみると、「最近姿を見なくなった」が 20.0%と最も高く、次いで「ゴミがたまっている」が 15.4%、「夜間でも室内の明かりをつけていない」「介護の必要な方がいる」がともに 10.8%となっています。

全体 N=130



■その他回答

その他	件数
空家の増加	10
車の止め方・駐車関係	6
深夜のバイクや洗濯、大声（夜泣き・怒鳴り声）などの騒音	6
ペットの排泄の処理・飼い主のいない動物に餌付け	6
庭の手入れができていない家からの落ち葉や臭い、日当たりの問題	2
不審者	2
若者が少なくほとんど中高年者	2
ゴミの回収日や分別を守らない	2

〔調査票／問 15、16 複数回答〕

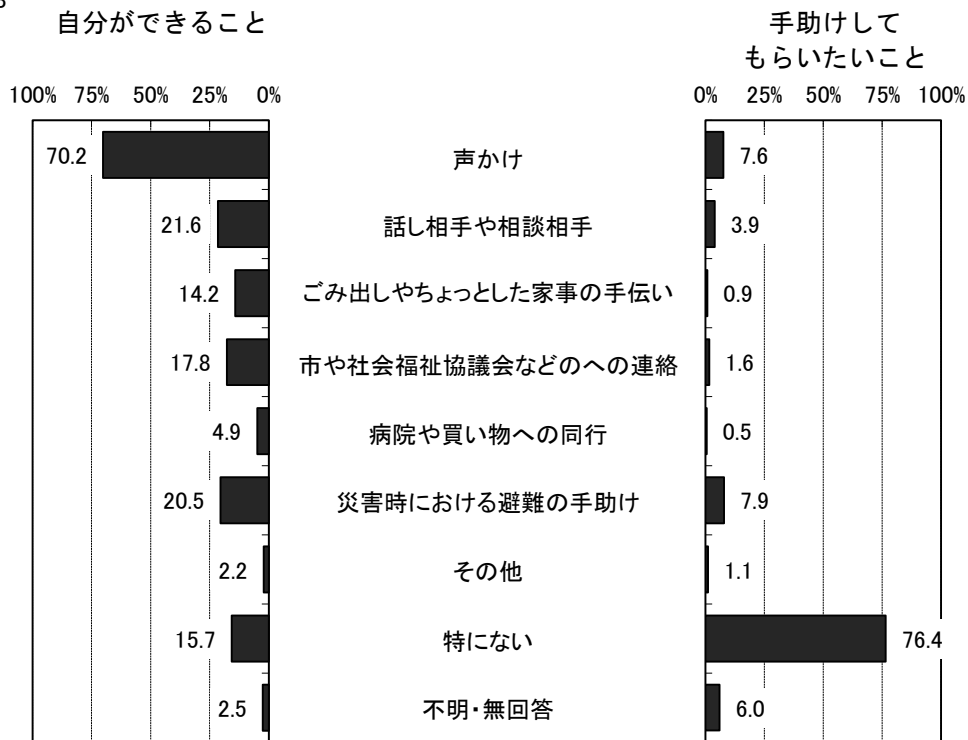
ご近所で困っている方がおられた場合、あなたにできることはどのようなことですか。（自分ができること）

あなたが今の生活で、ご近所の方から手助けしてもらいたいことはありますか。（手助けしてもらいたいこと）

ご近所で困っていることがあった場合に、自分が協力できることは、「声かけ」が 70.2%と最も高く、次いで「話し相手や相談相手」が 21.6%、「災害時における避難の手助け」が 20.5%となっています。

また、自分が手助けしてもらいたいことは、「特にない」が 76.4%とほとんどを占めています。具体的な手助けの内容として、「災害時における避難の手助け」が 7.9%、「声かけ」が 7.6%、「話し相手や相談相手」が 3.9%となっています。

全体 N=883



■その他回答（自分ができること）

その他	件数
訪問や見かけた際の手助けなど、自分で対応できることは手伝う	5
その時にならないとわからないが、できることはしたい	3
民生委員・児童委員や自治会に伝える	2
困られている内容（深刻さ）による	2
地域の統一清掃時、参加出来ない人の分をカバーする	1
一人がよく、迷惑をかけたくないと思っている方もいるため難しい	1
自分をご近所に迷惑にならないようにすること	1

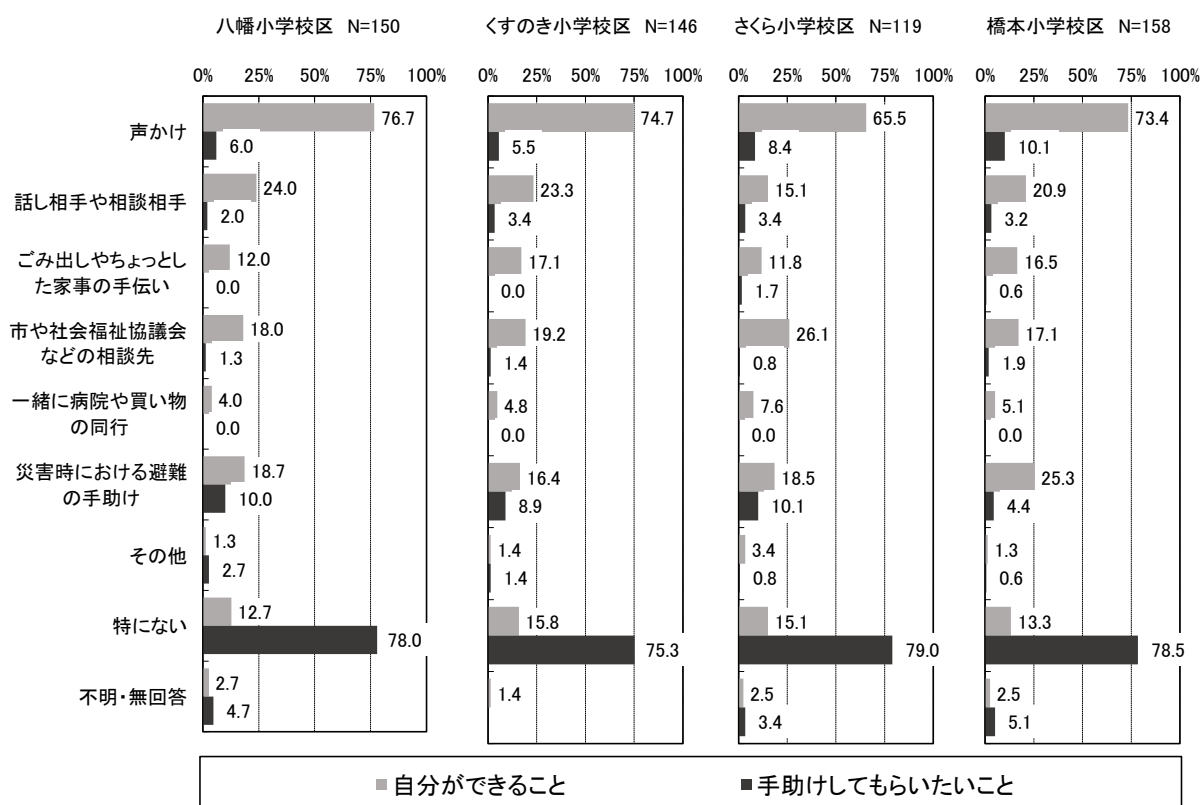
■その他回答（手助けしてもらいたいこと）

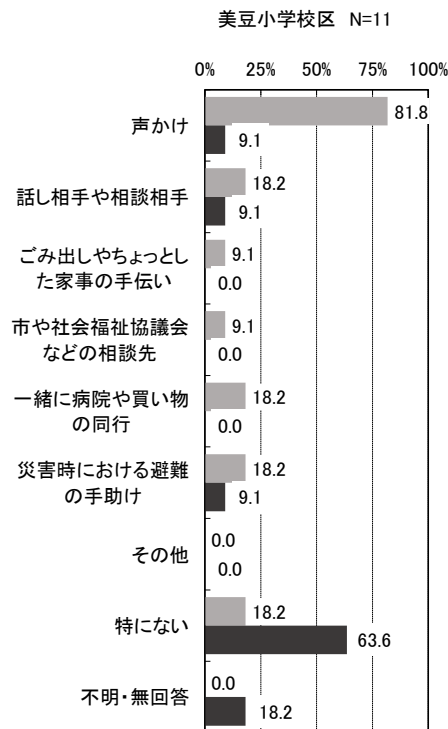
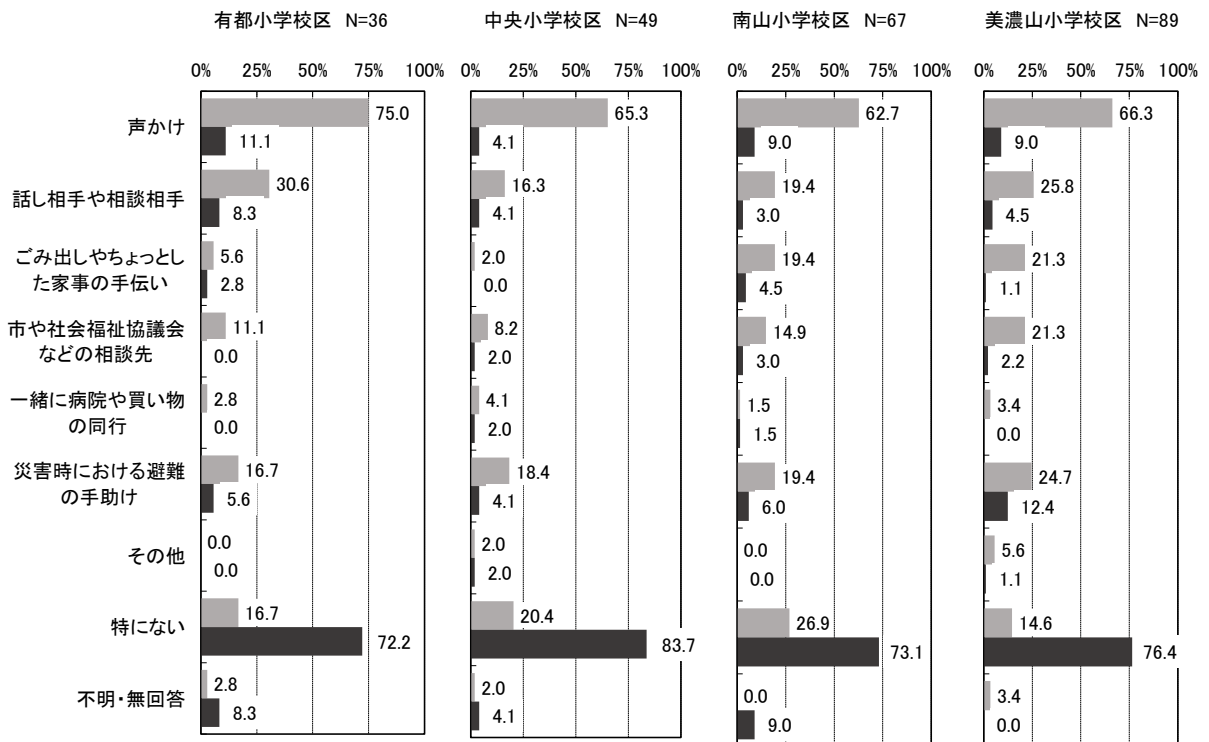
その他	件数
子どもを少しみてもらいたい	2
ケガをした時など	2
障がい者への配慮をお願いしたいが、声かけが困ることもある	1
災害時等のペットとの避難が不安	1
情報がほしい	1
その時にならないとわからない	1

【地区別】

ご近所で困っていることがあった場合の対応等について地区別にみると、すべての地区の項目で自分ができることの割合が手助けしてもらいたいことの割合を上回っています。

自分が手助けしてもらいたいことは、「声かけ」は『橋本小学校区』『有都小学校区』で、「災害時における避難の手助け」は『美濃山小学校区』で他の小学校区と比較して高くなっています。





■ 自分ができること ■ 手助けしてもらいたいこと

手助けしてもらいたいこと

【年代別・家族の状況別】

年代別の手助けしてもらいたいことは、すべての年代で「特にない」が6割以上と最も高くなっています。2番目に高い項目は『40代』『60代』『70代』で「声かけをしてほしい」、『20代』『30代』『50代』『80代以上』で「災害時における避難の手助けをしてほしい」となっています。

家族の状況別の手助けしてもらいたいことは、すべての家族の状況で「特にない」が6割以上と最も高くなっています。2番目に高い項目は『小学生』『中学生』『高校生』『65歳以上の方』で「声かけをしてほしい」、『乳幼児』『介護を必要とする方』『障がいのある方』で「災害時における避難の手助けをしてほしい」となっています。

		対象者数（人）	声かけをしてほしい	話し相手や相談相手に なってもらいたい	家事を手伝ってほしい	ごみ出しやちよつとした 相談先につなげてほしい	市や社会福祉協議会などの 相談先につなげてほしい	行ったり病院や買い物などに 一緒にしてほしい	災害時における避難の 手助けをしてほしい	その他	特にない	不明・無回答
年代別	20代	43	4.7	4.7	0.0	2.3	2.3	11.6	0.0	79.1	0.0	
	30代	75	8.0	4.0	2.7	1.3	1.3	9.3	2.7	74.7	1.3	
	40代	121	8.3	6.6	1.7	0.8	0.0	5.8	0.8	80.2	0.8	
	50代	108	4.6	2.8	0.0	0.9	0.0	7.4	0.9	85.2	2.8	
	60代	219	6.8	1.8	0.9	0.5	0.5	6.4	0.5	79.5	6.8	
	70代	194	8.8	3.6	0.0	3.1	0.0	6.7	1.5	74.7	8.8	
	80代以上	87	11.5	3.4	2.3	2.3	1.1	13.8	2.3	60.9	11.5	
家族の状況別	乳幼児	68	7.4	0.0	0.0	1.5	0.0	16.2	2.9	70.6	2.9	
	小学生	80	8.8	5.0	0.0	1.3	0.0	3.8	2.5	78.8	2.5	
	中学生	48	12.5	10.4	0.0	2.1	0.0	8.3	0.0	75.0	0.0	
	高校生	49	14.3	12.2	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	75.5	2.0	
	65歳以上の方	417	7.4	3.6	1.2	1.4	0.2	7.0	0.7	77.9	6.2	
	介護を必要とする方	96	11.5	8.3	3.1	4.2	2.1	15.6	1.0	65.6	5.2	
	障がいのある方	100	11.0	5.0	3.0	4.0	1.0	14.0	3.0	66.0	7.0	

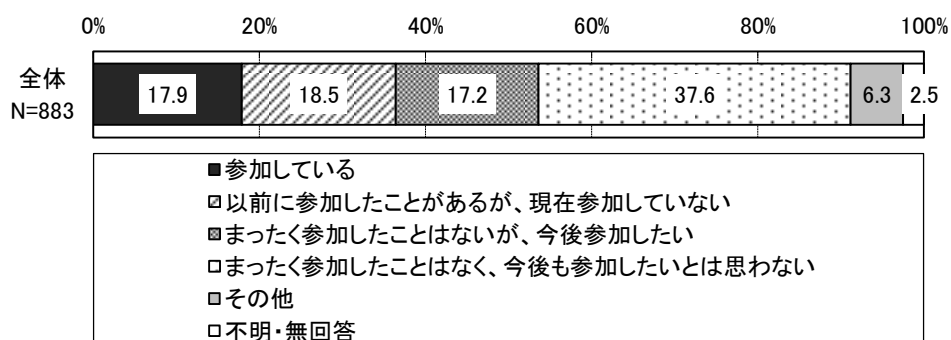
(単位:%)

3. まちの安心や幸せにつながる活動について

〔調査票／問 17（1） 単数回答〕

あなたは現在、地域活動やボランティア活動に参加していますか。

地域活動やボランティア活動への参加状況は、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が 37.6%と最も高く、次いで「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が 18.5%、「参加している」が 17.9%、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が 17.2%となっています。

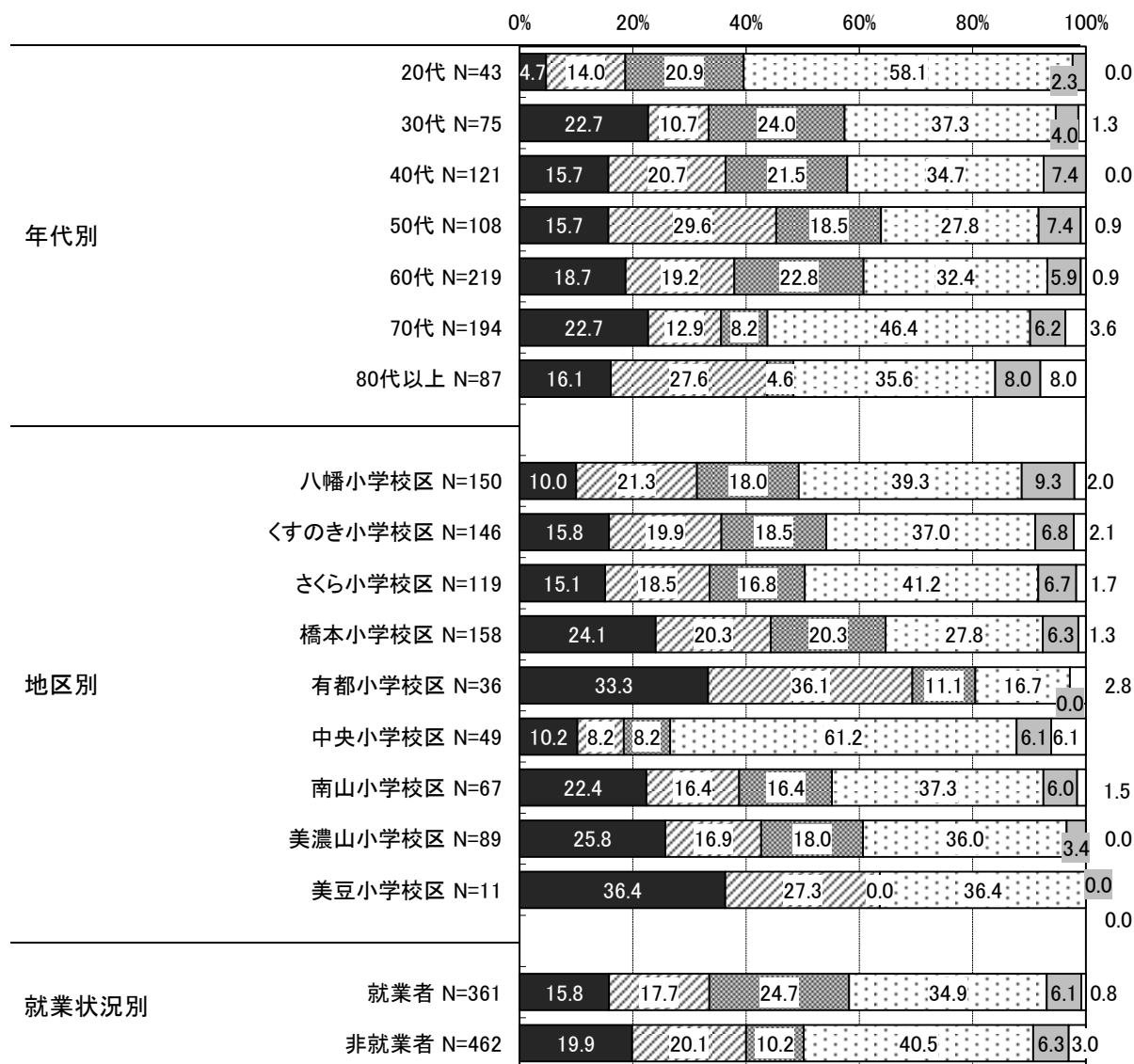


【年代別・地区別・就業状況別】

地域活動やボランティア活動の参加状況を年代別にみると、『30代』『70代』で「参加している」がそれぞれ22.7%で、各年代の中では比較的高くなっています。

地区別では『中央小学校区』で「まったく参加したことがなく、今後も参加したいと思わない」が61.2%と、他の地区よりも高くなっています。

就業状況別では『就業者』『非就業者』ともに「まったく参加したことがなく、今後も参加したいと思わない」が最も高くなっています。



- 参加している
- ▣以前に参加したことがあるが、現在参加していない
- ▨まったく参加したことはないが、今後参加したい
- まったく参加したことはなく、今後も参加したいと思わない
- その他
- 不明・無回答

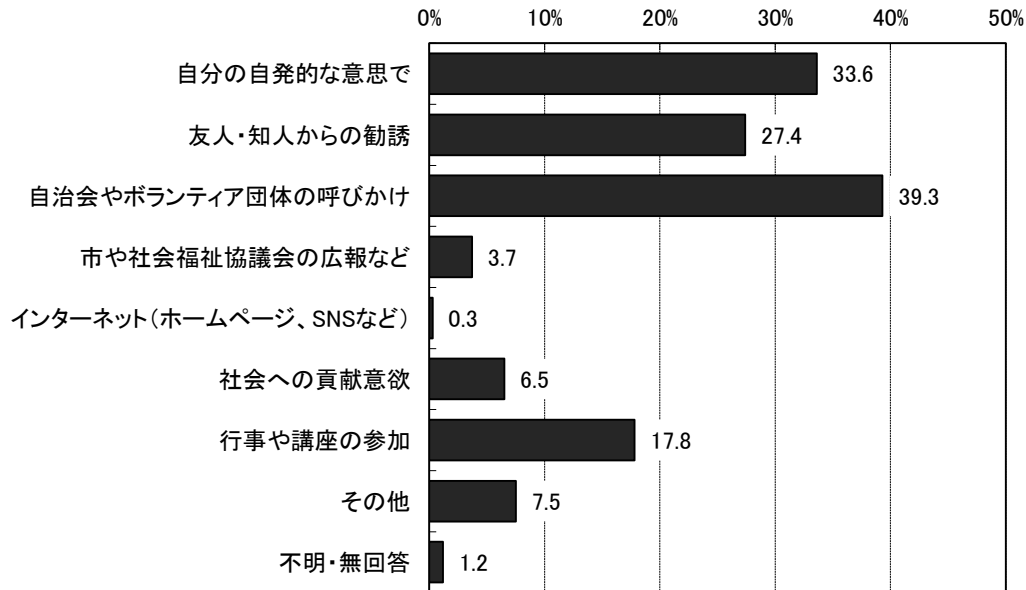
〔調査票／問 17（2） 複数回答〕

問 17（1）で「参加している」「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」に○をつけた方におうかがいします。

あなたが地域活動やボランティア活動をはじめたきっかけはなんですか。

地域活動やボランティア活動をはじめたきっかけは、「自治会やボランティア団体の呼びかけ」が 39.3%と最も高く、次いで「自分の自発的な意思」が 33.6%、「友人・知人からの勧誘」が 27.4%となっています。

全体 N=321



【世代別】

地域活動やボランティア活動をはじめたきっかけを世代別にみると、『20、30代』『40、50代』で「自治会やボランティア団体の呼びかけ」が最も高く、『60代以上』では「自分の自発的な意思」が最も高くなっています。

世代別	対象者数(人)	自分の自発的な意思で	友人・知人からの勧誘	自治会やボランティア団体の呼びかけ	市や社会福祉協議会の広報など	インターネット	社会への貢献意欲	行事や講座の参加	その他	不明・無回答
		20、30代	33	18.2	21.2	39.4	3.0	3.0	0.0	9.1
40、50代	93	23.7	17.2	46.2	1.1	0.0	4.3	18.3	15.1	1.1
60代以上	190	41.6	32.6	36.8	5.3	0.0	8.9	18.9	3.7	1.1

(単位: %)

※各属性の標本数が少ない場合、上位3位の色付けは原則行っていませんが、世代別の状況を比較するため、例外的に分析しています。

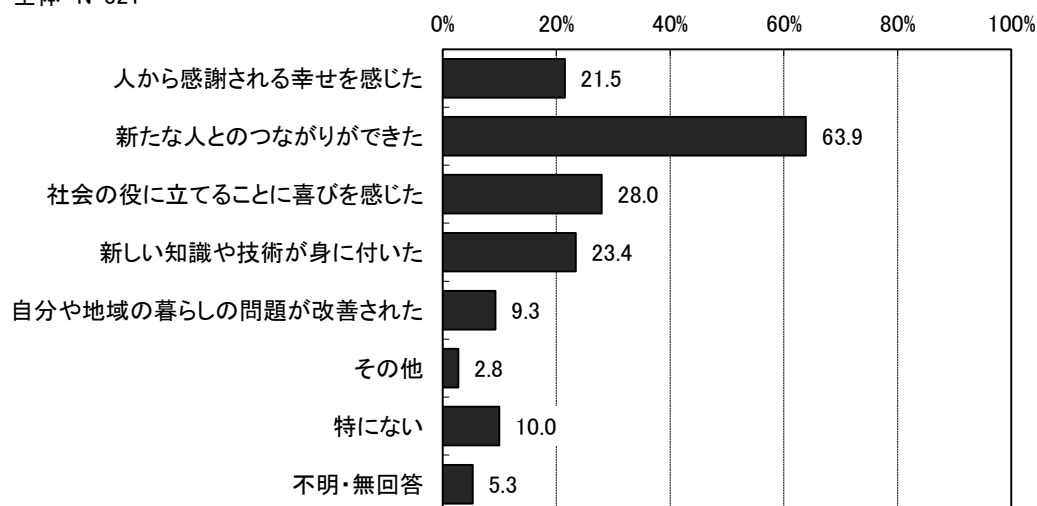
〔調査票／問 17（3） 複数回答〕

問 17（1）で「参加している」「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」に○をつけた方におうかがいします。

あなたが地域活動やボランティア活動に参加して、よかったと思う点はどうのことですか。

地域活動やボランティア活動に参加してよかったと思う点は、「新たな人とのつながりができた」が 63.9%と最も高く、次いで「社会の役に立てることに喜びを感じた」が 28.0%、「新しい知識や技術が身についた」が 23.4%となっています。

全体 N=321



【世代別】

地域活動やボランティア活動に参加してよかったと思う点を世代別にみると、すべての世代で「新たな人とのつながりができた」が最も高く、次いで「社会の役に立てることに喜びを感じた」となっています。3番目は『20、30代』『40、50代』では「新しい知識や技術が身についた」、『20、30代』『60代以上』では「人から感謝される幸せを感じた」となっています。

		対象者数（人）	人から感謝される幸せを感じた	新たな人とのつながりができた	社会の役に立てることに喜びを感じた	新しい知識や技術が身についた	自分や地域の暮らしの問題が改善された	その他	特にない	不明・無回答
世代別	20、30代	33	21.2	48.5	33.3	21.2	0.0	3.0	15.2	0.0
	40、50代	93	11.8	59.1	21.5	19.4	5.4	2.2	15.1	2.2
	60代以上	190	26.8	68.9	30.5	25.8	13.2	3.2	6.8	7.4

（単位：％）

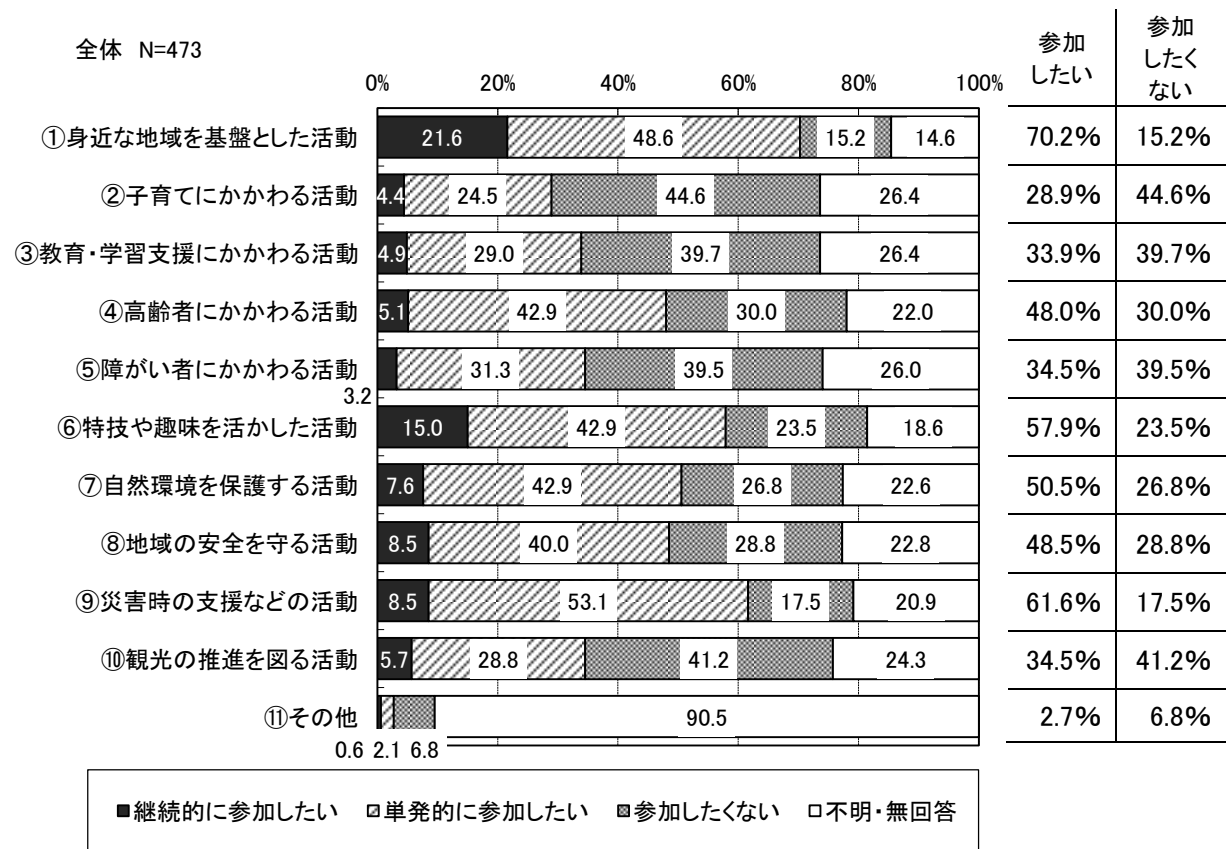
※各属性の標本数が少ない場合、上位3位の色付けは原則行っていませんが、世代別の状況を比較するため、例外的に分析しています。

〔調査票／問 17（4） ①～⑩それぞれ単数回答〕

問 17（1）で「参加している」「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」「まったく参加したことはないが、今後参加したい」に○をつけた方におうかがいします。
あなたが参加してみたい活動はありますか。

参加してみたい活動をみると、「①身近な地域を基盤とした活動」「⑥特技や趣味を活かした活動」「⑦自然環境を保護する活動」「⑨災害時の支援などの活動」で「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）が5割を超えています。

反対に「②子育てにかかわる活動」「③教育・学習支援にかかわる活動」「⑤障がい者にかかわる活動」「⑩観光の推進を図る活動」で「参加したくない」が「参加したい」を上回っています。



■ その他の活動

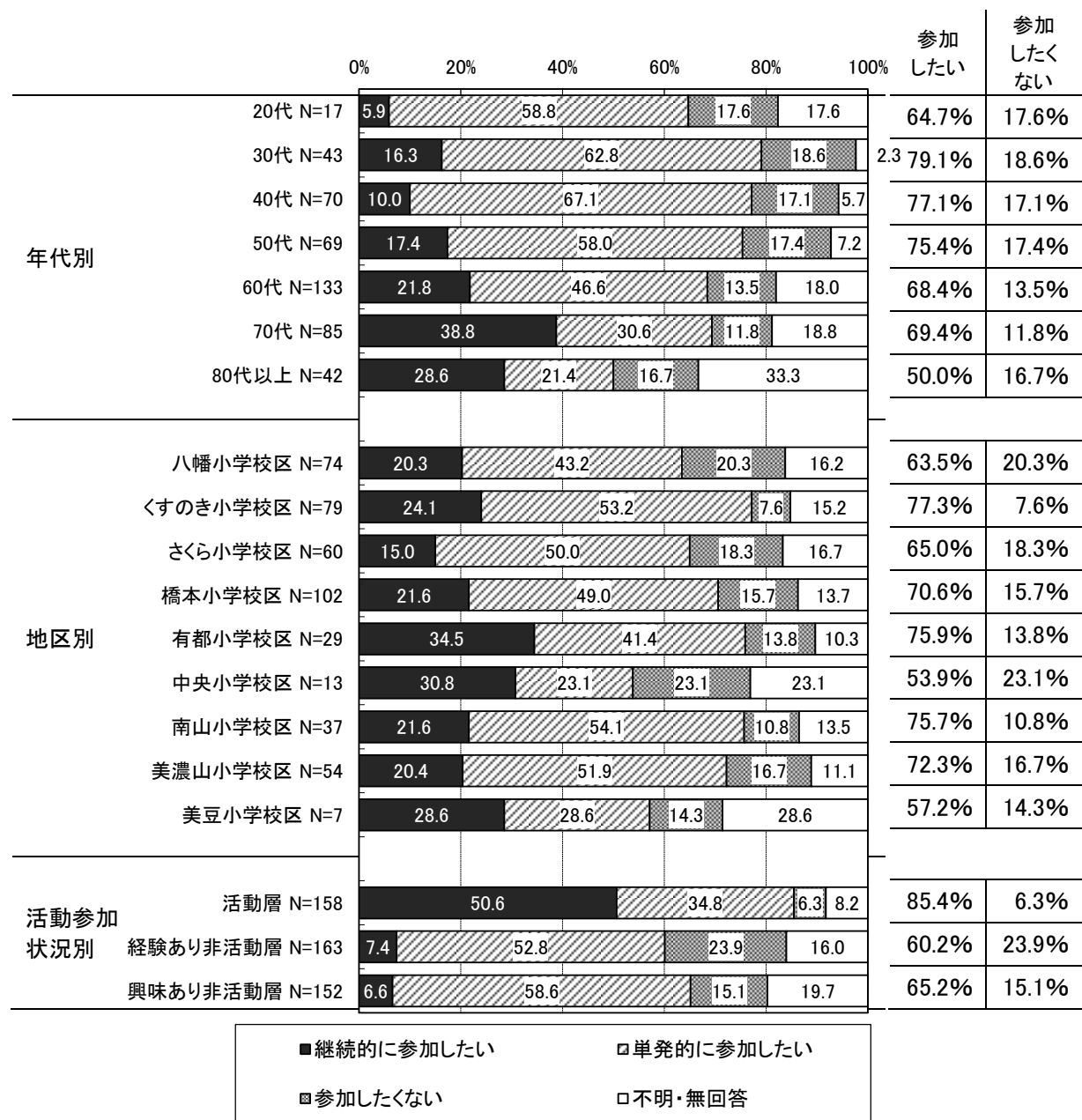
その他	件数
健康や身体的な理由でできない	8
保育所や作業所の手伝い	1
竹林の整備	1

①身近な地域を基盤とした活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

①身近な地域を基盤とした活動への年代別参加意欲は、『70代』で「継続的に参加したい」が38.8%、『80代以上』で28.6%、『60代』で21.8%となっており、高い年代において参加意欲が高くなっています。

地区別にみると、『有都小学校区』『中央小学校区』で「継続的に参加したい」が3割台となっており、『八幡小学校区』『くすのき小学校区』『橋本小学校区』『南山小学校区』『美濃山小学校区』『美豆小学校区』で「継続的に参加したい」が2割台となっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』は「継続的に参加したい」が50.6%、『経験あり非活動層』『興味あり非活動層』では「単発的に参加したい」がそれぞれ52.8%、58.6%と、5割台となっています。

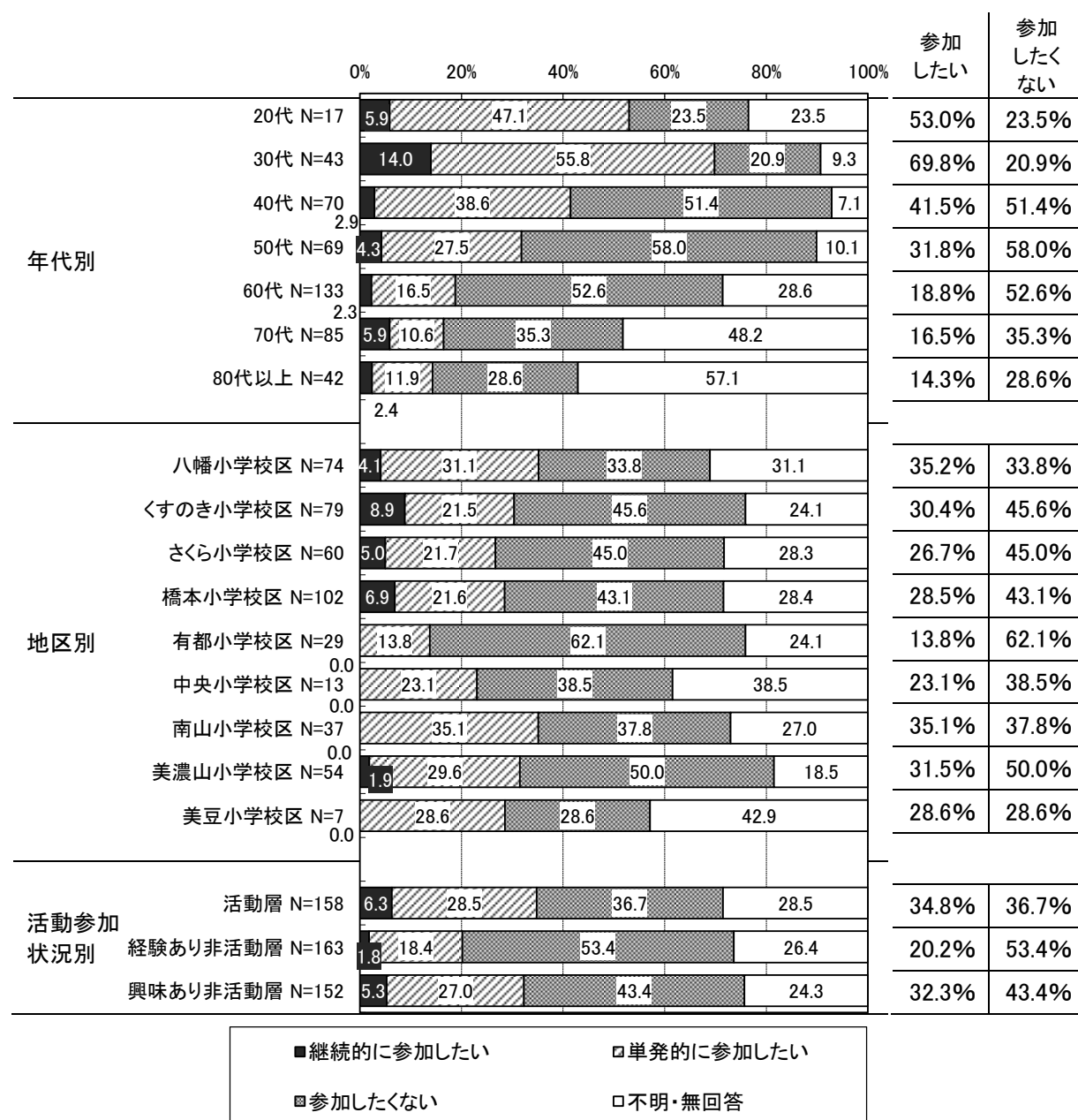


②子育てにかかわる活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

②子育てにかかわる活動への年代別参加意欲は『30代』で「単発的に参加したい」が55.8%と、高くなっています。一方で、『40代』から『60代』では「参加したくない」が5割台となっており、年代が高くなるにつれて参加意欲が低下していることがうかがえます。

地区別にみると、いずれの地区でも低いものの、『南山小学校区』で「単発的に参加したい」が35.1%となっており、地区の中でも比較的高くなっています。

活動参加状況別にみると、いずれの参加層でも低いものの、「継続的に参加したい」「単発的に参加したい」が『活動層』ではそれぞれ6.3%、28.5%、『興味あり非活動層』ではそれぞれ5.3%、27.0%と、概ね同様の結果となっています。

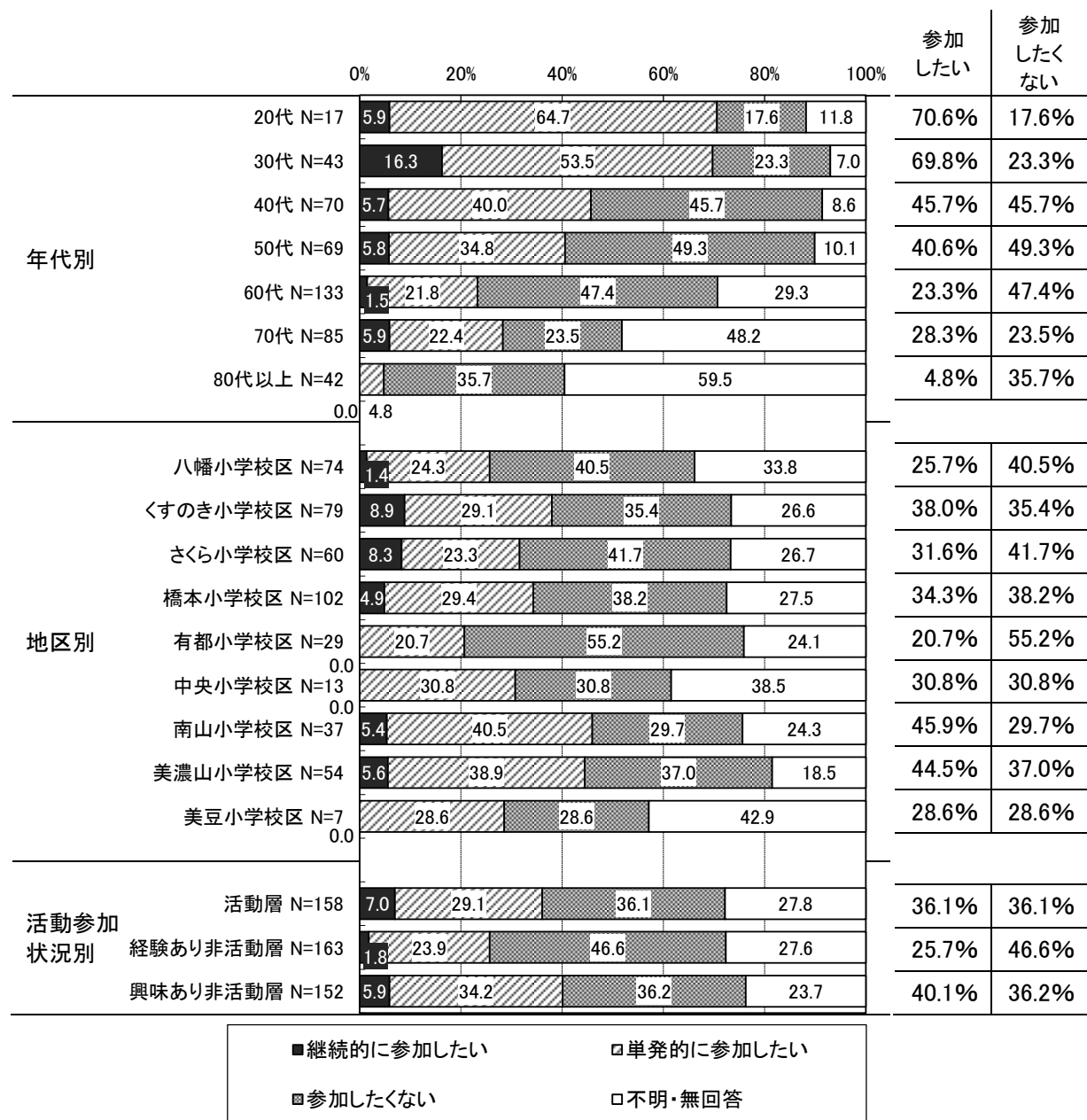


③教育・学習支援にかかわる活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

③教育・学習視線にかかわる活動への年代別参加意向は、『30代』において「継続的に参加したい」が16.3%と比較的高くなっており、「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）は『20代』で70.6%、『30代』で69.8%と高くなっています。

地区別にみると、『南山小学校区』『美濃山小学校区』で「参加したい」が4割台となっており、他の地区と比較して高くなっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』より『興味あり非活動層』で「参加したい」の割合が高くなっています。

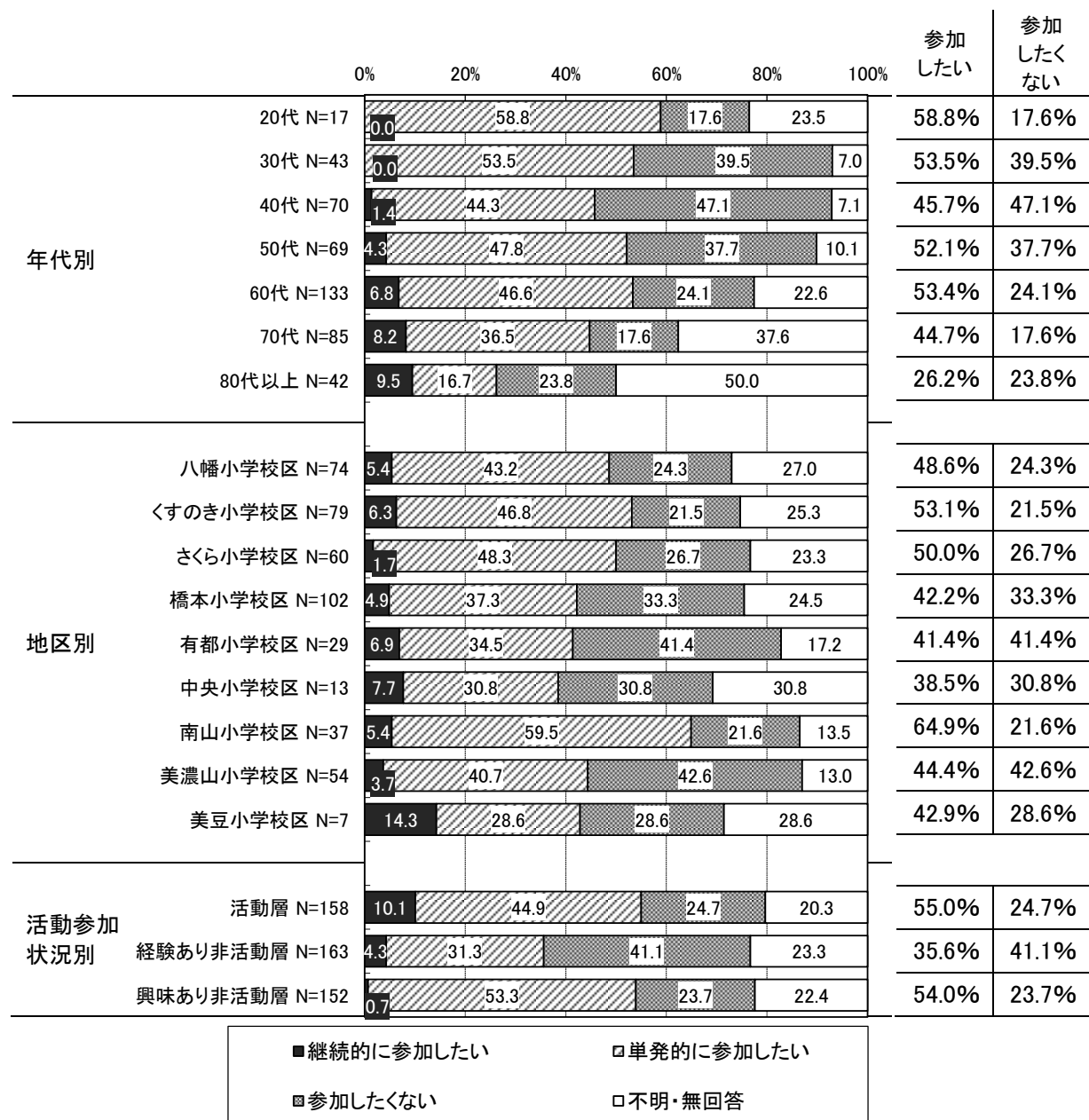


④高齢者にかかわる活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

④高齢者にかかわる活動への年代別参加意向は、『20代』『30代』で「継続的に参加したい」と回答した方はおりませんが、「単発的に参加したい」が5割台となっています。

地区別にみると、『くすのき小学校区』『さくら小学校区』『南山小学校区』では「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）が5割以上となっています。一方で『有都小学校区』『美濃山小学校区』では「参加したくない」が4割台となっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』より『興味あり非活動層』で「単発的に参加したい」の割合が高くなっています。

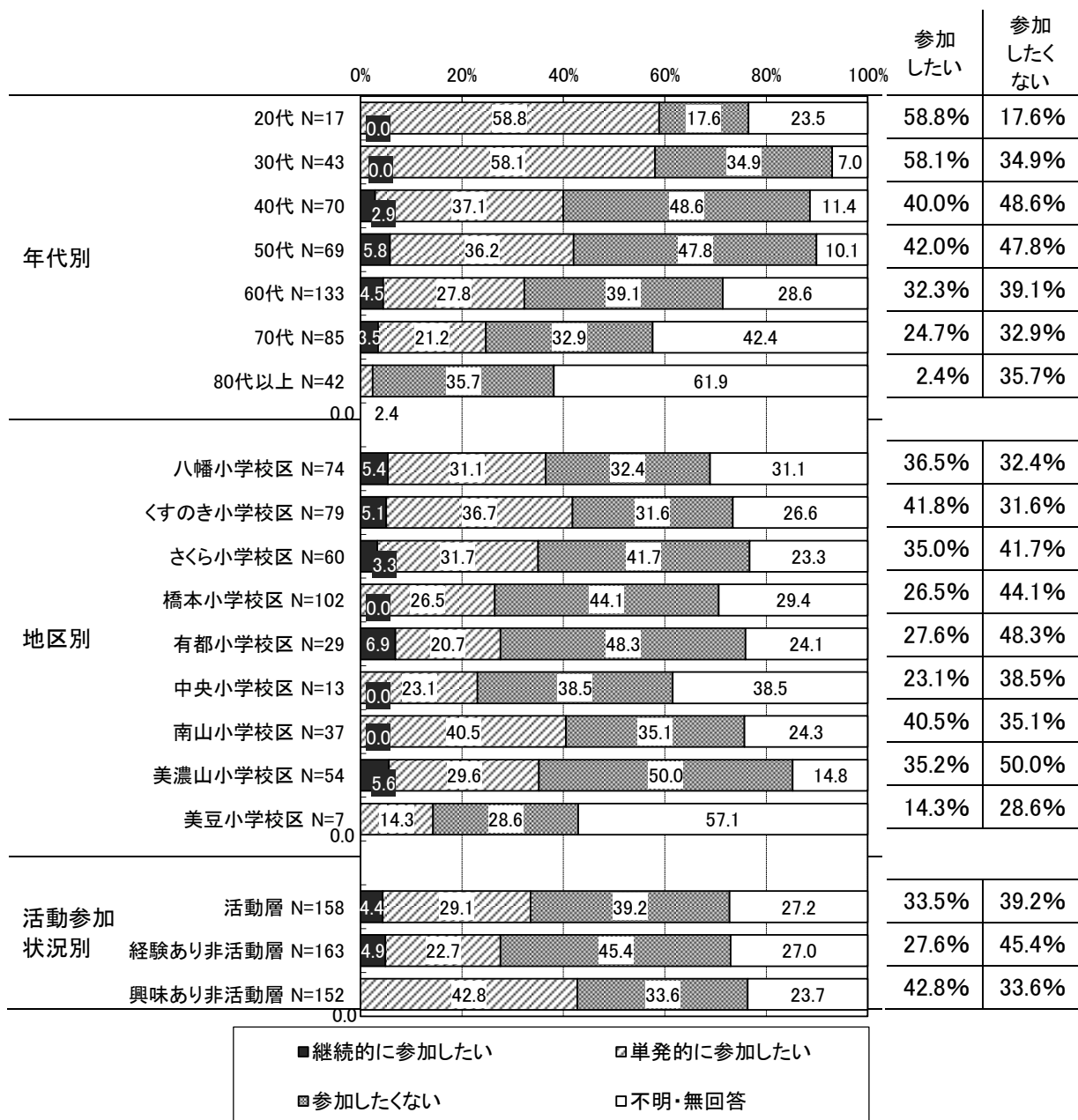


⑤障がい者にかかわる活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑤障がい者にかかわる活動への年代別参加意向は、『20代』『30代』で「継続的に参加したい」と回答した方はおりませんが、「単発的に参加したい」が5割台となっています。

地区別にみると、『くすのき小学校区』『南山小学校区』では「参加したい」が4割台となっています。一方で、『美濃山小学校区』では「参加したくない」が5割となっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』では「参加したい」より「参加したくない」が高くなっており、また、『活動層』より『興味あり非活動層』で「単発的に参加したい」の割合が高くなっています。

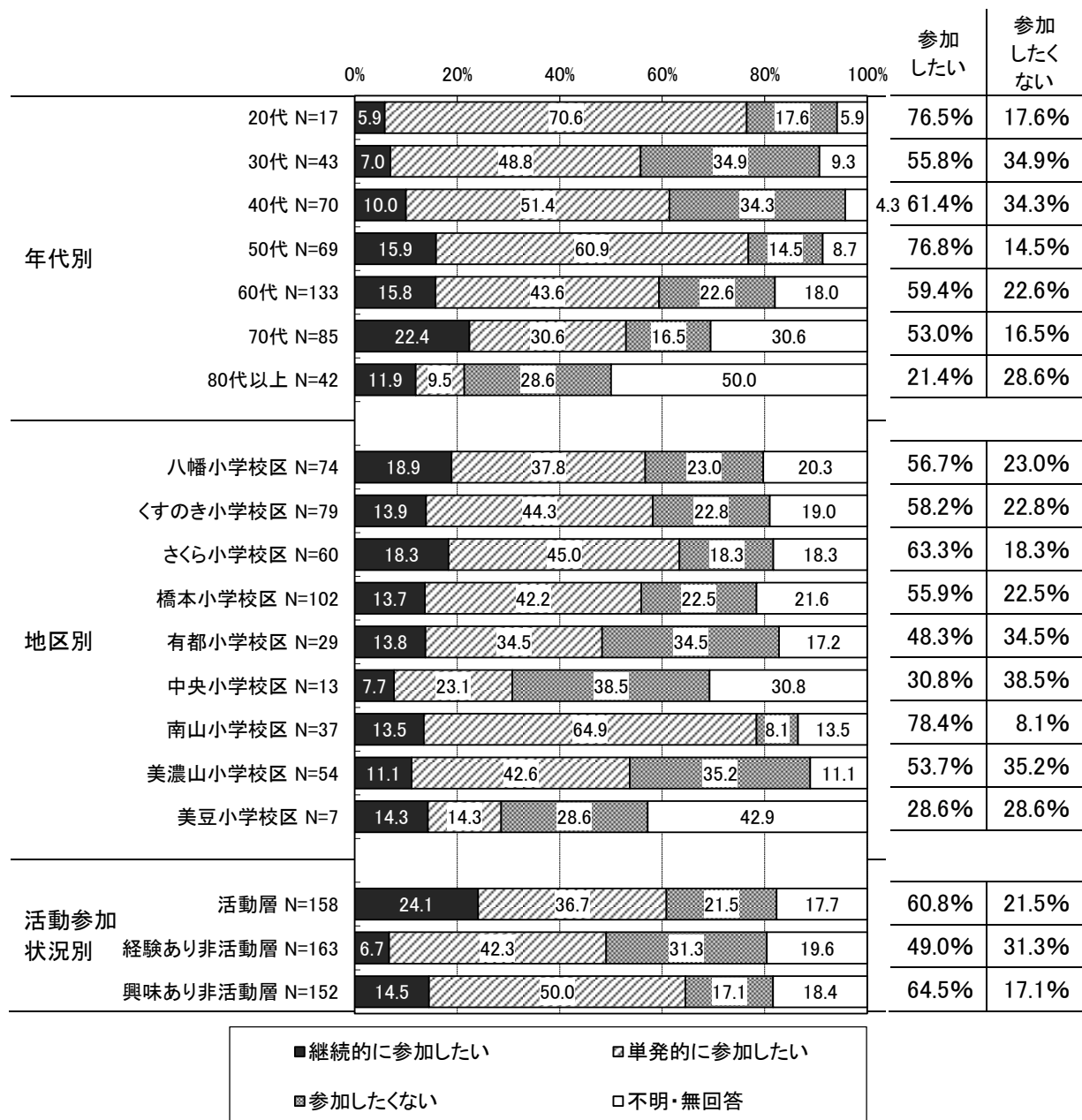


⑥特技や趣味を活かした活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑥特技や趣味を活かした活動への年代別参加意向は、『20代』『50代』で「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）が7割台となっており、他の世代と比べて高い割合を占めています。

地区別にみると、『南山小学校区』で「参加したい」が78.4%と他の地区と比較して高くなっています。一方で『有都小学校区』『中央小学校区』『美濃山小学校区』では「参加したくない」が3割台となっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』より『興味あり非活動層』で「参加したい」の割合が高くなっています。

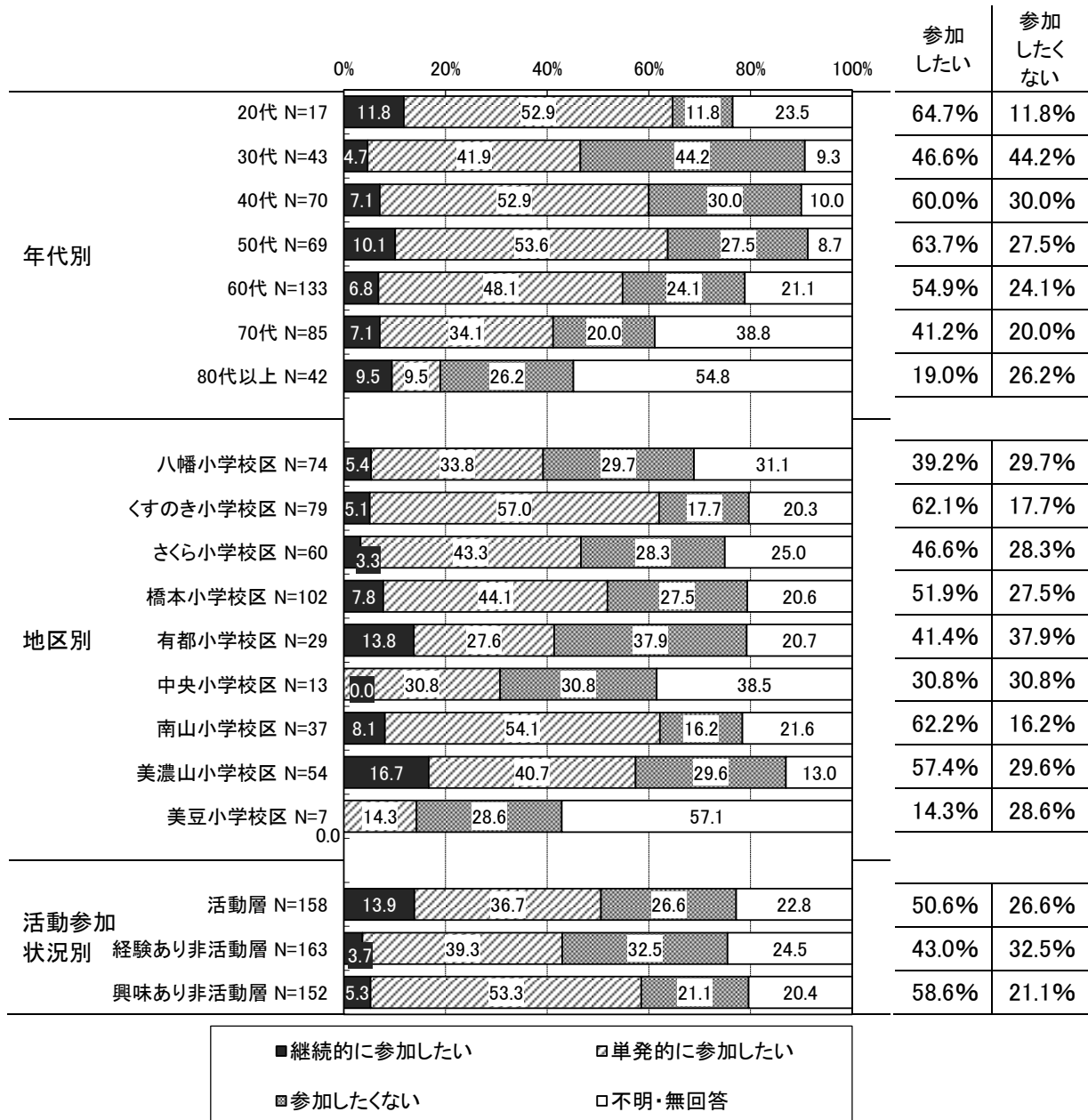


⑦自然環境を保護する活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑦自然環境を保護する活動への年代別参加意向は、『20代』『40代』『50代』で「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）が6割台となっています。

地区別にみると、『くすのき小学校区』『橋本小学校区』『南山小学校区』『美濃山小学校区』では「参加したい」が5割以上となっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』より『興味あり非活動層』で「参加したい」の割合が高くなっています。

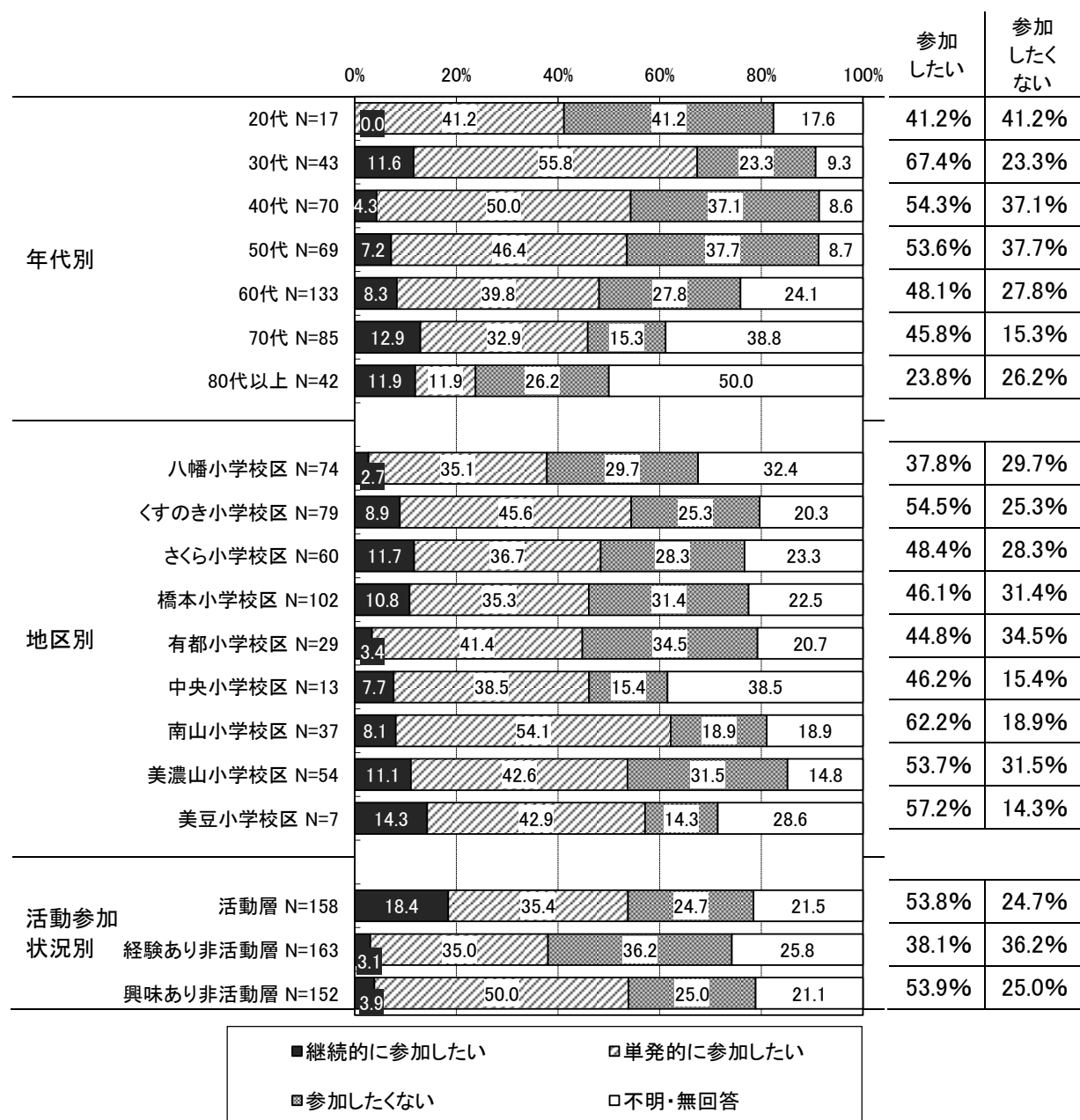


⑧地域の安全を守る活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑧地域の安全を守る活動への年代別参加意向は、『30代』で「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）が67.4%となっており、『30代』をピークに年代が高くなるにつれて「参加したい」の割合が減少しています。

地区別にみると、『くすのき小学校区』『南山小学校区』『美濃山小学校区』『美豆小学校区』では「参加したい」が5割以上となっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』と『興味あり非活動層』で「参加したい」の割合がほぼ同率となっています。

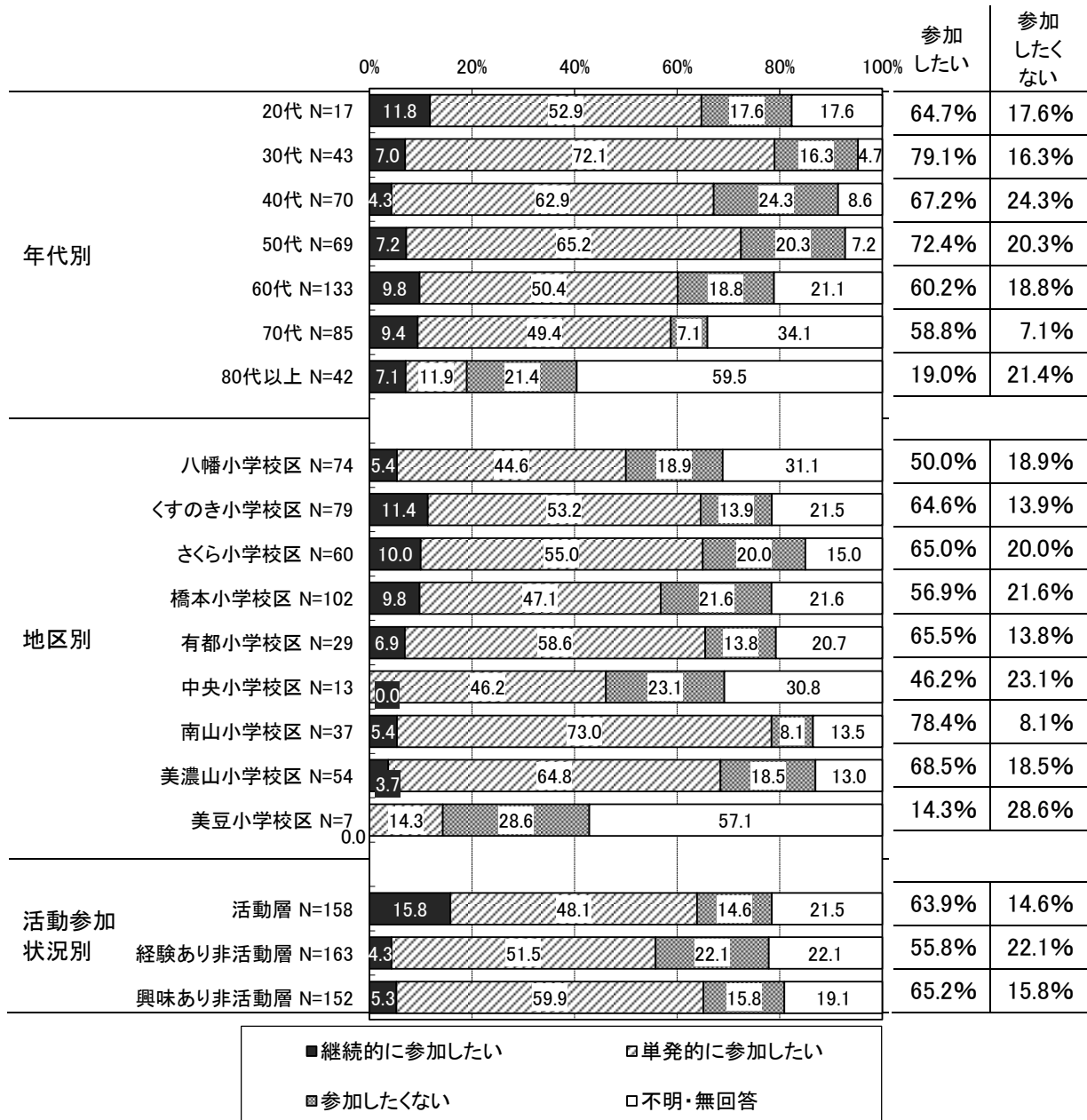


⑨災害時の支援などの活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑨災害時の支援などの活動への年代別参加意向は、『80代以上』を除くすべての年代で、「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）が5割を超えています。

地区別にみると、『南山小学校区』では「参加したい」が78.4%と他の地区と比較して高くなっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』より『興味あり非活動層』で「参加したい」の割合が高くなっています。

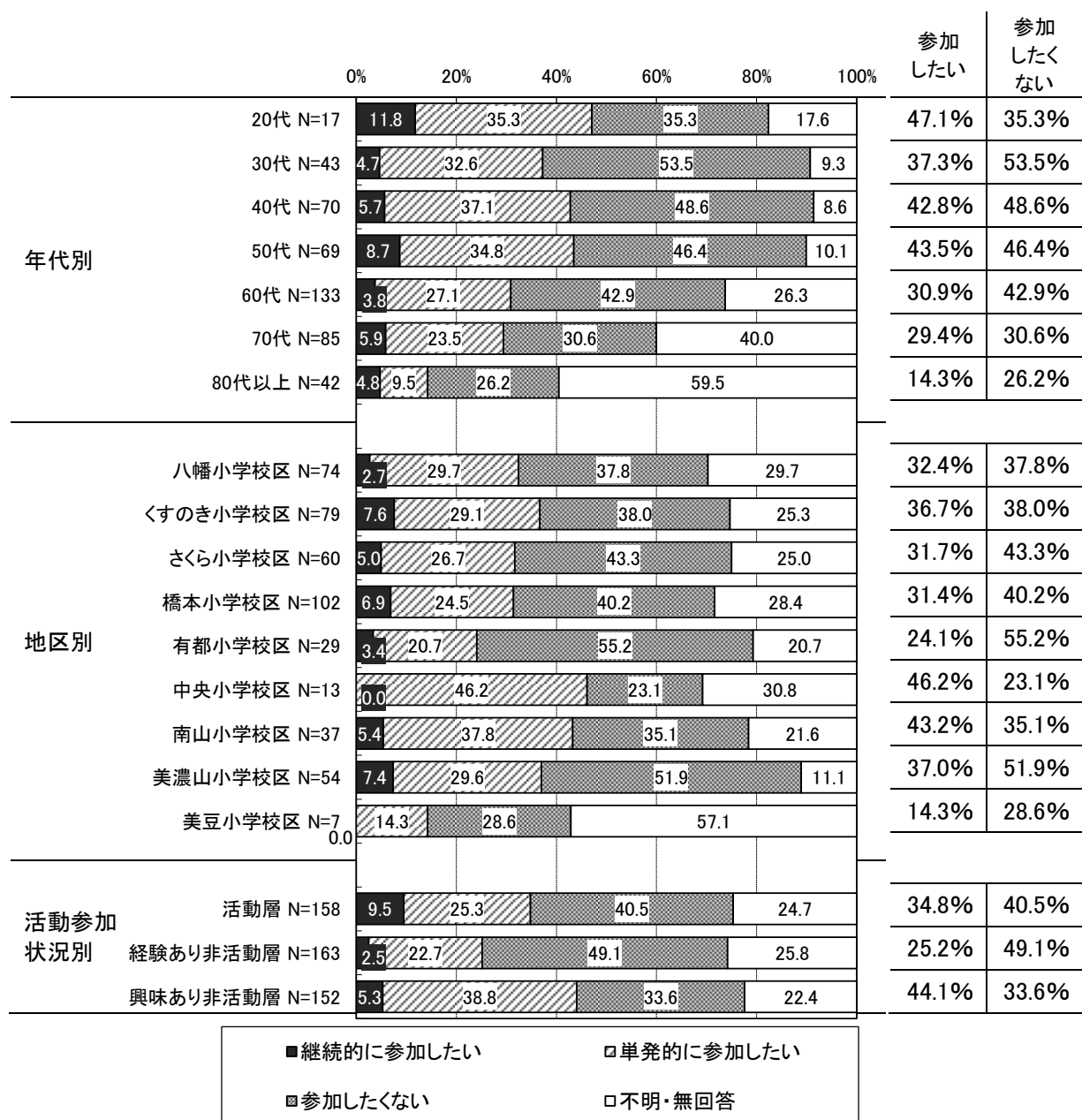


⑩観光の推進を図る活動【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑩観光の推進を図る活動への年代別参加意向は、『30代』以上の年代で「参加したい」（「継続的に参加したい」と「単発的に参加したい」の合計）よりも「参加したくない」の割合が高くなっています。

地区別にみると、『中央小学校区』『南山小学校区』では、「参加したくない」よりも「参加したい」の割合が高くなっています。

活動参加状況別にみると、『活動層』より『興味あり非活動層』で「参加したい」の割合が高くなっています。

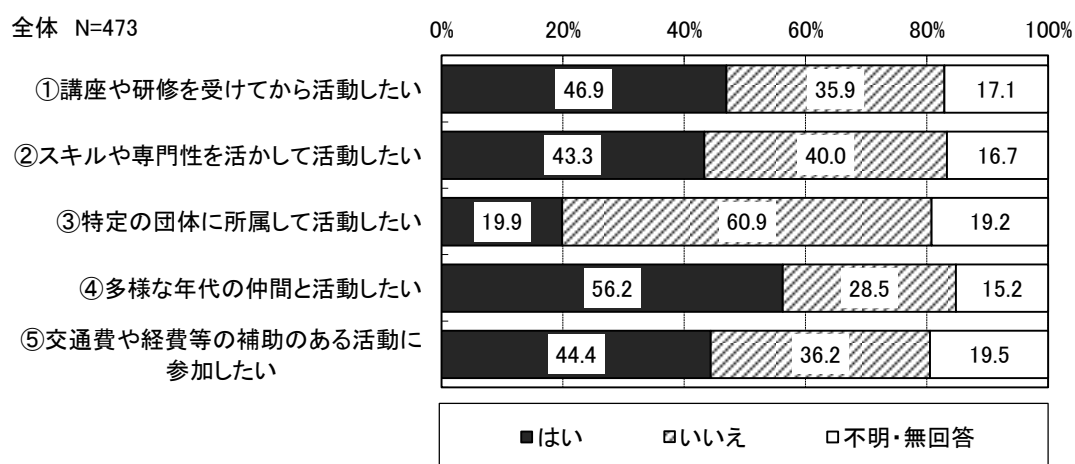


〔調査票／問 17（5） ①～⑤それぞれ単数回答〕

問 17（1）で「参加している」「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」「まったく参加したことはないが、今後参加したい」に○をつけた方におうかがいします。

あなたは今後、地域活動やボランティア活動にどのような関わり方をしたいと思いますか。

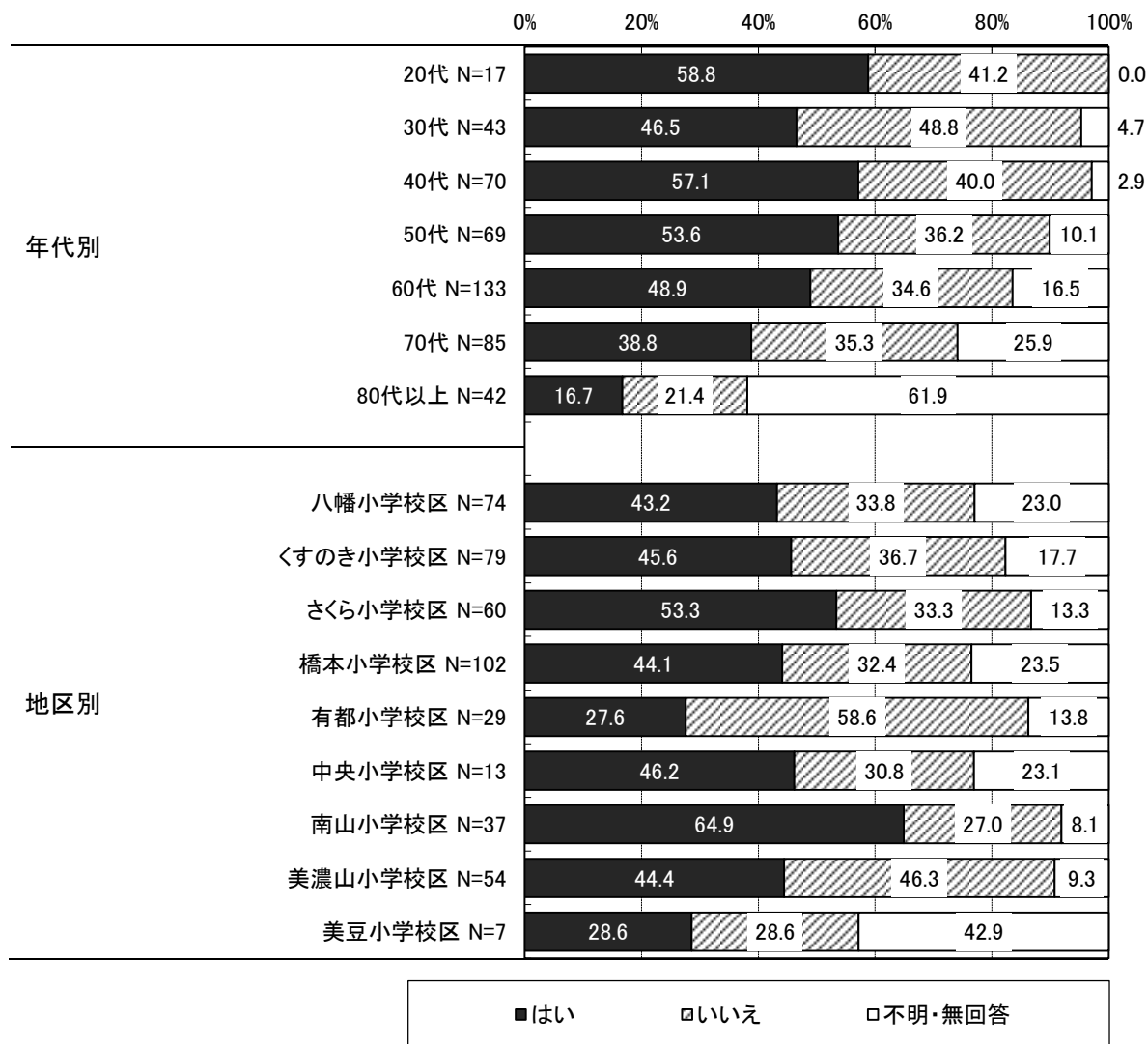
今後の地域活動やボランティア活動への関わりについて、「①講座や研修を受けてから活動したい」「②スキルや専門性を活かして活動したい」「④多様な年代の仲間と活動したい」「⑤交通費や経費等の補助のある活動に参加したい」においては「はい」と答えた割合が「いいえ」を上回っており、「③特定の団体に所属して活動したい」においては「いいえ」が「はい」より、およそ3倍の回答となっています。



①講座や研修を受けてから活動したい【年代別・地区別】

①講座や研修を受けてから活動したいという意見を年代別にみると、『30代』『80代以上』以外のすべての年代で「はい」が「いいえ」を上回っています。

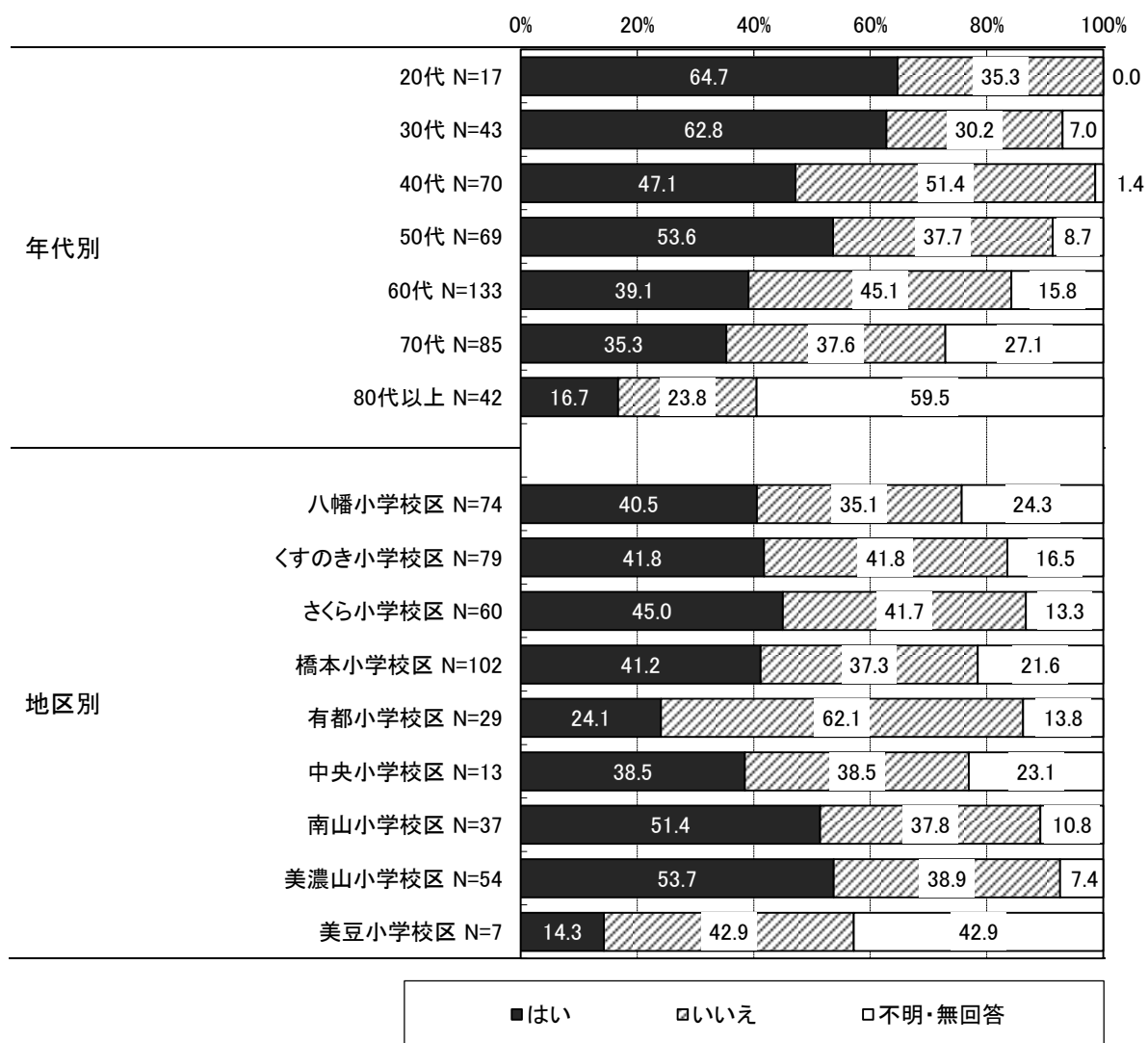
地区別では『さくら小学校区』『南山小学校区』で「はい」が5割以上となっています。



②スキルや専門性を活かして活動したい【年代別・地区別】

②スキルや専門性を活かして活動したいという意見を年代別にみると、『20代』『30代』で「はい」が6割台と高く、年代が上がるほど割合が低くなる傾向となっています。

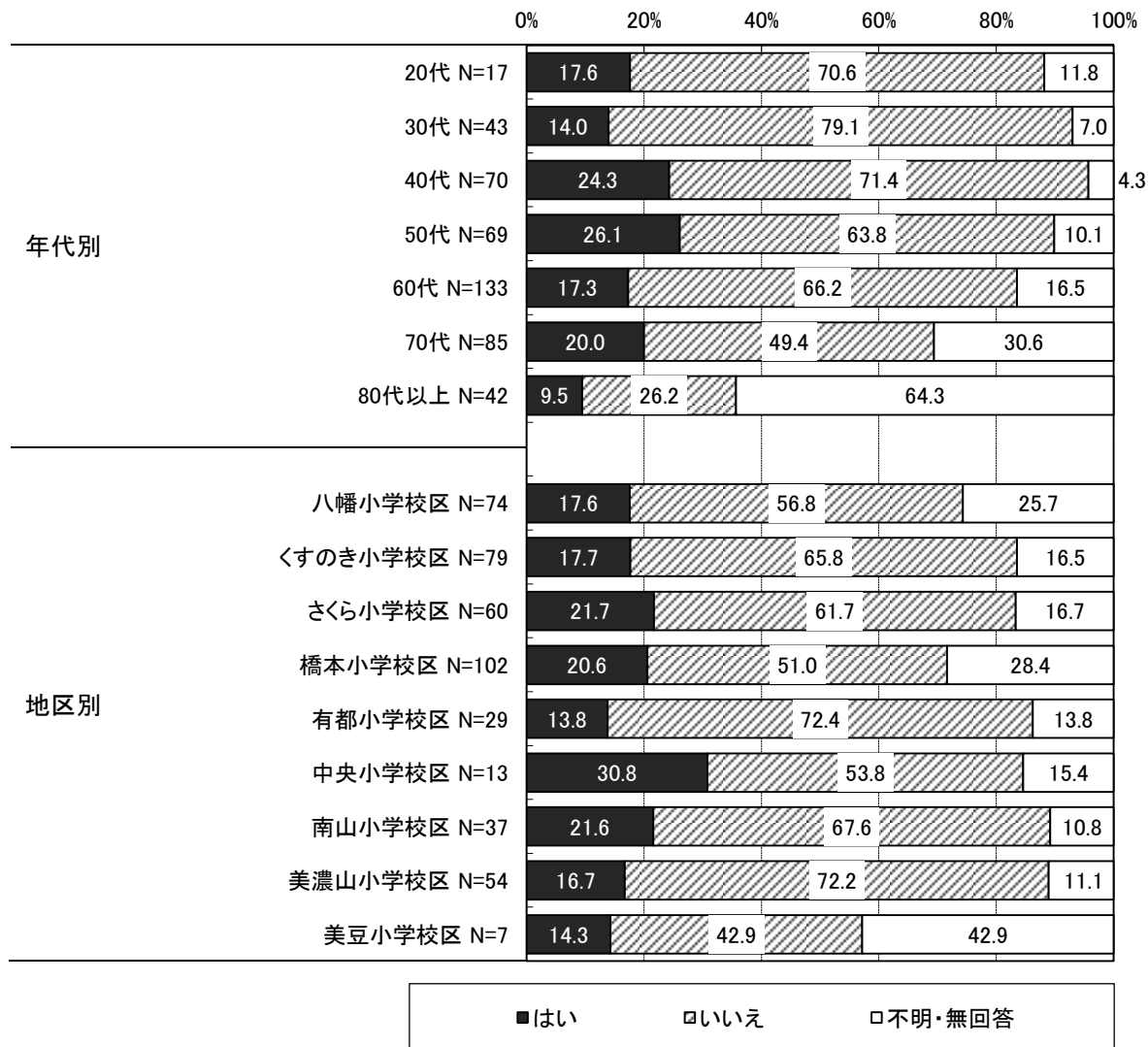
地区別では『南山小学校区』『美濃山小学校区』で「はい」が5割台となっています。



③特定の団体に所属して活動したい【年代別・地区別】

③特定の団体に所属して活動したいという意見を年代別にみると、『20代』から『40代』で「いいえ」が7割台となっています。また、「はい」という回答は『40代』『50代』で2割台となっています。

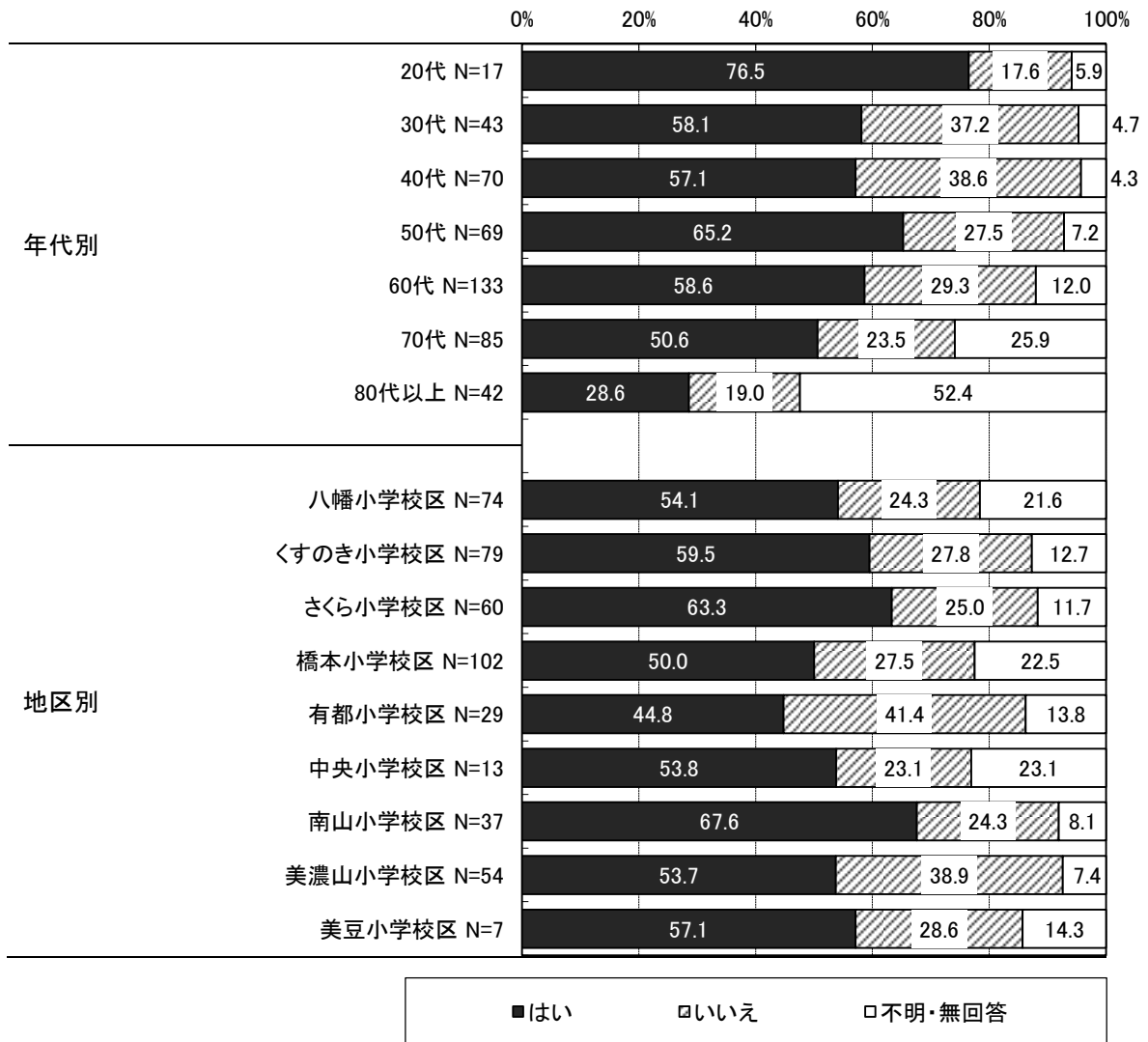
地区別でみると、『有都小学校区』『美濃山小学校区』では「いいえ」が7割台となっています。



④多様な年代の仲間と活動したい【年代別・地区別】

④多様な年代の仲間と活動したいという意見を年代別にみると『30代』『40代』で「いいえ」が3割台と、他の年代よりも高い割合となっています。

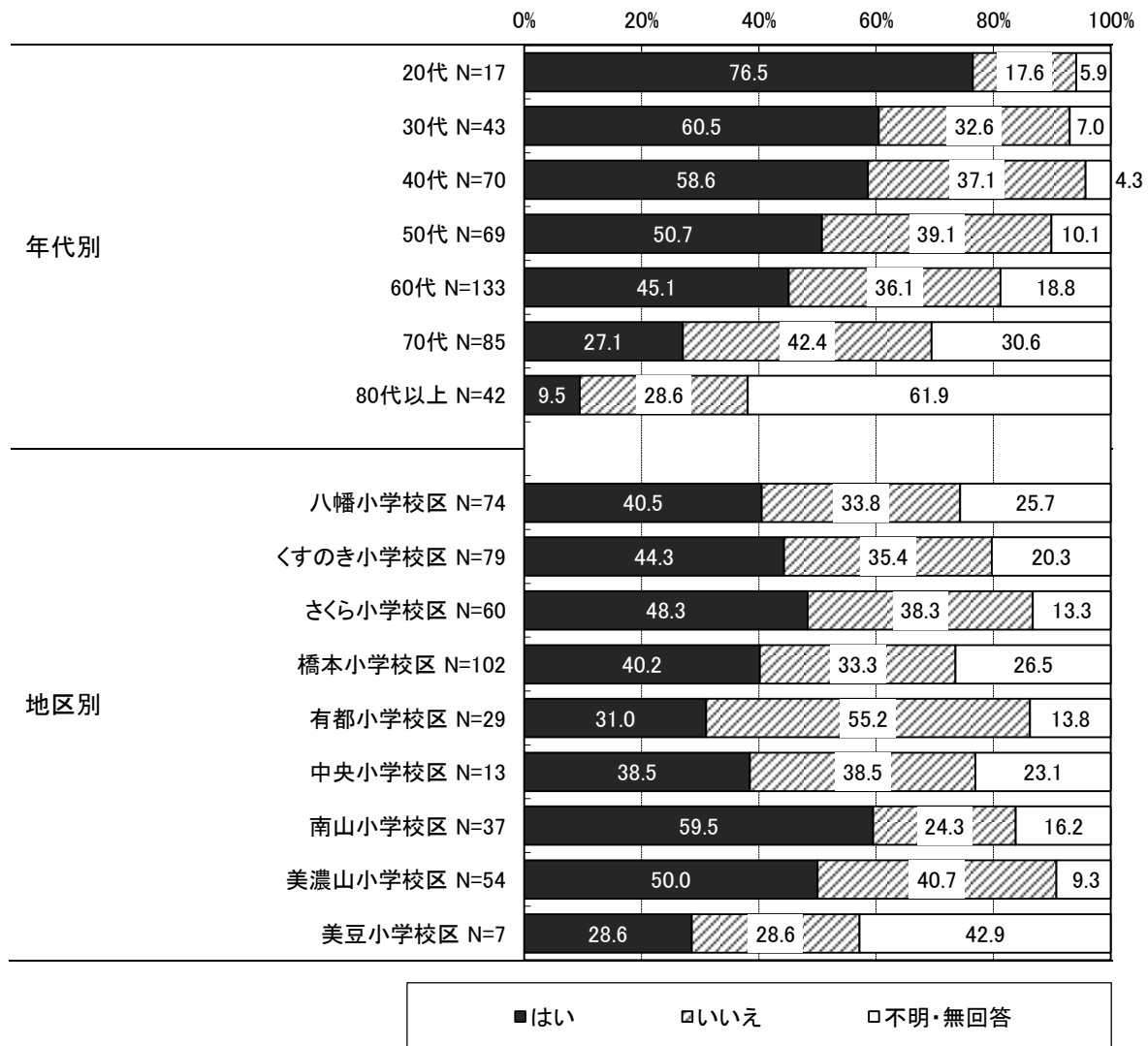
地区別にみると、『有都小学校区』を除くすべての地区で、「はい」が5割以上となっています。



⑤交通費や経費等の補助のある活動に参加したい【年代別・地区別】

⑤交通費や経費等の補助のある活動に参加したいという意見を年代別にみると、年代が高くなるにつれて「はい」の割合が減少しますが、『30代』から『60代』において、「いいえ」の割合は3割台でほぼ変化は見られません。

地区別にみると『南山小学校区』『美濃山小学校区』で「はい」が5割台となっています。

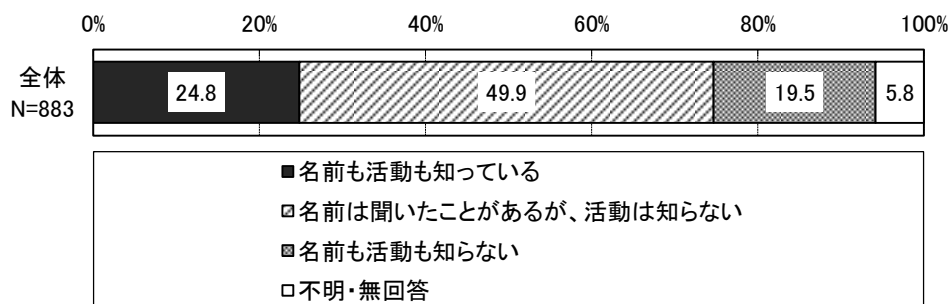


〔調査票／問 18 単数回答〕

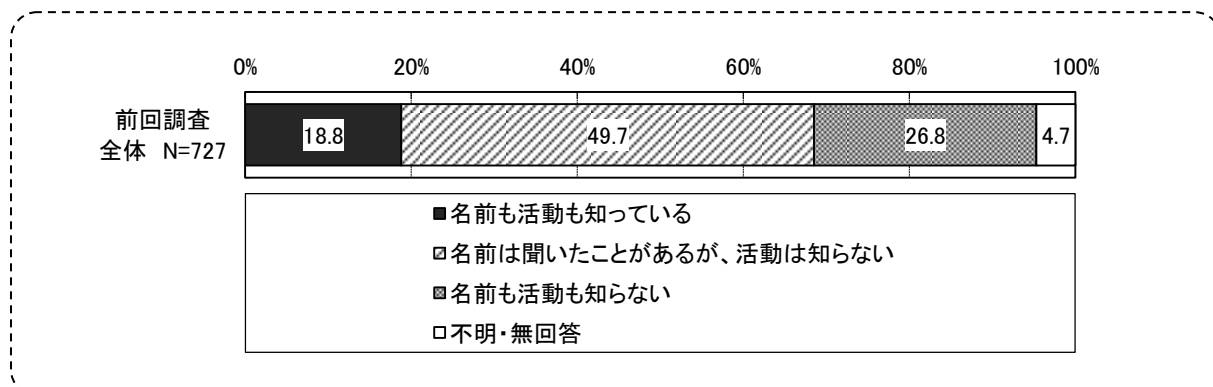
あなたは、社会福祉協議会をご存知ですか。

社会福祉協議会の認知度は、「名前も活動も知っている」が 24.8%、「名前は聞いたことがあるが、活動は知らない」が 49.9%、「名前も活動も知らない」が 19.5%となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」（「名前も活動も知っている」と「名前は聞いたことがあるが、活動は知らない」の合計）は、前回調査の 68.5%から本調査の 74.7%と、6.2ポイント増加している一方で、「名前も活動も知らない」は、前回調査の 26.8%から本調査の 19.5%と、7.3ポイント減少しており、認知度が高まっていることがわかります。



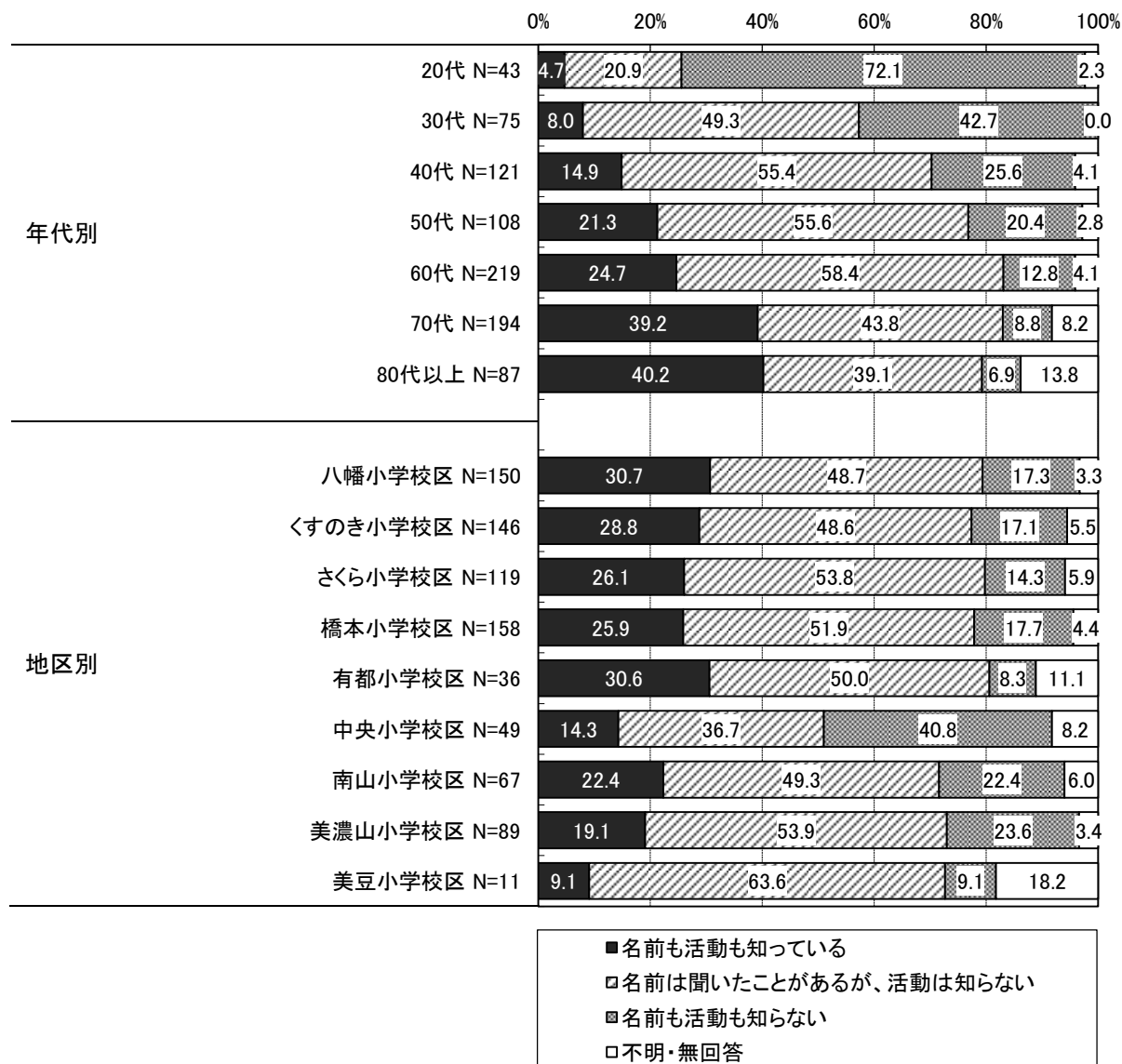
【前回調査結果】



【年代別・地区別】

社会福祉協議会の認知度を年代別にみると、年代が高くなるほど認知度が高くなる傾向にあります。

地区別では、『中央小学校区』『美豆小学校区』で「名前も活動も知っている」が他の地区と比較して低く、『中央小学校区』は「名前も活動も知らない」が40.8%と高くなっています。

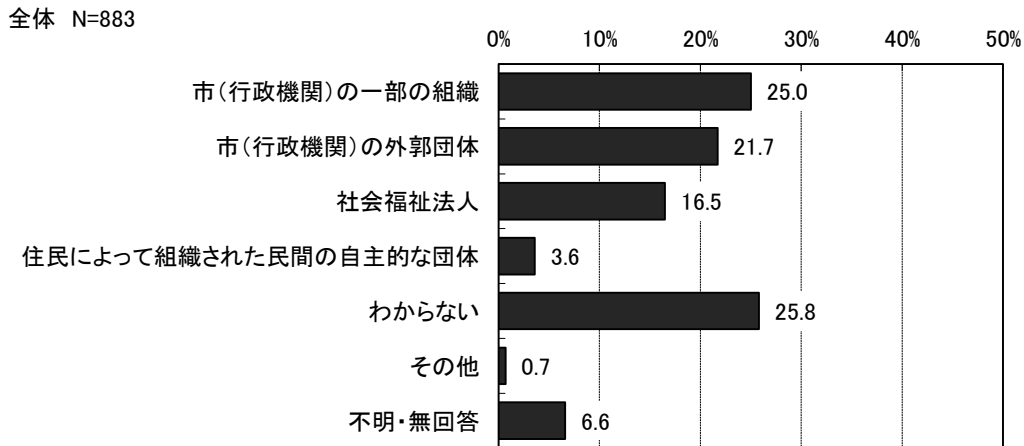


〔調査票／問 19 単数回答〕

あなたが感じている社会福祉協議会の組織としてのイメージは、次のうちのどれですか。

社会福祉協議会へのイメージは、「わからない」が 25.8%と最も高く、前回調査の 30.0%から 4.2 ポイント減少しているものの、依然として認知度が低いことがうかがえます。

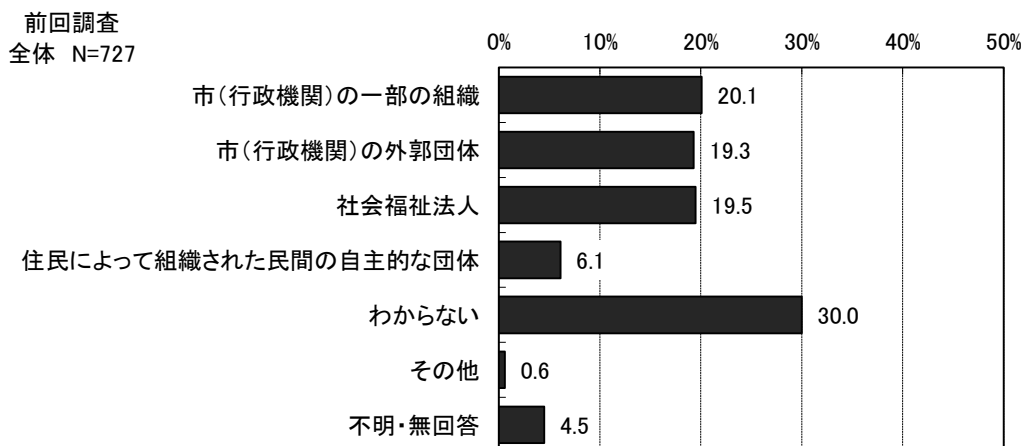
次いで、「市（行政機関）の一部の組織」が 25.0%、「市（行政機関）の外郭団体」が 21.7%となっており、本来の「社会福祉法人」としてのイメージは 16.5%で、前回調査の 19.5%から 3.0 ポイント減少しています。



■その他回答

その他	件数
本来、法人であるべきだが、行政の下請け状態に見える	1
税金対策の団体	1
一部の人への支援が手厚い	1
車椅子を貸してくれるそうだが、配達はしていない	1

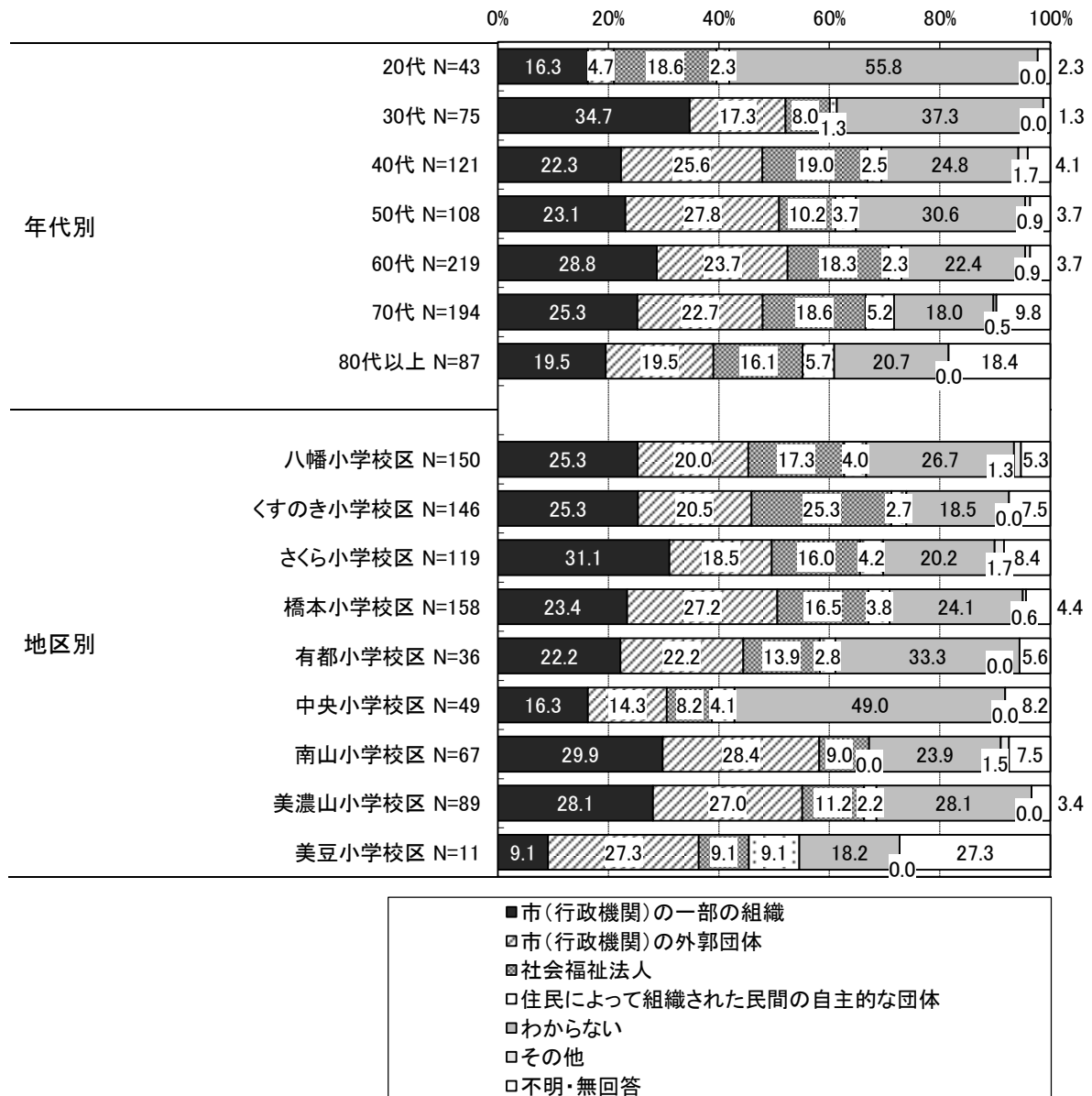
【前回調査結果】



【年代別・地区別】

年代別の社会福祉協議会へのイメージは、『20代』で「わからない」が55.8%と高くなっていますが、『30代』から『70代』では「市（行政機関）の一部の組織」「市（行政機関）の外郭団体」の合計が5割前後となっています。

地区別でみると『くすのき小学校区』で「社会福祉法人」が25.3%、また『中央小学校区』では「わからない」が49.0%と、それぞれ他の地区よりも高くなっています。

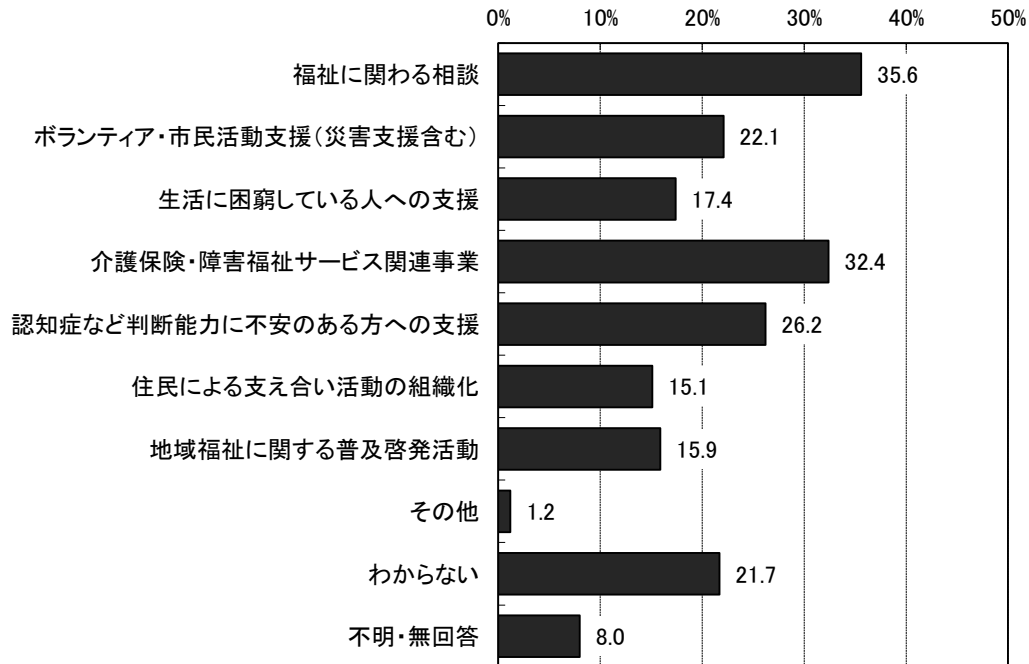


〔調査票／問 20 複数回答〕

社会福祉協議会が行う事業として、今後充実させるべきものはどのようなことだとお考えですか。

社会福祉協議会が行う事業として、今後充実させるべき事業は「福祉に関わる相談」が 35.6%と最も高く、次いで「介護保険・障害福祉サービス関連事業」が 32.4%、「認知症など判断能力に不安のある方への支援」が 26.2%となっています。

全体 N=883



■ その他回答

その他	件数
子育てなど育児に関するサービスの特化	2
わかりやすい支援制度の情報提供、問い合わせしやすい体制	1
生活保護の不正受給の是正	1
ケアマネジャーの管理・監督・指導・資質の把握	1
若手の増員	1
興味がない	1

【年代別・地区別】

社会福祉協議会で充実させるべき事を年代別でみると、『40代』で「介護保険・障害福祉サービス関連事業」が、『30代』と『50代』以上で「福祉に関わる相談」がそれぞれ最も高くなっています。また、『20代』『30代』では、社会福祉協議会への認知度が低いこともあり、「わからない」が最も高くなっています。

地区別では『南山小学校区』を除いた地区で「福祉に関わる相談」が最も高くなっています。『南山小学校区』においては、「わからない」が31.3%と最も高くなっています。

		対象者数（人）	福祉に関わる相談	ボランティア・市民活動支援	生活に困窮している人への支援	介護保険・障害福祉サービス関連事業	判断能力に不安のある方への支援	住民による支え合い活動の組織化	地域福祉に関する普及啓発活動	その他	わからない	不明・無回答
年代別	20代	43	16.3	18.6	27.9	16.3	9.3	11.6	7.0	0.0	41.9	2.3
	30代	75	34.7	20.0	18.7	30.7	25.3	17.3	14.7	2.7	34.7	1.3
	40代	121	31.4	23.1	12.4	37.2	30.6	9.1	18.2	1.7	30.6	4.1
	50代	108	43.5	25.0	20.4	39.8	36.1	13.9	12.0	0.0	20.4	3.7
	60代	219	40.6	23.7	19.2	33.3	31.1	19.2	22.4	0.9	16.9	4.6
	70代	194	35.1	20.6	11.9	34.5	20.1	18.6	12.9	1.0	15.5	14.9
	80代以上	87	31.0	18.4	20.7	19.5	20.7	8.0	16.1	2.3	16.1	19.5
地区別	八幡小学校区	150	38.0	20.7	22.0	36.0	27.3	12.7	18.0	0.7	20.7	6.0
	くすのき小学校区	146	34.9	21.9	14.4	29.5	27.4	15.8	21.2	0.7	16.4	8.9
	さくら小学校区	119	37.8	22.7	20.2	31.9	24.4	13.4	12.6	0.8	24.4	6.7
	橋本小学校区	158	34.2	27.2	15.8	34.2	27.2	15.8	17.1	1.9	16.5	8.2
	有都小学校区	36	50.0	22.2	25.0	47.2	30.6	19.4	16.7	0.0	16.7	5.6
	中央小学校区	49	30.6	18.4	18.4	26.5	26.5	14.3	14.3	2.0	22.4	14.3
	南山小学校区	67	28.4	16.4	11.9	25.4	16.4	19.4	14.9	1.5	31.3	10.4
	美濃山小学校区	89	39.3	23.6	12.4	34.8	31.5	16.9	13.5	2.2	28.1	3.4
美豆小学校区	11	18.2	9.1	18.2	18.2	18.2	18.2	0.0	0.0	27.3	27.3	

(単位:%)

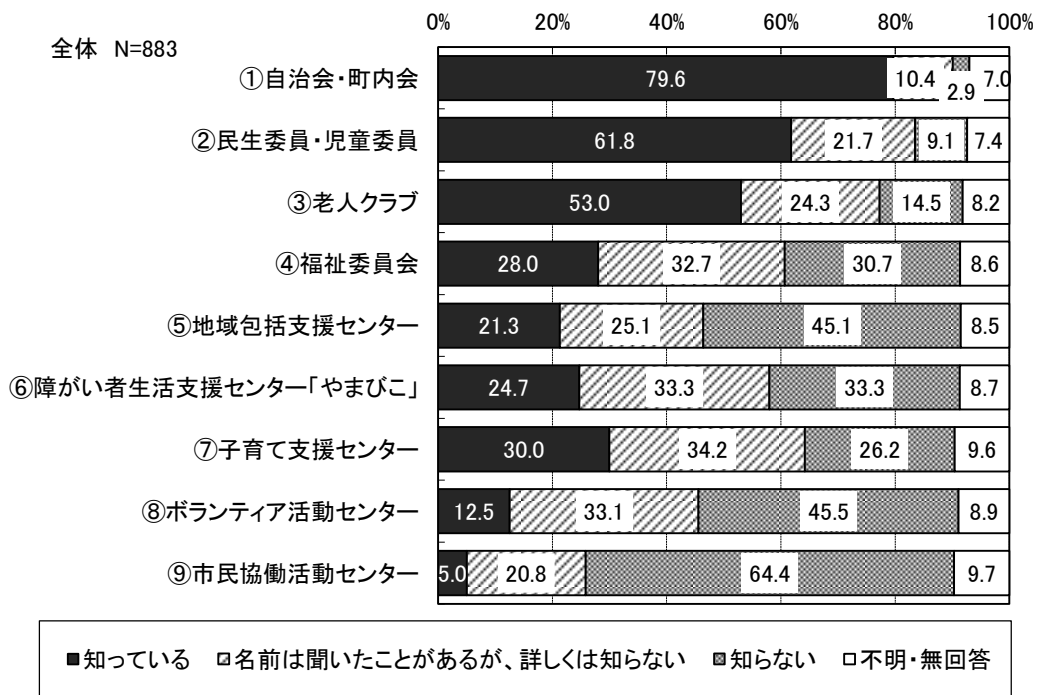
〔調査票/問 21 ①～⑨それぞれ単数回答〕

八幡市には下記のような団体や機関等がありますが、ご存知ですか。

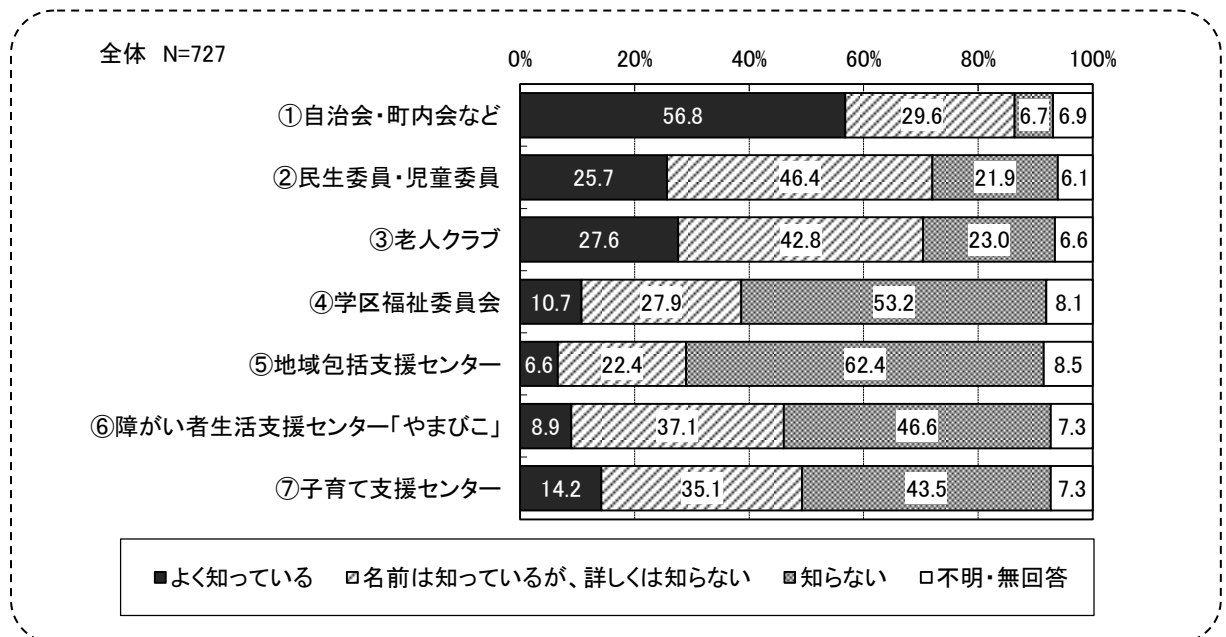
本市の団体や機関等の認知度についてみると、「①自治会・町内会」「②民生委員」「③老人クラブ」において「知っている」が5割以上となっています。

一方で、「④福祉委員会」「⑤地域包括支援センター」「⑥障がい者生活支援センター『やまびこ』」「⑧ボランティア活動センター」「⑨市民協働活動センター」において、「知らない」が「知っている」を上回っています。

前回調査と比較すると、選択肢や名称の表現が多少異なるものの、①から⑦のすべての団体や機関で認知度が向上しています。



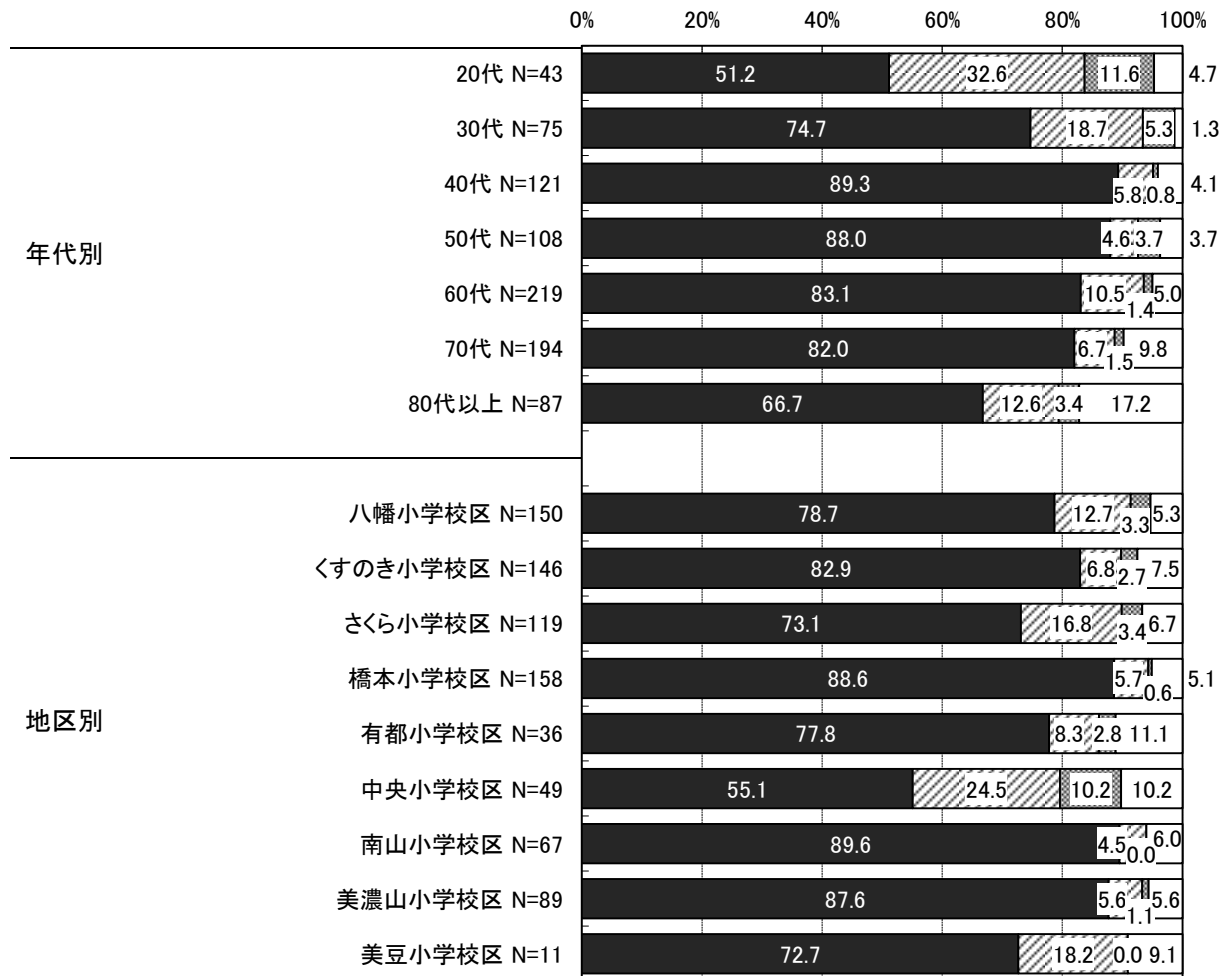
【前回調査結果（参考）】



①自治会・町内会【年代別・地区別】

①自治会・町内会の認知度を年代別で見ると、『40代』から『70代』で「知っている」が8割台と、認知度が高くなっています。一方『20代』では「知っている」が51.2%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が32.6%となっており、詳しくは知らないものの、一定の認知をされていることがわかります。

地区別で見ると、「知っている」は『中央小学校区』で55.1%となっていますが、その他の地区では7割以上となっています。

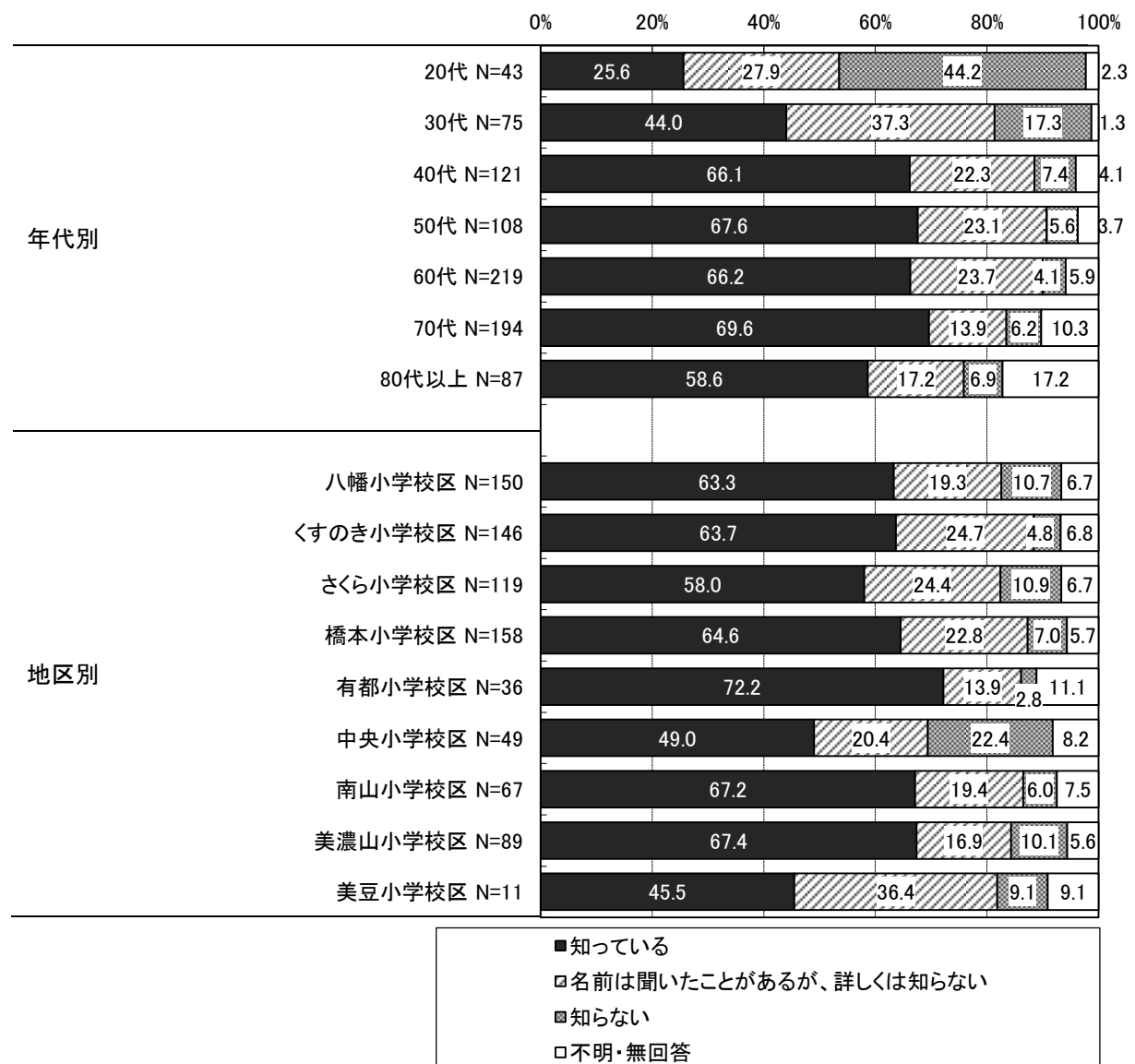


■ 知っている
 □ 名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない
 ▨ 知らない
 □ 不明・無回答

②民生委員・児童委員【年代別・地区別】

②民生委員・児童委員の認知度を年代別で見ると、『40代』以上で「知っている」が5割以上となっており、一方で『20代』では「知らない」が44.2%と、他の年代よりも高い割合となっています。

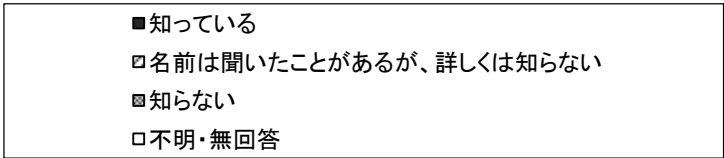
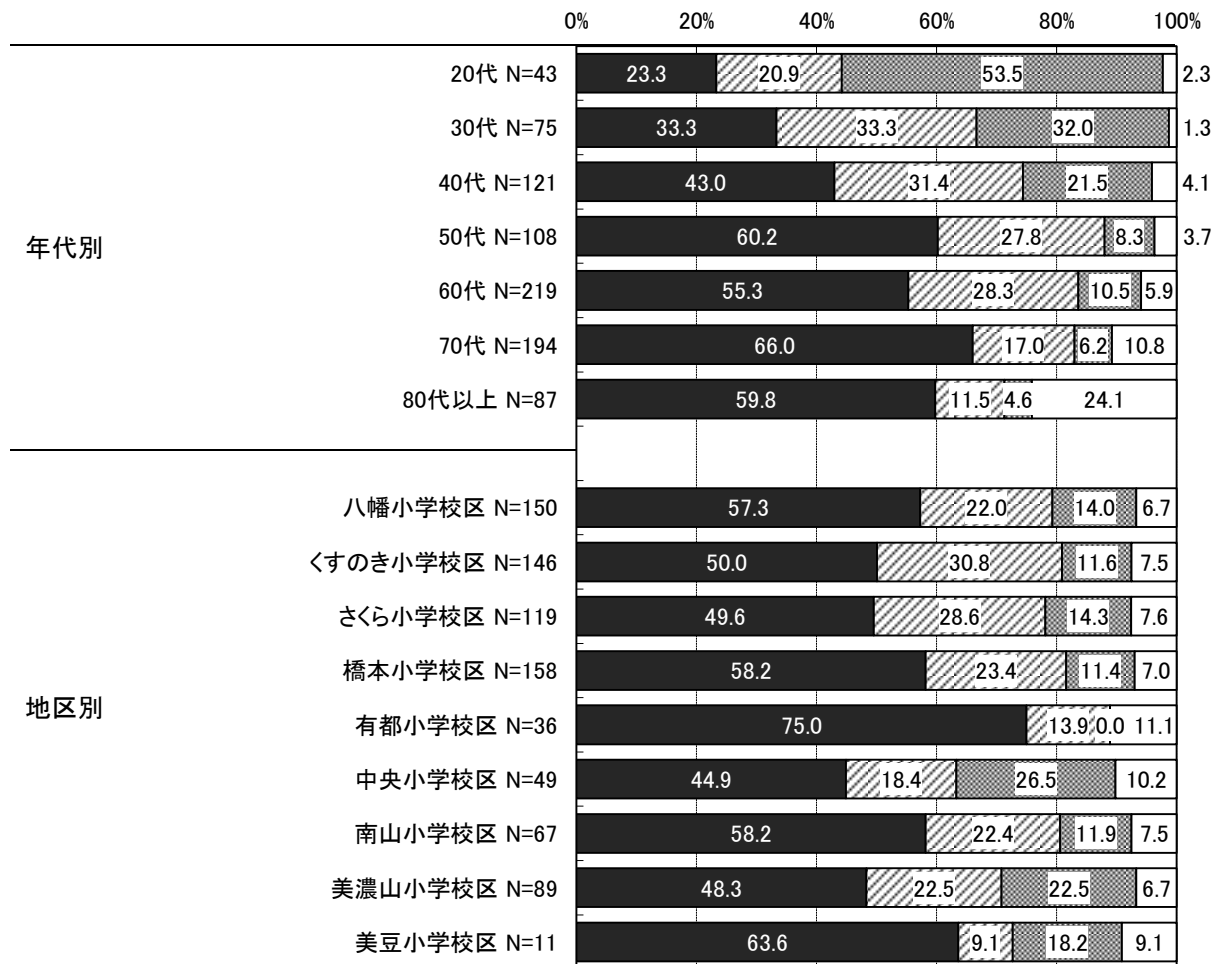
地区別では『中央小学校区』では「知っている」が49.0%と、他の地区と比較して低くなっています。



③老人クラブ【年代別・地区別】

③老人クラブの認知度を年代別にみると、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなっており、『50代』以上では「知っている」が5割以上となっています。

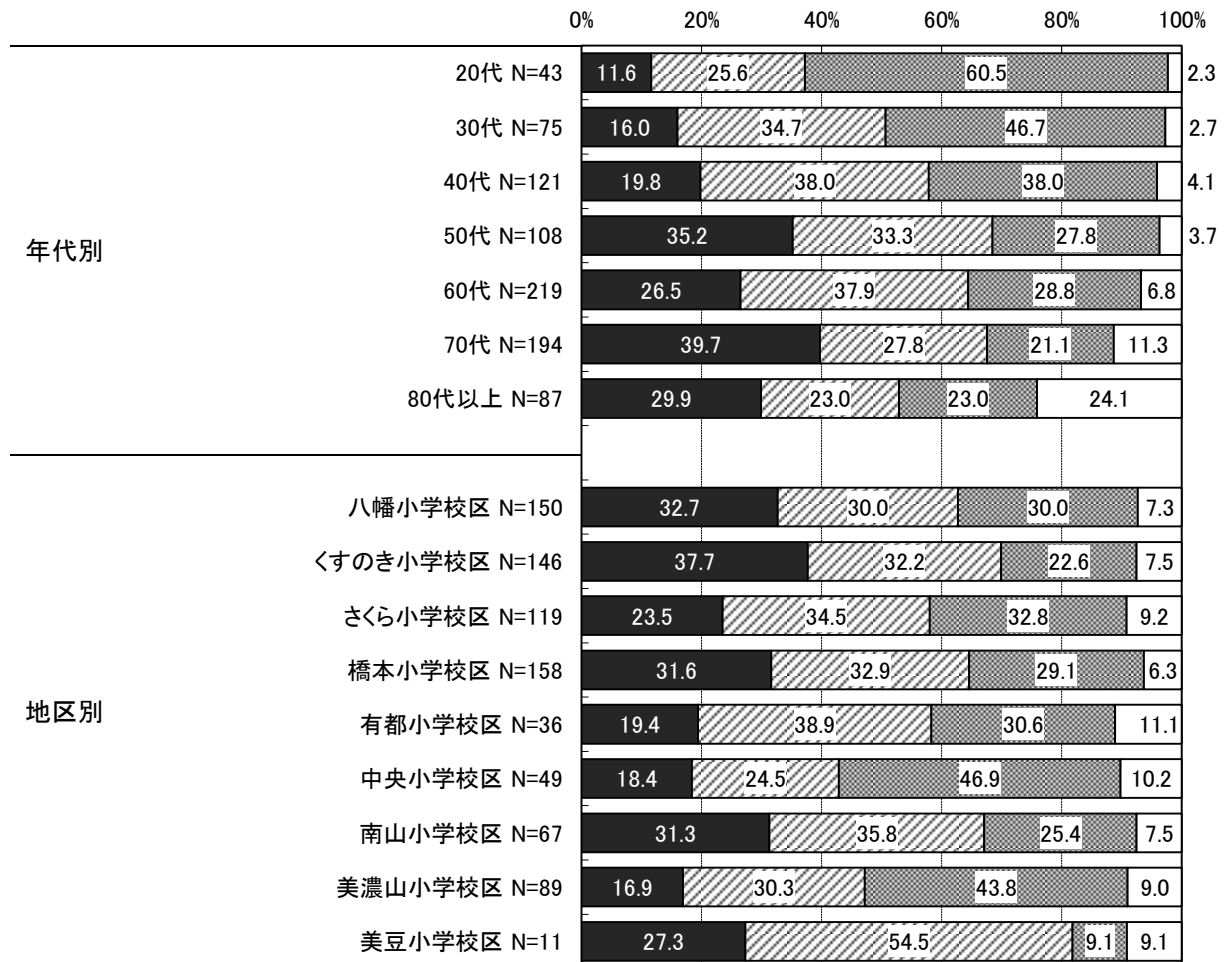
地区別でみると『中央小学校区』『美濃山小学校区』では「知らない」が2割台となっています。



④福祉委員会【年代別・地区別】

④福祉委員会の認知度について年代別にみると、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなる傾向にあり、『50代』『70代』で「知っている」が3割台となっています。

地区別にみると『八幡小学校区』『くすのき小学校区』『橋本小学校区』『南山小学校区』で「知っている」が3割台となっています。



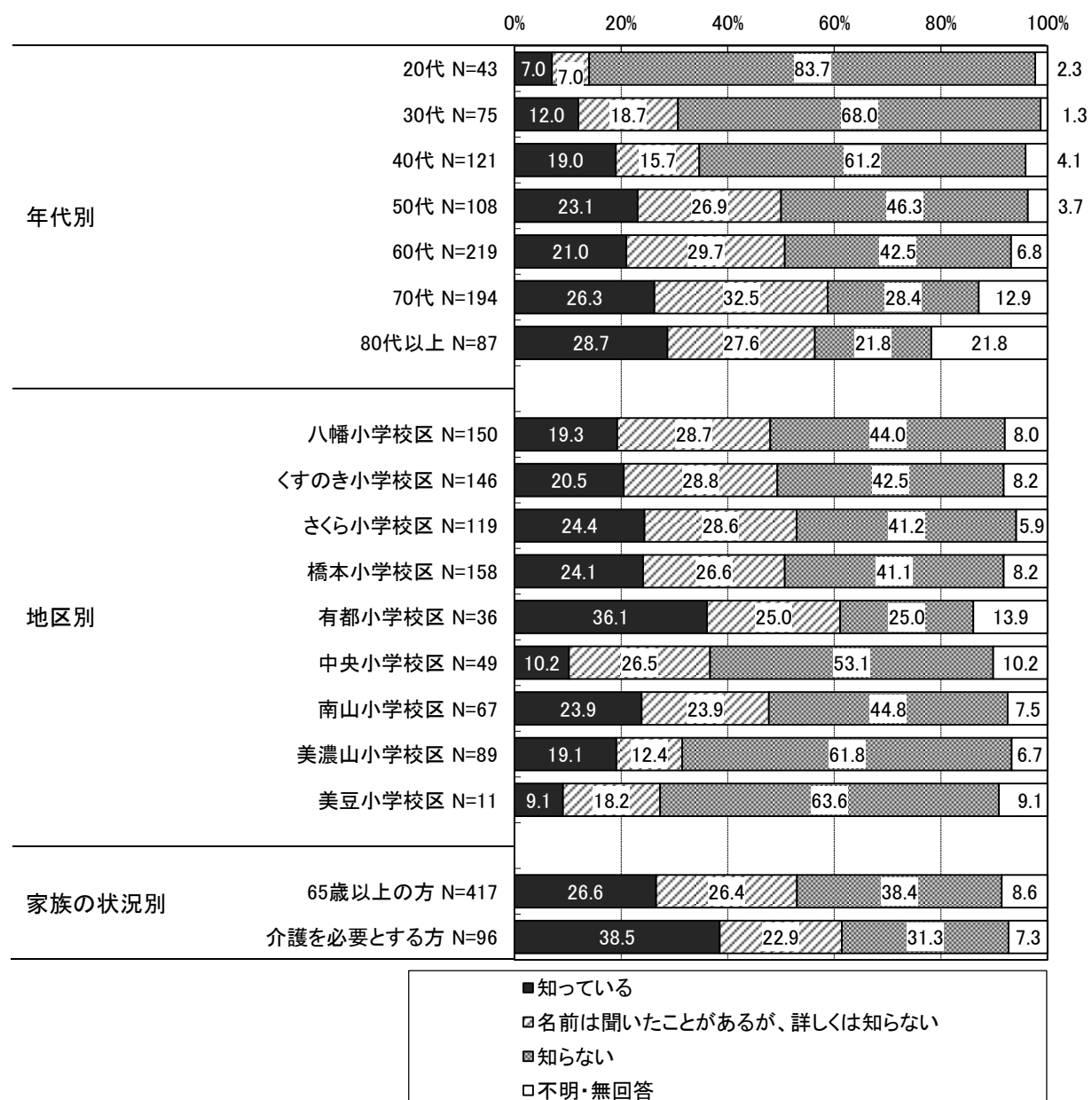
■知っている
 ▨名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない
 ▩知らない
 □不明・無回答

⑤地域包括支援センター【年代別・地区別・家族の状況別】

⑤地域包括支援センターの認知度について年代別にみると、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなる傾向にあります。

地区別では『中央小学校区』『美濃山小学校区』『美豆小学校区』では「知らない」が5割以上となっています。

また、家族（回答者自身を含む）に『65歳以上の方』『介護を必要とする方』がいる場合についてみると、『65歳以上の方』で「知らない」が38.4%、『介護を必要とする方』で「知っている」が38.5%と最も高くなっています。

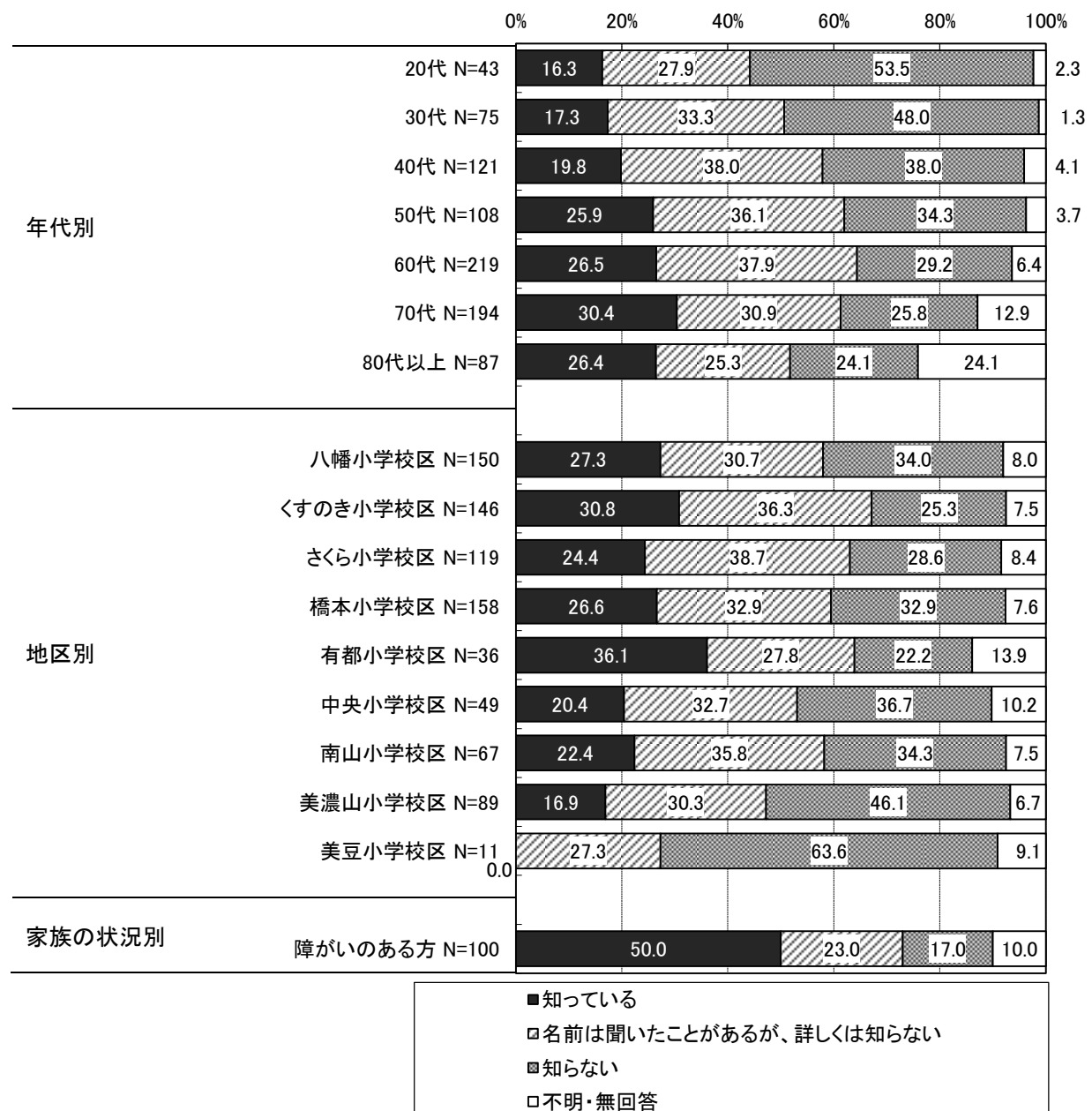


⑥障がい者生活支援センター「やまびこ」【年代別・地区別・家族の状況別】

⑥障がい者生活支援センター「やまびこ」の認知度を年代別にみると、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなる傾向にあります。

地区別にみると『くすのき小学校区』『有都小学校区』で「知っている」が3割台と他の地区と比較して高くなっています。また、障がい者生活支援センター「やまびこ」がある『八幡小学校区』では、「知っている」が27.3%、「名前だけは聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が30.7%、「知らない」が34.0%となっており、他の地区との明確な違いは見られませんでした。

また、家族（回答者自身を含む）に『障がいのある方』がいる場合についてみると、「知っている」が50.0%と最も高くなっています。

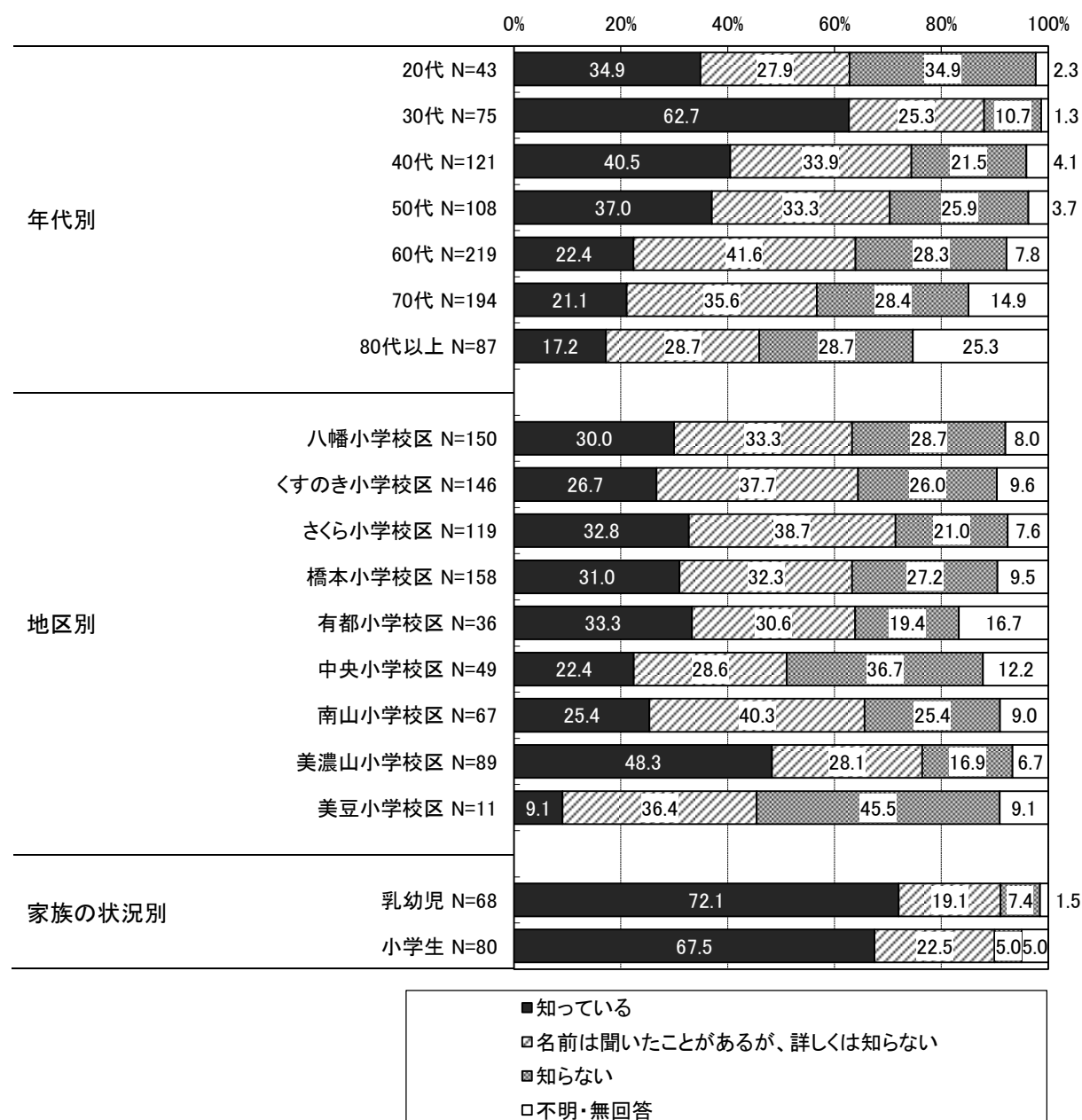


⑦子育て支援センター【年代別・地区別・家族の状況別】

⑦子育て支援センターの認知度を年代別にみると、『30代』で「知っている」が62.7%と最も高くなっており、他の年代と比較しても高い認知度があることがわかります。

地区別でみると、『美豆小学校区』を除くすべての地区で「知っている」が2割以上となっていますが、『美濃山小学校区』では48.3%と他の地区と比較して高くなっています。

また、家族に『乳幼児』『小学生』がいる場合についてみると、ともに「知っている」が6割以上と最も高くなっています。



⑧ボランティア活動センター【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑧ボランティア活動センターについて年代別でみると、『20代』から『40代』では「知らない」が5割以上となっています。

地区別でみると、多くの地区で「知っている」が1割台となっていますが、『有都小学校区』では8.3%、『南山小学校区』では9.0%と、さらに低くなっています。

また、活動参加状況が『活動層』の場合についてみると、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が34.2%と最も高くなっています。

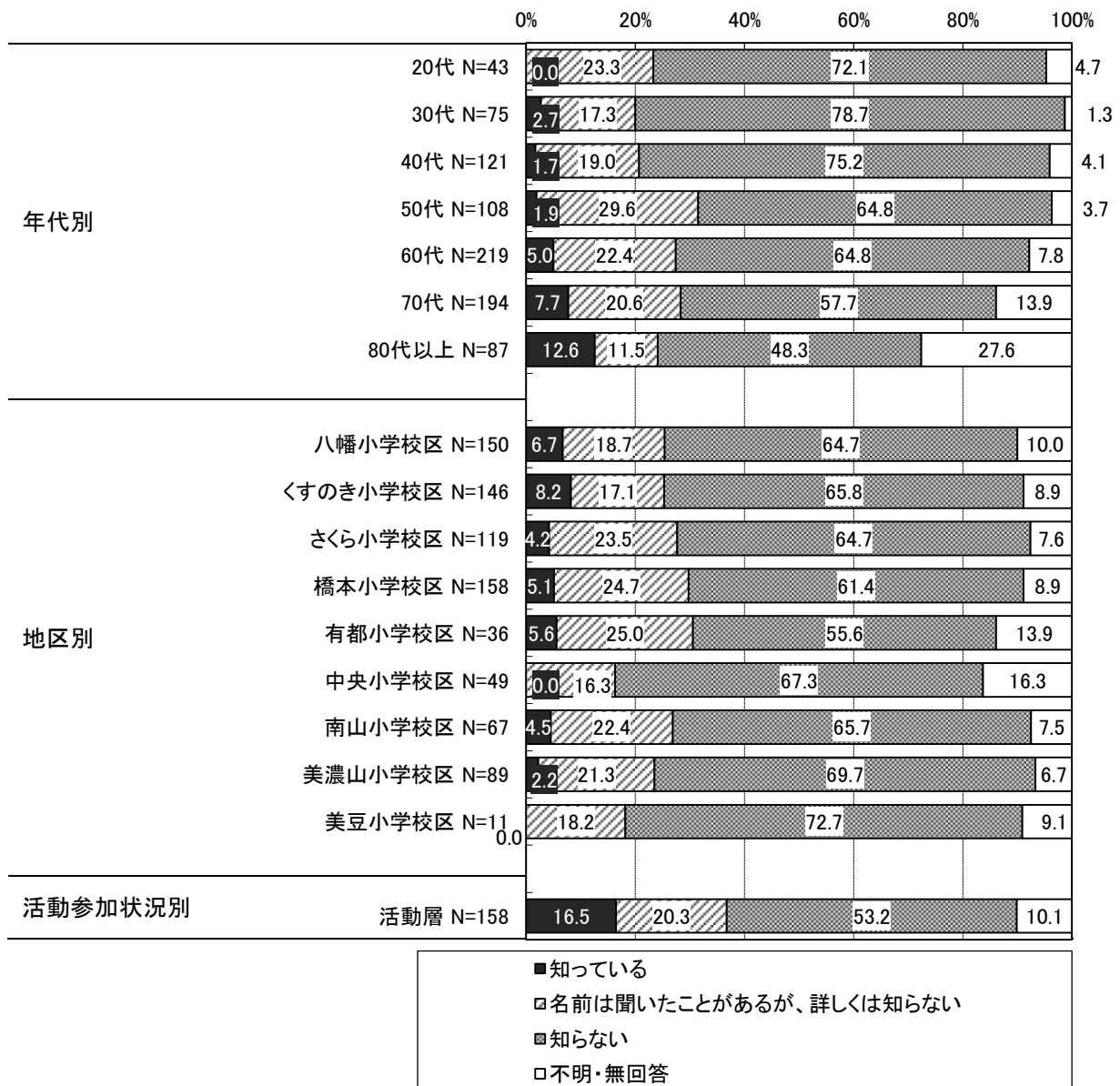


⑨市民協働活動センター【年代別・地区別・活動参加状況別】

⑨市民協働活動センターの認知度を年代別にみると、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなる傾向にありますが、最も認知度が高い『80代以上』でも12.6%と低くなっています。

地区別でみると、すべての地区で「知らない」が5割以上となっています。

また、活動参加状況が『活動層』の場合についてみると、「知らない」が53.2%と最も高くなっています。



IV 自由回答

〔調査票／問 22 自由回答〕

【福祉サービスについて】は施設の整備や利便性、質の向上に関する回答が多く、【相談体制・情報提供について】は相談しやすさや窓口の周知に関する取り組みを求める回答が多くあがっています。その他、児童の支援体制や生活困窮者、防災や災害対策等について回答をいただきました。

【福祉サービスについて】

内容	類似回答件数
子どもや高齢者、障がい者等に関する各施設の整備や利便性、質を向上してほしい	6
高齢者が増加している中で、隣の家族とコミュニケーションが図れるような施設が必要だと思う	1
見守りサービス等を実施することで高齢者が安心できるのではないか	1
介護予防事業の一環として、公園や歩道の整備を進めてはどうか	1
発達障がい児向けの登下校の支援がないのはなぜか	1
今は高齢者夫婦で介護を受けずに暮らしているが、いずれ世話になると思う	1

【相談体制・情報提供について】

内容	類似回答件数
相談先がわからない、知らない人が多いため、対応が必要である	7
一人暮らしの高齢者を把握し、健康づくり等の情報提供、訪問・連絡ができる仕組みを充実させてほしい	3
自ら相談はしづらいので、1世帯ずつの巡回により声かけ相談をしてほしい	2
行政のサービスを広報以外の周知も充実してほしい	2
広報紙や社協だより等は、困っている人の声を聞き必要な情報のみを掲載してほしい	2
市が発信する情報が少なく、ゴミ捨て等の身近な情報がほしい	1
市の相談窓口や地域包括支援センターがどのように連携して相談対応しているのかわからない	1
電話の際の対応（口調や声のトーンなど）を含めて、相談窓口等の利用しやすい環境づくりをお願いしたい	1

【児童への支援体制について】

内 容	類似回答件数
公園の増加、校庭の開放など、子どもが遊べる場所を増やしてほしい	5
子どもに対する社会教育の機会を増やしてほしい	3
不審者が多いため、子どもの安全を守る見回りをしてほしい	2
幼稚園の一時預かりを充実してほしい	1

【生活困窮者について】

内 容	類似回答件数
生活保護費等が適正に支給されるよう、各家庭状況の把握・判断をしっかりと行ってほしい	3
生活困窮が世代間連鎖しないよう、対象者の生活指導が必要である	1

【防災や災害対策について】

内 容	類似回答件数
避難や避難所運営等の災害時のシミュレーションや細かな役割を、一部役員だけでなく、住民までもがわかるようにしてほしい	3
災害等が起きたときに、助け合えるような仕組みが必要	3
災害は行政も市民にも公平に発生するため、日頃から市民目線・生活者目線での行政運営をお願いしたい	1
広報車による勧告が大雨時に聞こえにくかった	1

【医療について】

内 容	類似回答件数
訪問医療を進めてほしい	1
循環器疾患等、医療を充実してほしい	1

【ボランティア・地域活動について】

内 容	類似回答件数
福祉組織を推進するボランティア組織を各地につくってほしい	1
支援してほしい人が多いため、地域に若いボランティアの参加があるとよい	1
地域活動を最初は億劫に感じたが、知り合いができてよかったと感じるため、単発的な参加の機会があるとよい	1
子どもの一時預かり、高齢者に関わる活動、自然保護等のボランティア活動をしたい	1
病院まで連れて行ってってくれるようなボランティアはないか	1
地域組織の役員が固定化して、住民と遠い存在になっている	1

【生活・交通環境について】

内 容	類似回答件数
公共交通機関の充実や、コミュニティバスの運行便数、経路を増やすなど、利便性を高めてほしい	19
ゴミ出しやたばこ、交通等に関するマナー向上やルール改善をしてほしい	11
歩道や道路整備等により、歩行者も自転車も安全で利用しやすい道路にしてほしい	9
住みやすい面もあるが、治安が心配な面もある	7
駅や駅周辺を整備・開発をしてほしい	4
多数の店舗出店により、休日は車が渋滞して困っている	3
川辺環境を清潔でくつろげる場所として活用してほしい	2
スーパーをもっと充実してほしい	1

【行政・施策について】

内 容	類似回答件数
子育て支援や教育の充実、空き家対策等により若い住民の増加を図り、産業を活性化させ定住促進につなげてほしい	4
市民の高い意識とともに、市職員の資質の向上も大切	3
運転免許返納後等の移動対策として高齢者の無料市バス乗車券等のサービスを実施してほしい	3
社会環境の変化に対する市の方針が伝わってこない、地域福祉の方向性を明確にする必要があるのでは	1
夜や土日対応の窓口を駅周辺等に設置してほしい	1
貸出車椅子を市役所に設置してほしい	1

【その他】

内 容	類似回答件数
気軽に参加できるサークル等が増えるとよい	2
1人になった時に、不安や心配ごとがない生活ができればと思う	1
高齢者の二人暮らしで、子どもが返ってくる予定もなく、今後は不安	1
動物の殺処分ゼロをめざしてほしい	1

八幡市 地域福祉に関するアンケート調査 【結果報告書】

発行年月:平成 29 年3月

発行:八幡市 福祉部福祉総務課

〒614-8093 京都府八幡市八幡三本橋 59-9 第二分庁舎

TEL 075-983-1111(代) FAX 075-983-1371

社会福祉法人 八幡市社会福祉協議会

〒614-8022 京都府八幡市八幡東浦 5 福祉会館

TEL:075-983-4450 FAX:075-983-5798